

総務省 情報通信政策局 情報通信利用促進課 委託調査

国内外における 視聴覚障害者向け放送 に関する調査研究

報告書

2006年3月24日

株式会社三菱総合研究所

目 次

1 調査研究の概要	1
2 聴覚障害者アンケート調査結果	3
3 視覚障害者向けアンケート調査結果	30
4 中高年層向けアンケート調査結果	46
5 アメリカ字幕放送等に関する調査	58
6 英国字幕放送等に関する調査	79
7 韓国字幕放送等に関する調査	93
8 中国字幕放送等に関する調査	108
9 国内における字幕放送等の今後の展望	111

参考資料

- 1 米国の字幕、手話、解説放送の歩み
- 2 米教育省が CC 付与を助成した番組（2003 年度）
- 3 米 National Association of the Deaf (NAD) Captioned Media Program 公認の英語
CC 付与サービス提供企業（全米 37 社）
- 4 ウェブキャストのキャプション付与関連機器、ソフト企業

別紙

- アンケート調査票

1 調査研究の概要

1-1 調査研究の背景

我が国では、1997年5月の「字幕番組・解説番組の放送努力義務の創設等を内容とする放送法等の一部改正」や同年11月の郵政省（当時）による「字幕放送の普及目標」、2001年以降のNHK及び地上波キー局・準キー局等による自主的な字幕拡充計画の策定、更にはそれ以前の1993年度からの字幕番組・解説番組・手話番組の制作費に対する助成制度などにより、字幕放送等は順調に拡大している。

2004年度の字幕放送の放送時間をみると、NHKでは総合テレビの総放送時間の35.5%（前年は33.8%）、教育テレビの同26.8%（前年は22.4%）民放キー局5局では同22.3%（前年は16.9%）、準キー局では同18.0%（前年は15.1%）が字幕付きとなっており、前年から伸びていることが判る。

一方、2004年度の総放送時間に占める解説放送の割合はNHK総合テレビで3.2%、教育テレビで7.9%、キー局で0.2%、準キー局で0.9%と字幕放送に比べると付与率は低いものの、何れも前年度よりは伸びている。他方、手話放送については、平成16年度の放送の割合はNHK教育テレビで2.1%、キー局及び準キー局で0.1%と、横這いである。

このように、字幕放送を中心に付与率が高まってきた視聴覚障害者向け放送であるが、三つの側面から再度検討を行うことが必要な段階に来ている。

一つは、制度的側面である。前記「字幕放送の普及目標」は、達成年度を2007年度に設定しており、これが近づいていることから、この目標の達成状況の分析等を行い、計画の評価を行うと共に、必要に応じて次フェーズ計画を準備することが必要となる。

二つ目は、字幕等の付与率の遅れである。上述の通り、字幕等の付与率は改善しており、「普及目標」で設定された2007年度の達成目標（NHKは41.9%¹、民放キー局は概ね28.0%～37.1%）を達成すること自体は不可能ではないと思われる。しかし、この目標自体が欧米の実態に比べるとやや低く設定されたものであり、米国の90%という字幕付与率の実態（ネットワーク番組の放送時間に占める割合）、英国の同50%程度等に比べると、我が国の字幕等付与率が立ち遅れていることは否めない。

三つ目は、環境変化である。まず、日本社会における高齢化が急速に進展しており、今後、字幕等に対する社会的ニーズがますます拡大することが予想される。このため、字幕放送等はもはやユニバーサルサービスやデジタルデバインドといった文脈で語られる、一部の視聴覚障害者向けサービスというよりは、より広い国民層に対する必需サービスと変わりゆく可能性がある。続く環境変化としては、放送のデジタル化がある。字幕放送等の拡充は、字幕コンテンツの拡充と、字幕放送受信機の普及を両輪として推進されるものであ

¹ 同目標では、「全放送時間」に占める割合と、「字幕付与可能放送時間」に占める割合の二種類を目標として設定している。NHKの例では、前者の2007年度の達成割合を100%、後者を41.9%と設定している。

るが、地上波放送のデジタル化は両方に影響を与える。コンテンツ拡充面では、デジタル化により、デジタル放送のメリットを活かした字幕等が可能となる可能性がある。受信機普及の面では、2011 年度末までに全てのテレビ受信機またはチューナーがデジタル放送受信用のもの買い換えられることになるため、文字放送受信機の普及促進に影響が及ぶ可能性がある。環境変化としては更に、技術革新がある。例えば、2001 年からはニュース番組のリアルタイム字幕化が実用化されているが、こうした字幕放送等に関する技術革新が起きている点も、今後の字幕放送の拡充に影響を与える可能性がある。

1-2 調査研究の目標

本調査は、以上のような背景を受けて、今後、総務省としての新たな視聴覚障害者向け放送に関する施策立案等に資するために、基礎資料として、視聴覚障害者向け放送を取り巻く実態を把握することを目的に実施したものである。

特に、国内の視聴覚障害者によるテレビ放送の利用状況や要望、中高年層等による視聴覚障害者向け放送の認知状況や今後の利用可能性、及び海外（米国、英国、中国、韓国）における視聴覚障害者向け放送の実態及び制度的背景等を明らかにすることを目的とした。

1-3 実施内容

本調査で実施した内容は、以下の通り。

- 国内聴覚障害者アンケート調査
- 国内視覚障害者アンケート調査
- 国内中高年層アンケート調査
- 米国の字幕放送等に関する調査
- 英国の字幕放送等に関する調査
- 韓国の字幕放送等に関する調査
- 中国の字幕放送等に関する調査
- 国内における字幕放送等の今後の展望に関する調査

2 聴覚障害者アンケート調査結果

2-1 アンケート調査概要

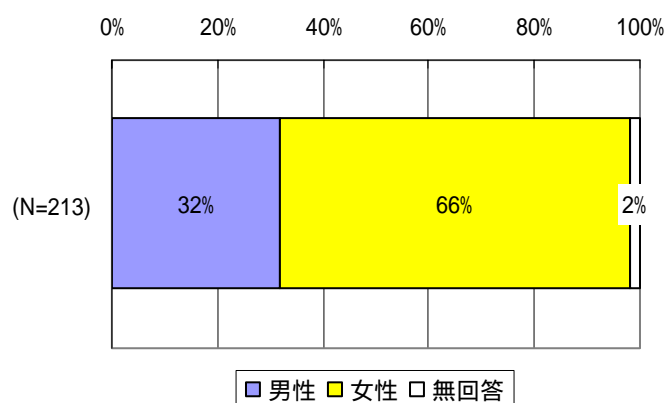
実施期間：2006年2月28日～2006年3月10日
対象地域：全国7大都市圏（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）
配布対象者：聴覚障害者450名（聾啞者150名、中途失聴・難聴者300名）
配布方法：聾啞者については財団法人全日本聾啞連盟の依頼を受けて各地区の聾啞者団体が、また中途失聴・難聴者については社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の依頼を受けて各地区の難聴者・中途失聴者団体が、それぞれ回答者を選定し、各団体から各回答者に郵送または直接手渡しで配布。返送は郵送。
配布内訳：聾啞者、中途難聴者・失聴者の双方において、配布対象者は以下のようなよう配布を行った。
男女比＝1：1（全国の聴覚障害者の男女比に合わせて）
年齢構成：50歳未満が約15%、50歳以上が約85%となるよう（全国の聴覚障害者の男女比に合わせて）
地域別：上記7地域それぞれにおいて7分の1ずつ

2-2 調査結果

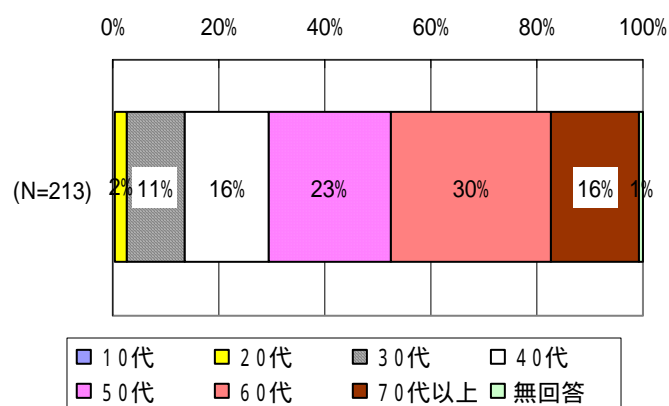
回収数は213（回収率＝47.3%）であった。

2-2-1 回答者属性

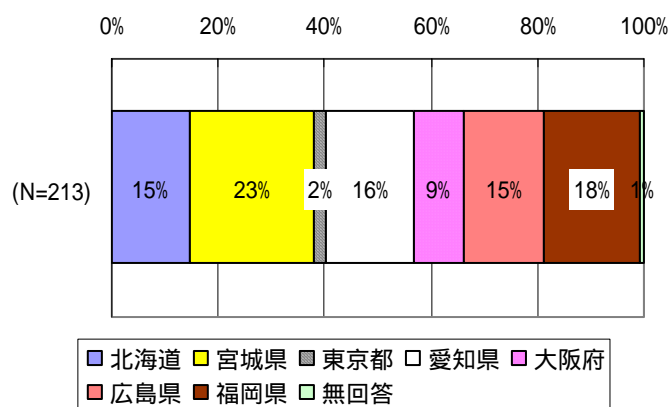
（1）性別



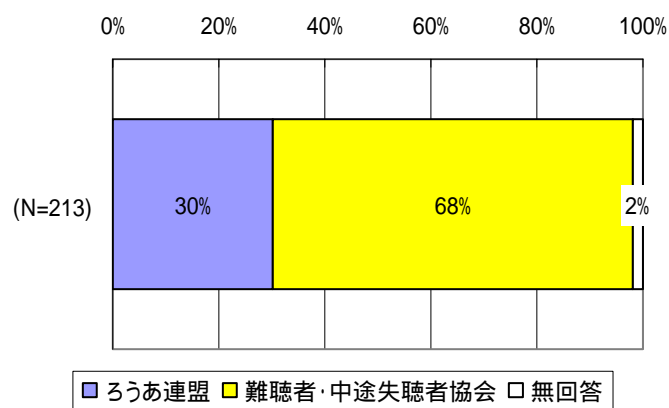
(2) 年齢



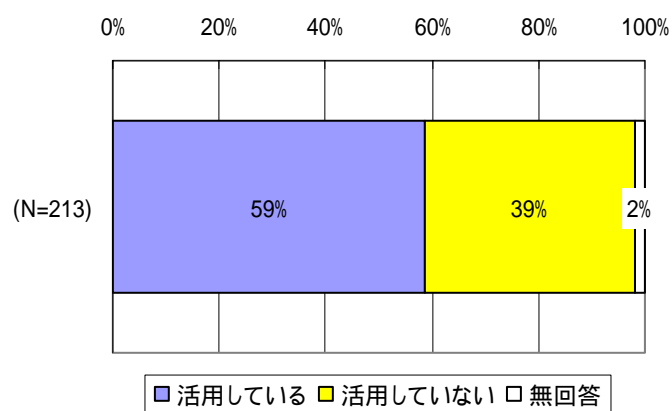
(3) 居住地



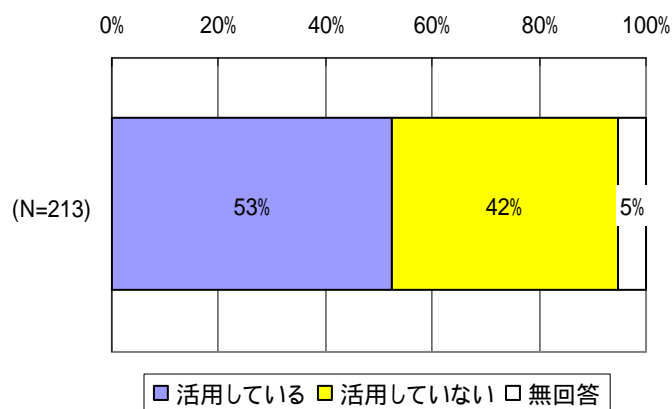
(4) 所属団体



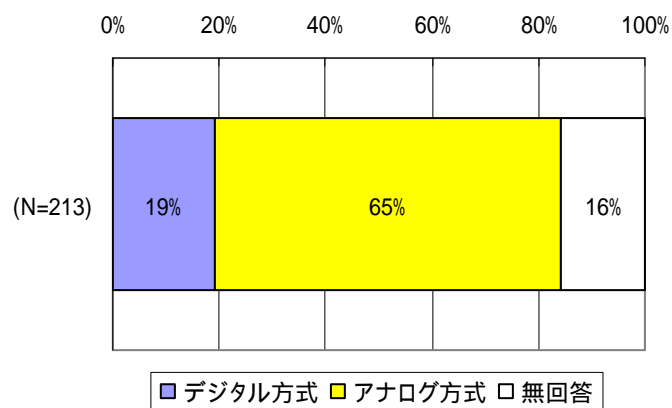
(5) パソコンの活用状況



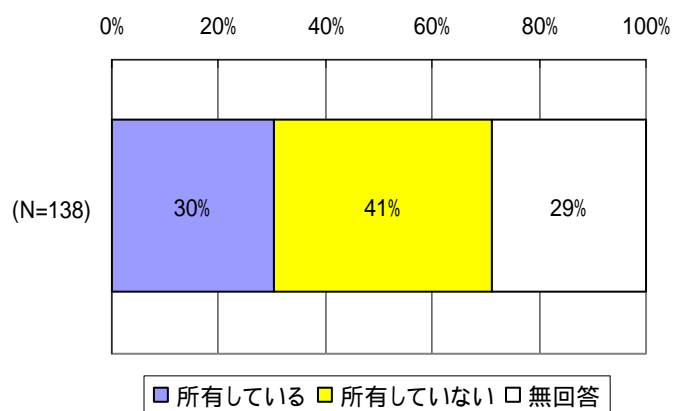
(6) インターネットの活用状況



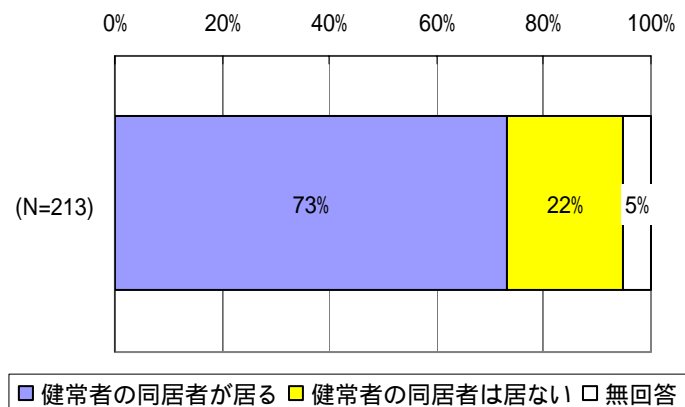
(7) テレビ受信機がデジタル方式かアナログ方式か



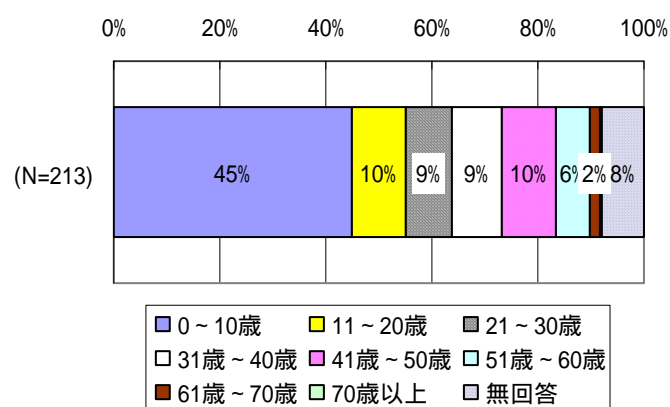
アナログ式受信機の場合のクローズドキャプション受信機の有無



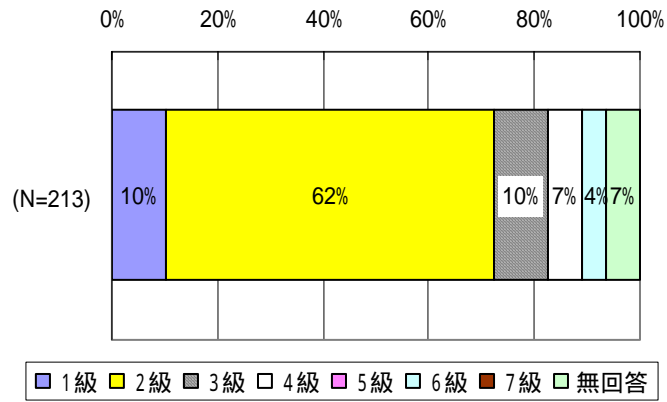
(8) 同居している健常者の有無



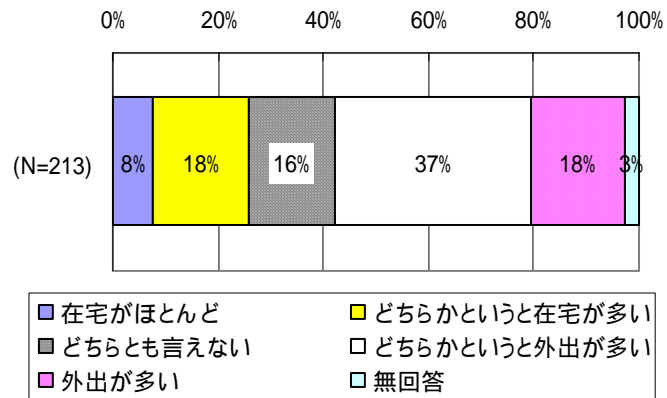
(9) 失聴年齢



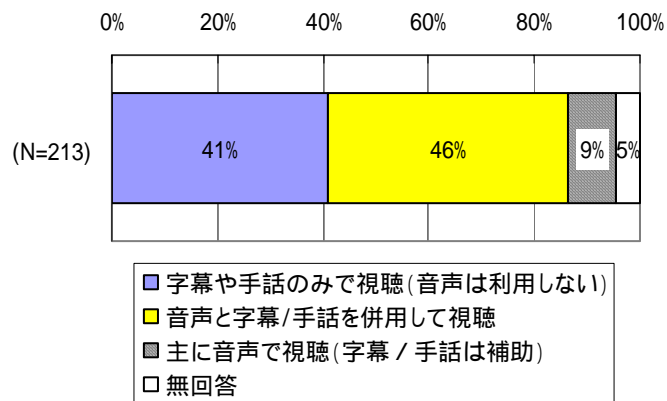
(10) 障害級数



(11) 普段の生活様式 (在宅中心か、外出中心か)



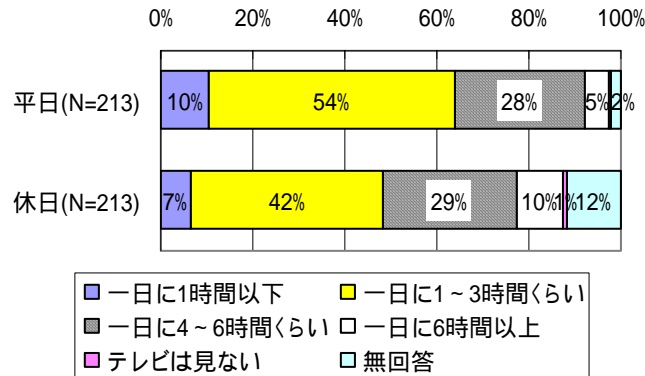
(12) テレビ視聴における、音声と字幕/手話に対する依存度



2-2-2 一般的なテレビ番組及び字幕・手話番組の視聴状況

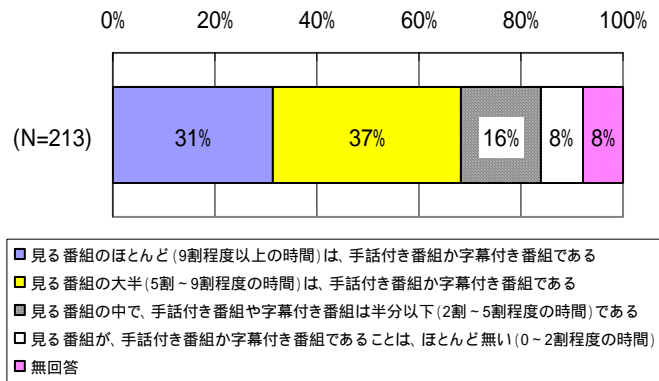
(1) 普段のテレビ視聴時間

以下のように、1日1～3時間という回答が最も多く、平日については54%、休日については42%となっている。



(2) 字幕付き番組と手話番組の視聴状況

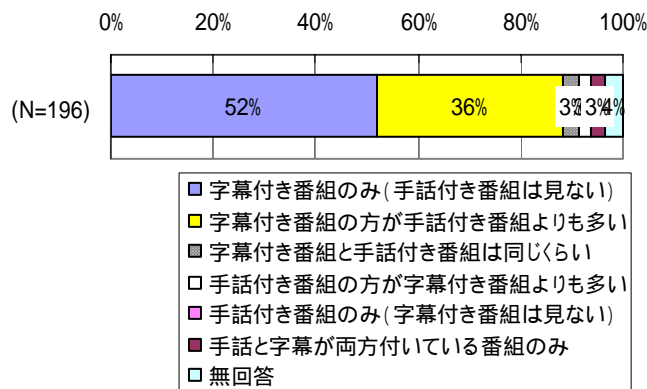
以下のように、「見る番組のほとんど(9割以上)は手話または字幕番組」という回答と、「見る番組の大半(5割～9割)は手話または字幕番組」という回答を合わせると、全体の68%の回答者が、手話番組または字幕番組をよく見ていると判る。



(3) 手話と字幕の視聴割合

以下に示すように、手話番組と字幕番組の両者を比較した場合、字幕番組の方を手話番組よりも多く視聴するという回答が全体の88%に達する。また、全体の52%は、字幕番組

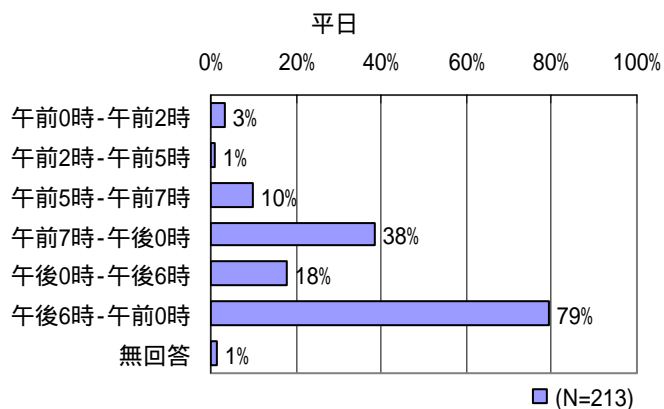
は視聴するが手話番組は視聴しないと回答しており、この結果からは字幕の方が多く利用されている傾向が伺える。

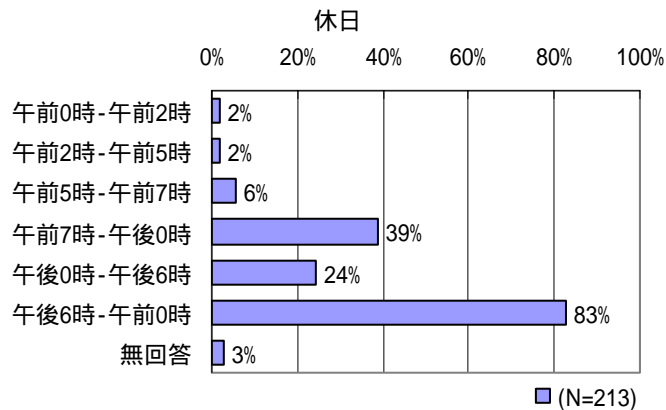


2-2-3 テレビ視聴の時間帯

普段のテレビ視聴の時間帯については、以下に示すように、「午後6時～午前0時」が圧倒的に高い割合となり、続いて「午前7時～午後0時」が高いことが判った。

なお、現行の字幕放送普及行政指針では、対象とする放送時間帯を「午前7時から午後12時まで」と定めているが、この時間帯以外でテレビが視聴されている時間帯としては、午前5時～午前7時で、平日では10%、休日では6%の回答者が視聴していることが判る。

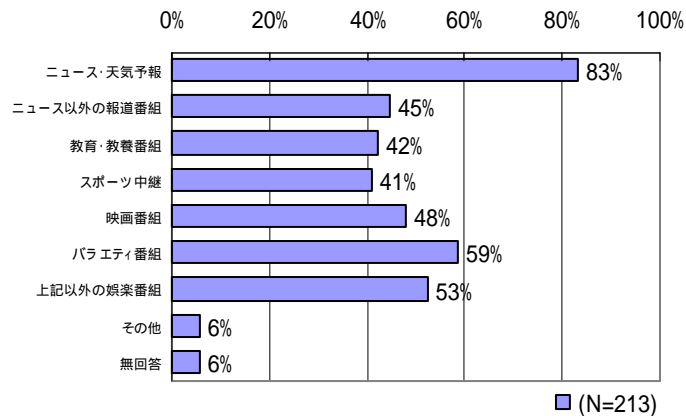




2-2-4 視聴するテレビ番組のジャンル

(1) 普段よく見るテレビ番組のジャンル

普段よく見るテレビ番組のジャンルとしては、ニュース・天気予報が 83%の回答者によって見られており、次いでバラエティ番組 (59%)、「その他娯楽番組 (ドラマ、アニメ等)」 (53%)、「映画番組」 (48%) となっていることが判った。



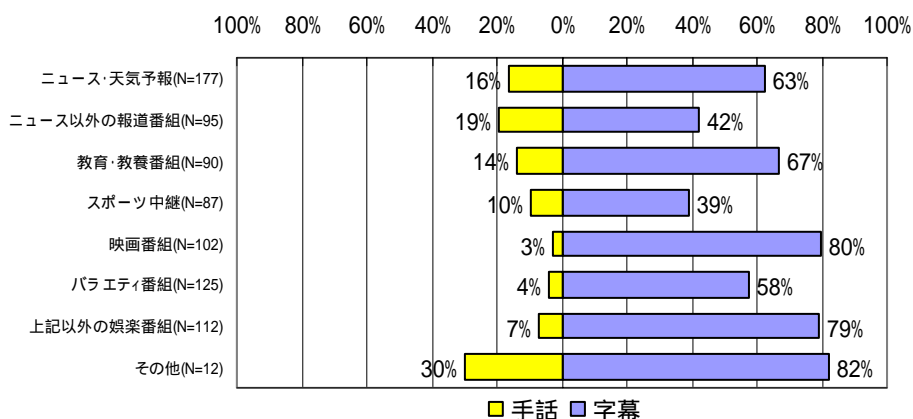
(2) ジャンル別にみた視聴番組の字幕/手話割合

聴覚障害者が番組視聴を行う場合、字幕付きで見ているケース、手話付きで見ているケース、それに手話・字幕無しで見ているケースの3通りが考えられる。

そこで、「普段良く見る」とした番組ジャンルについて、時間にしてどのくらいの割合を字幕付きまたは手話付きで見ているかという点を検討した。

その結果、以下のように、「その他娯楽番組 (ドラマ、アニメ等)」、「映画番組」や、「教

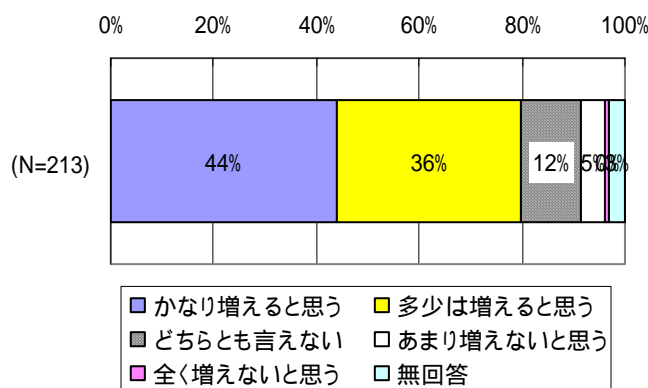
育・教養番組」、「ニュース・天気予報」については、字幕か手話付きで見ている割合が高く（例えば「その他娯楽番組（ドラマ、アニメ等）」については字幕付きで見ている割合が79%、手話付きで見ている割合が7%で、全体の86%が字幕か手話付きで見ている）、一方、スポーツ中継番組は字幕または手話付きで見ている割合が合計49%と、半数以上が字幕も手話も付いていなくても視聴していることが判った。



2-2-5 字幕や手話付き番組と今後のテレビ視聴の関係

(1) 字幕付き番組と今後のテレビ視聴の関係

以下に示すように、字幕付き番組が増えればテレビ視聴が増えるという割合は、「かなり増えると思う」及び「多少は増えると思う」を合計すると80%に上り、「あまり増えないと思う」及び「全く増えないと思う」の合計である5%を大きく上回る。



「かなり増えると思う」、「多少は増えると思う」と回答した理由としては、例えば以下のような意見が挙げられている。

- ・ 家にはテレビが一つしかなく家族と見ると字幕なしのバラエティ番組となってしまう、声が全く聞こえない私は楽しめないから現在みていないが、字幕が付けば今後一緒にみると思う。
- ・ 見たい番組でも字幕が付いていないとあきらめている。

「どちらとも言えない」と回答した理由としては、例えば以下のような意見が挙げられている。

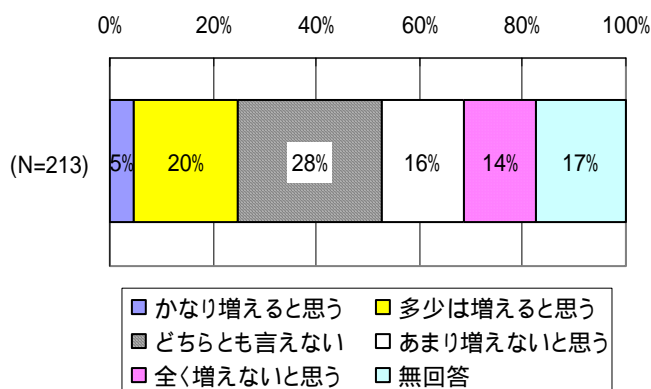
- ・ 興味のある内容なら見るが、字幕つきでも興味がなければ見ない。
- ・ 字幕を見ていると、映像が目に入らない。字幕の字の色によっては文字も読み取れない。
- ・ 個人的に忙しく TV 番組を見るゆとりはなし、テロップが増えてきているので逆にテンポの遅い字幕がうっとうしいこともある。あってもなくても同じ。

「あまり増えないと思う」、「全く増えないと思う」と回答した理由としては、例えば以下のような意見が挙げられている。

- ・ 見たいものが決まっているので、字幕があるなしに関わらずニュースなどは見るので増えるとは思えない。
- ・ 日中仕事をしているので、家に帰ってから見るだけ。今のところ自分の見たいものには字幕が付いている。
- ・ 目を酷使するので年齢的に字幕を読むもの疲れる。見辛い字幕もある。

(2) 手話付き番組と今後のテレビ視聴の関係

以下に示すように、手話付き番組が増えればテレビ視聴が増えるという割合は、「かなり増えると思う」及び「多少は増えると思う」を合計すると 25% に上る反面、「あまり増えないと思う」及び「全く増えないと思う」の合計も 30% に達する。



「かなり増えると思う」、「多少は増えると思う」と回答した理由としては、例えば以下のような意見が挙げられている。

- ・ 字幕放送は、字が早く消えて読めないときがある。字が小さい。

- ・手話は瞬間的には助かるが、長い番組になると適確に読み取りについて行けず、疲れて見落とし、理解が不十分になる。手話もありがたいが、文字をつけてもらえば確認できて内容理解がアップする。
- ・報道ステーション、ニュース23等生放送のニュースは字幕だと言葉と文字が一致せず遅れたりして画面の内容と字幕が一致しない。手話通訳による生中継の方がリアルタイムに近い報道が出来ると思う。ろう向けの手話と対应手話の両方でやってほしい。

「どちらとも言えない」と回答した理由としては、例えば以下のような意見が挙げられている。

- ・通訳者の使う手話表現が見やすく読みやすければいいが、その人によってバラツキがあると思うので増えるとは言えない。
- ・手話通訳の画面が小さくて見にくい。どうにも見る気が起こらない。
- ・手話をみていると番組の方を見落とすのであまり見ない。

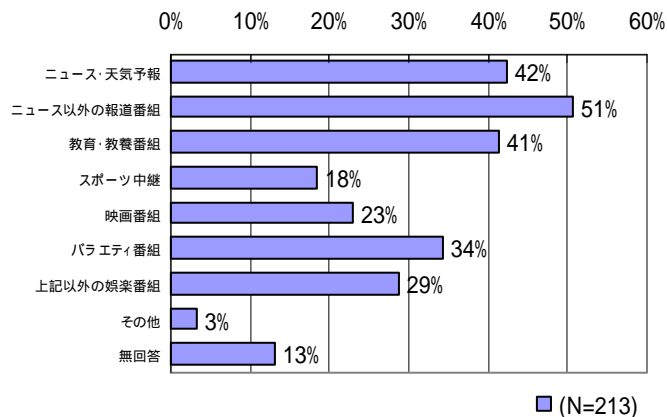
「あまり増えないと思う」、「全く増えないと思う」と回答した理由としては、例えば以下のような意見が挙げられている。

- ・手話は完全にマスターしないと理解はムリ。新しい手話なども知っていないとわからない。その時事にあった手話も理解していないとよめないわからない。
- ・地域によって手話が違うのでよく分からない事もあるが、手話にばかり目が行くと周りの状況がよく分からなくなるのでおもしろくないから。
- ・手話(ワイプ)を見ていると画面が見られない。複数の人の話は手話では理解しにくい。
- ・手話は個人差があり、意識されている。伝達度字幕 90%、手話 60%といわれている。
- ・手話のスピードが速くて分からない。

2-2-6 字幕や手話付き番組を増やして欲しい番組ジャンル

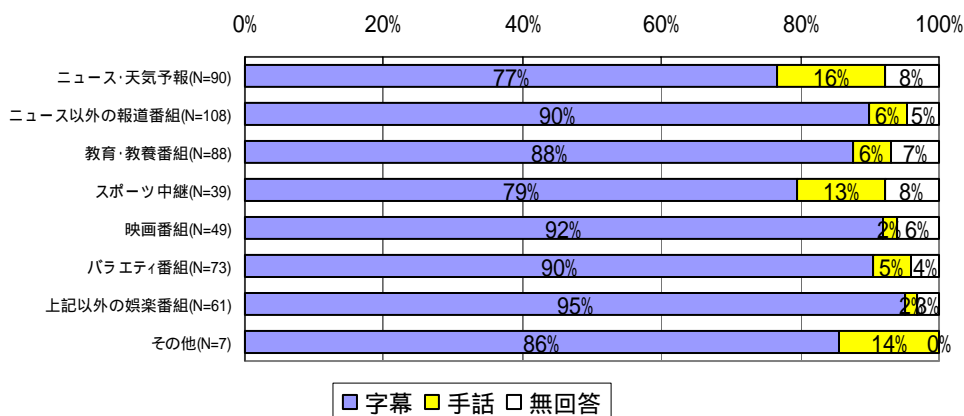
(1) 字幕または手話を付き番組を増やして欲しいジャンル(回答者ごとに三つまで選択)

以下に示すように、ニュース以外の報道番組(ニュース解説、討論、ワイドショー等)の割合が最も高く51%となっており、次いでニュース・天気予報と教育・教養番組が42%で並ぶ結果となっている。スポーツ中継は、2-2-4で述べたように、現状として字幕・手話無しでも視聴している割合が最も高いジャンルであるが、今後も字幕・手話の付与要望が最も低く18%であった。



(2) 字幕と手話のどちらを付与すべきか

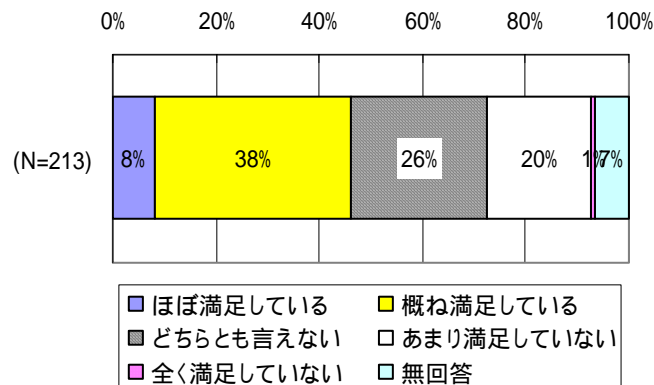
字幕か手話を付与して欲しい番組ジャンルについて、字幕と手話のどちらを付与して欲しいかという点については、以下のように各ジャンルとも、字幕の方を要望する割合が高いという結果が得られた。



2-2-7 字幕・手話の見易さ、判りやすさ

(1) 字幕の見易さ(字の大きさ、明るさ、位置等)

字幕自体の見易さ(字の大きさ、明るさ、位置等)については、以下のように、「満足」と「概ね満足」の合計が、全体の半数弱の46%という結果となった。



「あまり満足していない」、「全く満足していない」を選択した回答者は、その理由として以下のような点を挙げた。

文字化けがする

- ・ テレビ局によって文字化けがある。
- ・ 時々変な記号がでてくるのでは意味がわからない。
- ・ 突然判読できない文字になったり切れて出てこなくなったりすることがある。

途切れる

- ・ 途中で字幕が途切れる（続きが出ない）
- ・ 民放はCMの時間になると途中で字幕を流さなくなってしまうことがある。

画面との関係で見づらい

- ・ テロップと重なって見づらいことがある。
- ・ 画面に重なる字幕は見づらい点がある。

色などで見づらい

- ・ 字色が見えにくい。
- ・ メーカーにもよるが画面が白いと字幕が読み取れないことがある。
- ・ 人によって字幕の色を変えているがそれが逆に見づらい時もある。
- ・ 登場人物の色分けがあいまい。（TV局によって違うので統一して欲しい）

スピードが早すぎる/遅すぎる

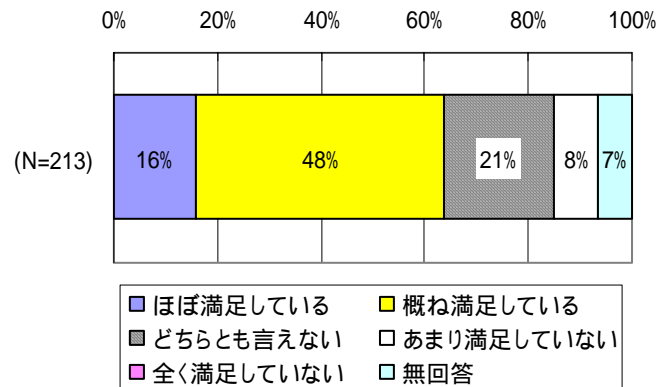
- ・ 字幕が出ててもすぐ消えるので読み取りが難しい。
- ・ リアルタイム字幕は文字の出方がまずい。1字だけ残して次の画面へいったり、「ん？」となることが多い。少し改善していただきたい。
- ・ 手話通訳はほとんど同時性なのに対して、字幕は遅くなくても仕方ないけどあまり遅れて字幕が出ると次のセリフの口の動きと違ってイライラする。

大きさに問題

- ・ 字が細かい。

(2) 字幕の判り易さ

字幕の判りやすさ（表示されている文字は読み取れても、その意味が伝わるかという点）については、以下のように、「満足」と「概ね満足」の合計は64%という結果となった。



「あまり満足していない」、「全く満足していない」を選択した回答者は、その理由として以下のような点を挙げた。

内容の正確さに欠ける/意味不明になる

- ・ 実際の発声（音声）と異なる内容がある。（語尾の「です、ます」が違う。単語が分かりやすい言葉に変えられているなど）
- ・ とんでもない文字化けがたまにある。字幕だけでは全く意味がつかめない番組がたまにある。

部分的に字幕が付かない

- ・ 特にインタビューやコメントするときの字幕が見つからないのでわかりにくい。（大切なところが抜けたのと同じ）

早すぎる/遅すぎる

- ・ 早く消えて読み取れない。画面と字の色が同じで見にくい。
- ・ 字幕がなかなか出てこなくてやっと出たと思ったら読みきらないうちにさっと変わってしまう場合が結構ある。
- ・ あまりにも会話そのものが出るが字数が多すぎてすべて読めない
- ・ 会話がはずんでいるのに字が変わらず表示されないのでつまらない。

言葉の選択に問題（ふりがなを含む）

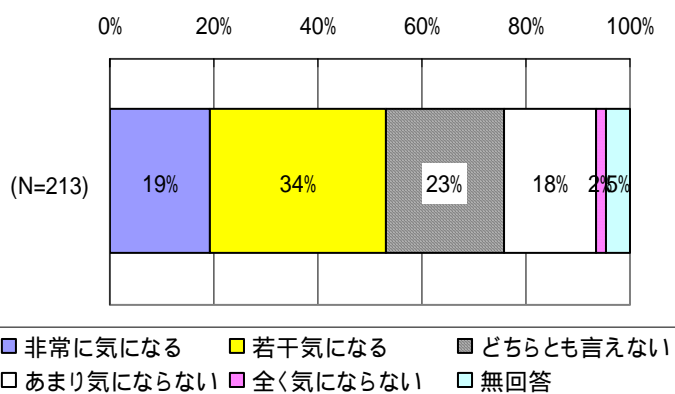
- ・ 分かりにくい言葉がある。
- ・ 文字が出て人の名前にふりがなが付かないとどう読むかわからない場合がある。例えば姉齒（あねは）か（あねし）か。読み間違えて恥じを掻いてしまう。

誰の台詞か判らない

- ・ 二人会話。どちらが話しているのかわからない時があり、二人の字色を区別してもらえると良い、

(3) 生放送の字幕におけるタイムラグ

生放送に字幕を付与する場合、字幕が画面に現れるのは、実際に喋られている時点から少し遅れてからとなるが、この点が「非常に気になる」割合と「若干気になる」割合を合計すると53%という結果となった。



「非常に気になる」、「若干気になる」を選択した回答者は、その理由として以下のような点を挙げた。

画面の情報/雰囲気と合わない

- ・ 笑いが起こったものの、笑いがおさまった後で字幕が出たため、内容がつかみにくなる
- ・ 誰の発言なのかわからない。
- ・ 補聴器で聞いている音とズレるので。

途切れる

- ・ 言葉の最後がCMなどでできて内容がわからない。
- ・ 今の順序より遅れるとずれて読むし、間に合わなかったところは表示されない。

むしろ邪魔

- ・ 言っている事(写っているところ)が違ってくるとわからなくなる。生放送の場合はつけなくていいと思う。
- ・ テロップの方がリアルタイム。それをわざわざ字幕で隠すことは、テロップが何を出しているかわからないので気になる。あとで字幕が出る出ないがあって、字幕なしが良いと思うことがある。早急に改善されたい。

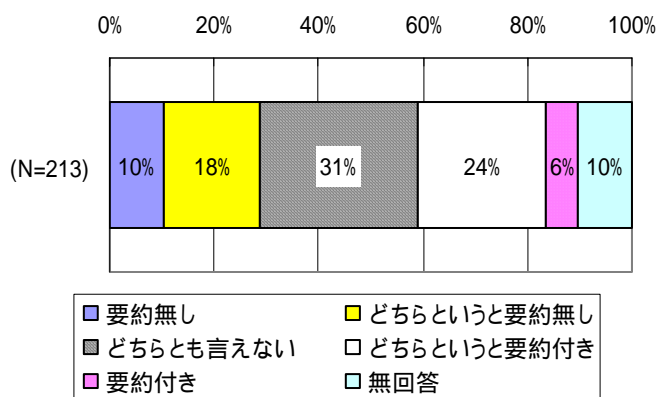
仕方が無い

- ・ 気になっても仕方がないと思う。

- ・ 報道の時は仕方ないと思うが、天気予報とか映像と字幕がズレ過ぎると全体を把握できない。
 - ・ 画面に合わせた字幕にしてほしいが、現実的に無理だと思うので手話通訳がいいと思う。
- 転換ミス等
- ・ 文字の変換間違い、単語の分かれも気になります。
 - ・ 字幕の遅れというより文字のつながりが分かりにくい。

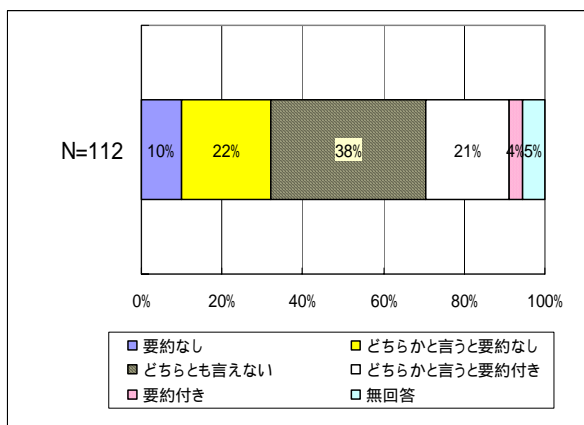
(4) 字幕における要約について

字幕を要約せずにそのまま表示するケース（ニュース等の生放送番組で実施）と、ある程度要約してから表示するケース（生放送以外のほとんどの番組で実施）の、どちらが望ましいかという点については、「要約無し」「どちらかというと要約無し」の合計 28%と、「要約付き」「どちらかというと要約付き」の合計が 30%と、ほぼ並ぶ結果となった。

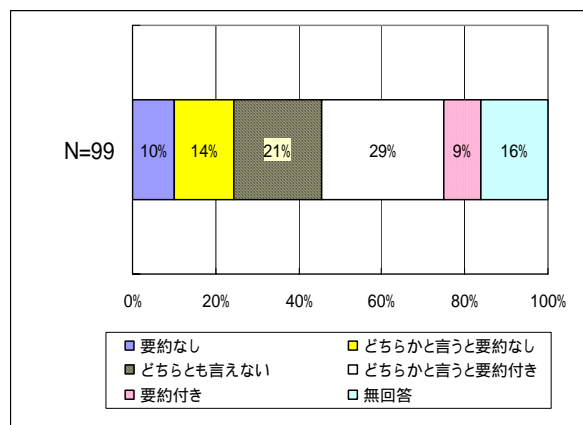


なお、この点について、年齢別、障害の度合いや発症年齢別に分けて集計したところ、以下のような結果となった。

(50 歳代以下)

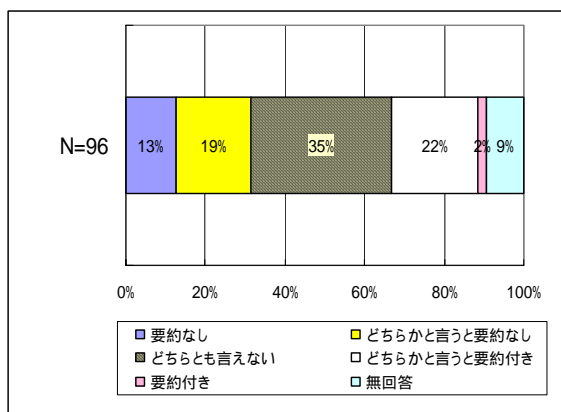


(60 歳代以上)

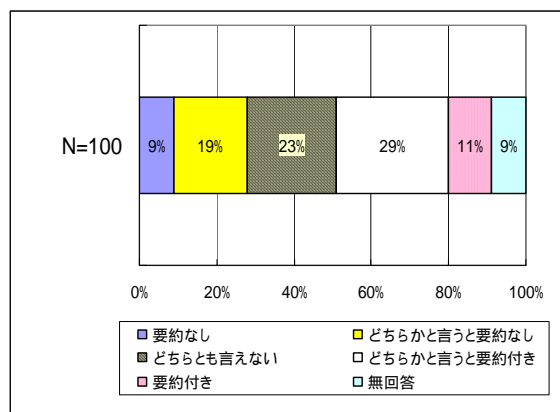


まず、年齢別にみると、50歳代以下では「要約無し」「どちらかというと言約無し」の合計が32%に対して、「要約付き」「どちらかというと言約付き」の合計が25%であり、一方の60歳代以上では「要約無し」「どちらかというと言約無し」の合計が24%に対して、「要約付き」「どちらかというと言約付き」の合計が38%であることから、年齢が高くなると要約を望む割合が高くなる傾向にあることが判る。この理由については、年齢が高い方が速いスピードの字幕を目で追うことが負担になる（従って要約を望む）からではないかと推測することができる。

(10歳以下で失聴)

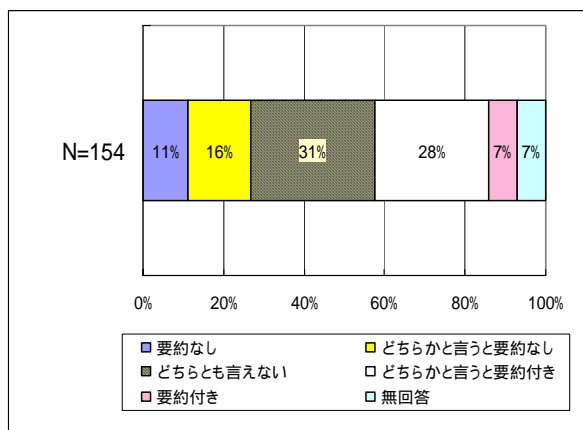


(11歳以上で失聴)

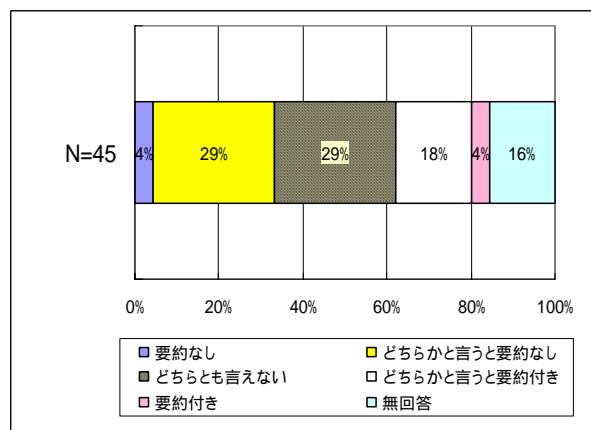


続いて、失聴年齢別にみると、10歳以下で失聴した層では「要約無し」「どちらかというと言約無し」の合計が32%に対して、「要約付き」「どちらかというと言約付き」の合計が24%であり、一方の11歳以上で失聴した層では「要約無し」「どちらかというと言約無し」の合計が28%に対して、「要約付き」「どちらかというと言約付き」の合計が40%であることから、失聴年齢が高いほど要約を望む割合が高くなる傾向にあることが判る。この理由は、早くから失聴されている層の方が、速いスピードの字幕を目で追うことに慣れている（従って要約へのニーズが低い）ことが一因ではないかと思われる。

(障害1級~2級)



(障害3級以下)



一方、障害の程度別にみると、1 級～2 級の層では「要約無し」「どちらかという要約無し」の合計が 27%に対して、「要約付き」「どちらかという要約付き」の合計が 35%であり、一方の 3 級以下の層では「要約無し」「どちらかという要約無し」の合計が 33%に対して、「要約付き」「どちらかという要約付き」の合計が 22%であることから、障害レベルが重いほど要約を望む割合が高くなる傾向にあることが判る。この理由は、障害レベルが低い方はある程度（難聴ではあっても）耳からも聞き取ることができ、耳から入ってくる情報と、要約された字幕のギャップが気になるからではないかと思われる。

なお、同居健常者の有無による違いも分析したが、要約を望む割合と望まない割合は、同居健常者の有無によって差は出なかった。

また、この設問における記述回答としては、主に以下のようなものが挙げられている。

「要約なし」または「どちらかという要約無し」が望ましい理由

- ・ 音声分かるので要約されると分からなくなる。
- ・ 要約は言葉の意味を取り違えて受け取りやすい。
- ・ 要約すると、出演者の人間性が失われる。
- ・ 生の声が聞こえる気がする。
- ・ 要約のない方が確実に伝わる。要約されていると要約者の考えが入る。
- ・ 必要があれば要約してもいいが、基本的には要約なしのほうが相手のニュアンスがわかりやすい。
- ・ 要約の仕方により受け取る意味が違う場合があるので、要約技量の問題です。
- ・ トーク番組やバラエティ番組だとタレントが言ったコメントそのものの内容はきちんと表示してほしい。要約されて面白さが半減したり、好きなタレントが言った言葉を要約されてつまらない思いはしたくない。
- ・ ニュースはともかく、トーク番組などでは語り手の言葉そのものを知りたいものではないか。

「どちらとも言えない」場合の理由

- ・ 要約の方が分かりやすいと思うがタイムラグが出る。リアルタイムの雰囲気の方が大事で、ある程度の誤字はやむなしと思うが、あまり誤字が多いと全然内容がつかめない時もある。
- ・ しゃべる速さそのまま字幕が出ると読む速さがおいつかない場合がある。出来るだけ要領よくというのが希望です。

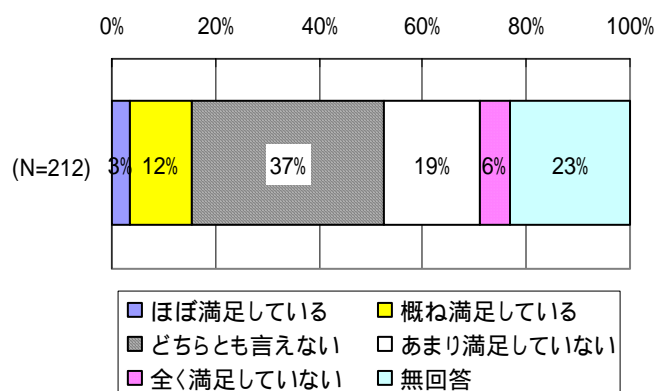
「どちらかという要約付き」「要約付き」が望ましい理由

- ・ ある程度要約しないと読みきれない。画面をみるゆとりがなくなる。
- ・ 生放送も要約して字幕として下さると助かる。
- ・ 全文表示した場合変換のスピードに追いつけない。大切な伝えたい事のみを要約して頂

ければ難聴の視聴者も楽に見ていける。

(5) 手話付き番組における手話の見易さ・判りやすさ

手話については、「満足」と「概ね満足」の合計が 15%という結果が得られ、「あまり満足していない」と「全く満足していない」の合計 25%を下回る結果となった。



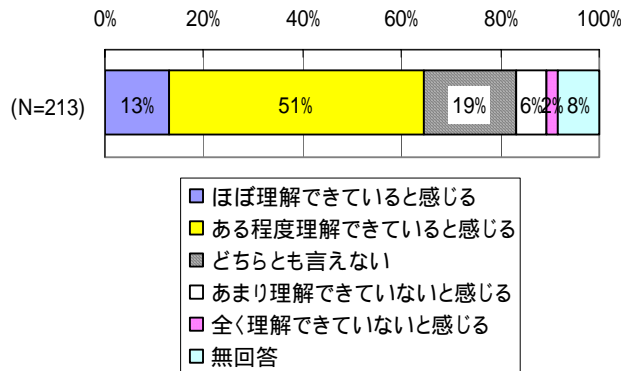
「非常に気になる」、「若干気になる」を選択した回答者は、その理由として以下のような点を挙げた。

- ・ 言葉を早く言われると手話も早くなり単語だけ読み取るしか出来ず何を言っているの?となります。
- ・ 手話の表現が地方の表現と違うときがあり読み取りが難しい。
- ・ 手話の画面小さすぎ。
- ・ 口語もつけてほしい。黙ったままの手話は判断出来ない事が多い。
- ・ 要約しすぎて内容が十分伝わらない。

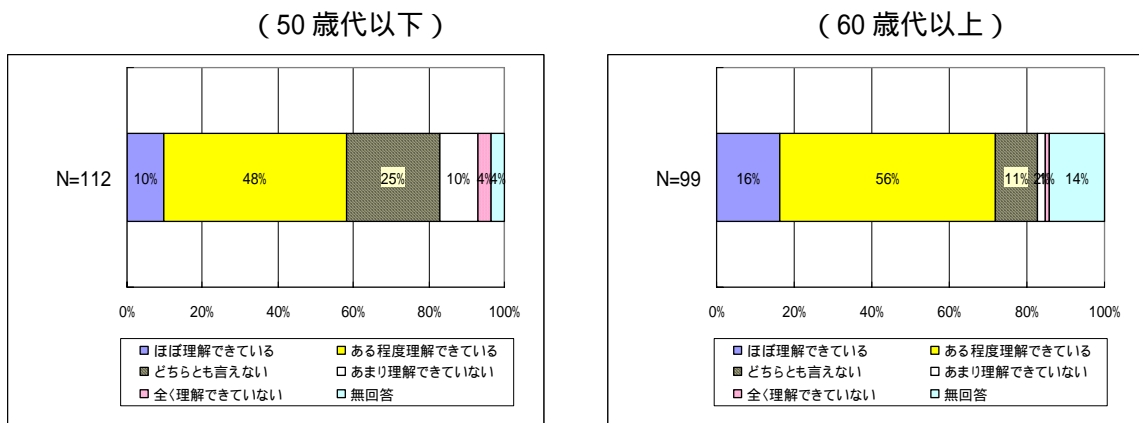
2-2-8 オープンキャプション・テロップについて

(1) ニュースや情報番組の場合

ニュースや情報番組で、番組内容説明のために利用される文字情報(テロップ)により、聴覚障害者が番組内容をどの程度理解できるようになっているか、という点について、64%の回答者が「ほぼ理解できていると感じる」、「ある程度理解できていると感じる」と回答した。

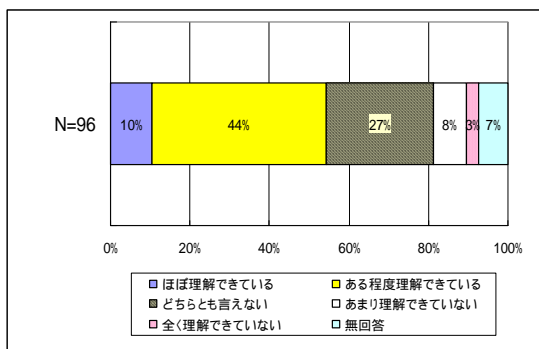


なお、この点について、年齢別、障害の度合いや発症年齢別等に分けて集計したところ、以下のような結果となった。

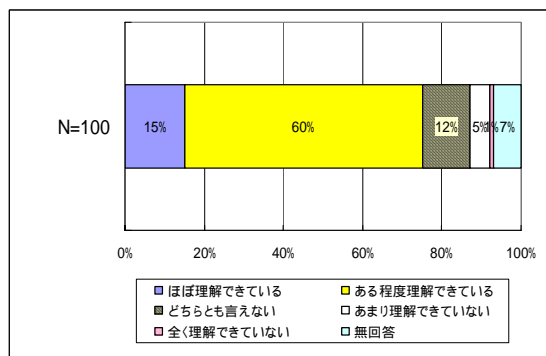


まず、年齢別にみると、50歳代以下では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が58%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が14%であり、一方の60歳代以上では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が72%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が3%であることから、年齢が高くなるとオープンキャプション・テロップ（以下OC）で満足する傾向が高まることが判る。この理由については、年齢が低い方がOCでカバーされないニュースの細部に対するニーズが高いのではないかとということや、年齢が低い方がテレビを主な情報源と位置付ける割合が高いのではないかと推測することができる。

(10歳以下で失聴)

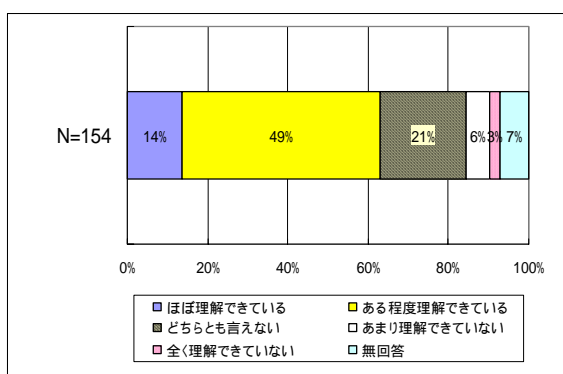


(11歳以上で失聴)

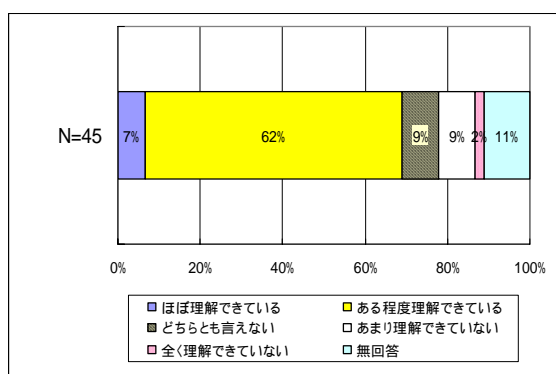


続いて、失聴年齢別にみると、10歳以下で失聴した層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が54%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が16%であり、一方の11歳以上で失聴した層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が75%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が6%であることから、失聴年齢が高いほどOCで満足する傾向が高まることが判る。

(障害1級~2級)

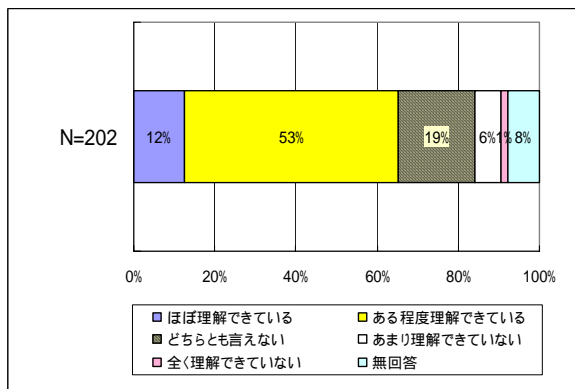


(障害3級以下)

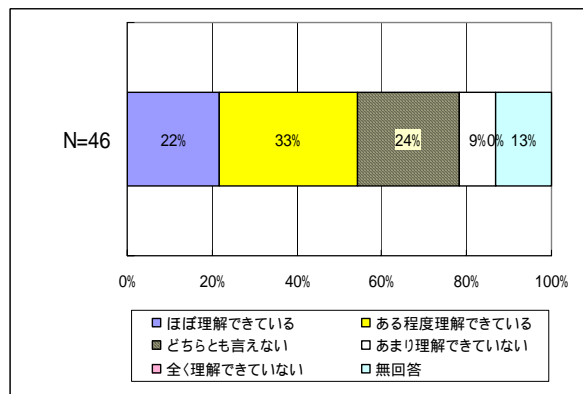


一方、障害の程度別にみると、1級~2級の層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が63%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が9%であり、一方の3級以下の層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が69%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が11%であることから、障害レベルが重いほどOCによる満足・不満レベルとも低くなる傾向にあることが判った。

(同居健常者が居る)



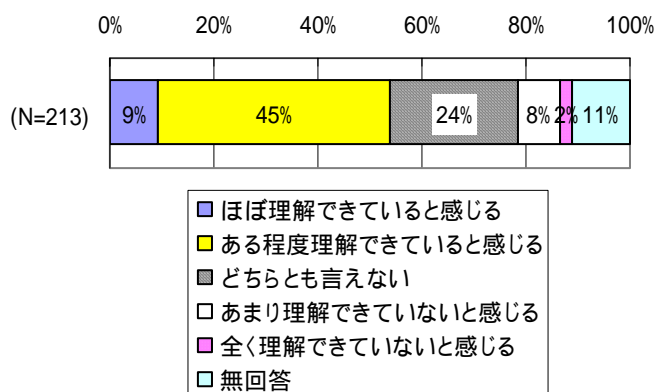
(同居健常者は居ない)



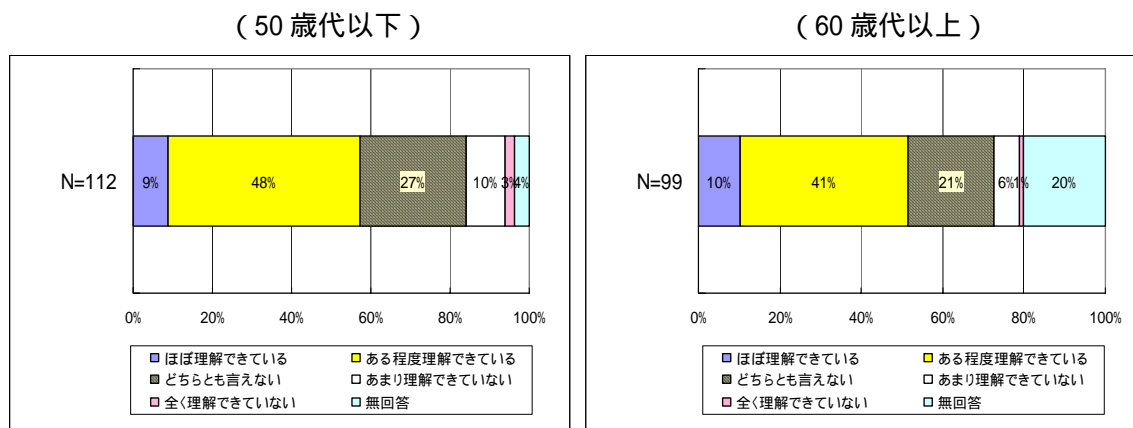
他方、同居健常者の有無別にみると、同居健常者が居る層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が 65% に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が 7% であり、一方の同居健常者が居ない層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が 55% に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が 9% であることから、同居健常者が居ないと OC による理解が低下する傾向にあることが判った。この理由は、健常者が居る場合は、OC で不足する情報を健常者に聞くなどして入手することができるが、健常者が居ない場合はそのようなことができないためではないかと推察される。

(2) 娯楽やバラエティ番組の場合

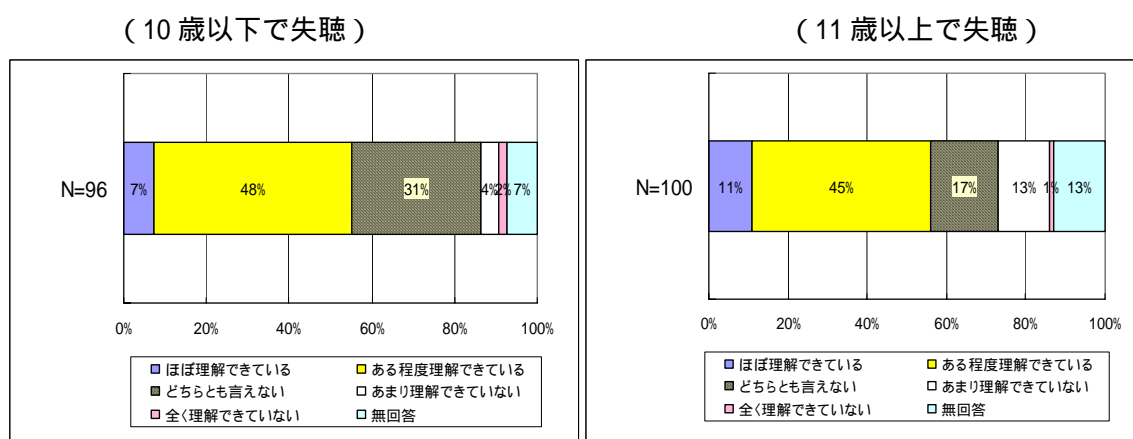
娯楽やバラエティ番組で、演出効果や番組内容説明のために利用される文字情報（テロップ）により、聴覚障害者が番組内容をどの程度理解できるようになっているか、という点について、54%の回答者が「ほぼ理解できていると感じる」、「ある程度理解できていると感じる」と回答した。



なお、この点について、年齢別、障害の度合いや発症年齢別等に分けて集計したところ、以下のような結果となった。



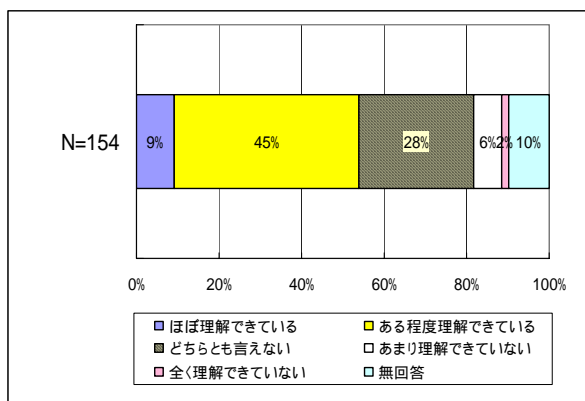
まず、年齢別にみると、50歳以下では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が57%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が13%であり、一方の60歳以上では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が51%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が7%であることから、年齢が低くなるとOCで満足する傾向、不満となる傾向ともに高まることが判る。これは、年齢が高くなるとバラエティ番組自体をあまり見なくなるためと思われる。



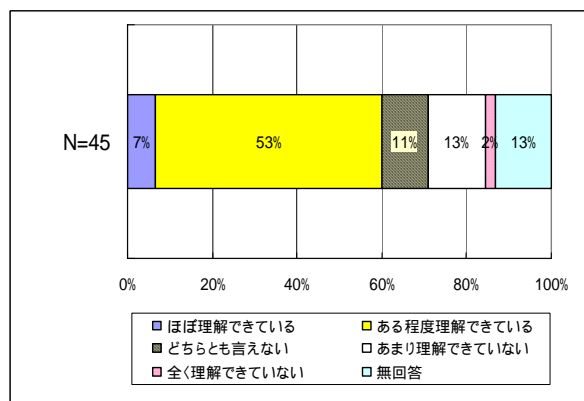
続いて、失聴年齢別にみると、10歳以下で失聴した層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が55%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が6%であり、一方の11歳以上で失聴した層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が56%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が14%であることから、失聴年齢が高いほどOCで不満となる傾向

が高まることが判る。これは、遅く失聴された方において、バラエティ番組におけるOCの情報量と実際の情報量のギャップを感じられているからではないかと思われる。

(障害1級~2級)

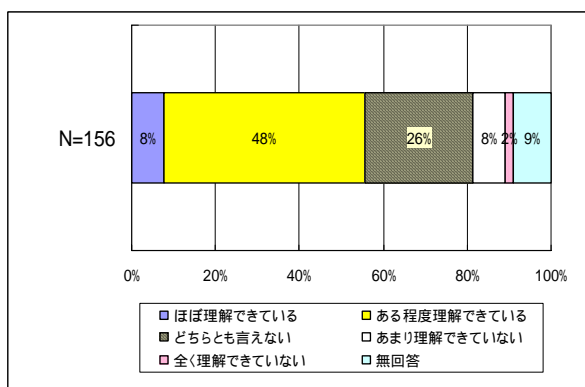


(障害3級以下)

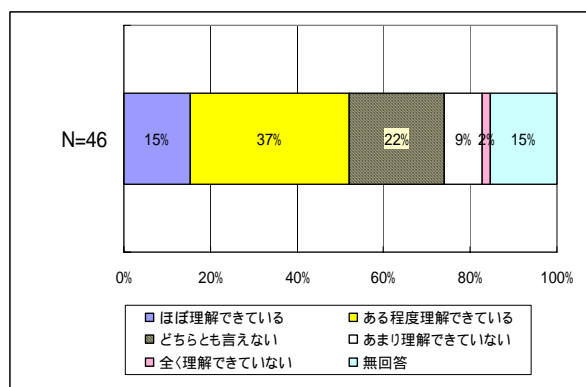


一方、障害の程度別にみると、1級~2級の層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が54%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が8%であり、一方の3級以下の層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が60%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が15%であることから、障害レベルが重いほどOCによる満足・不満レベルとも低くなる傾向にあることが判った。

(同居健常者が居る)



(同居健常者は居ない)

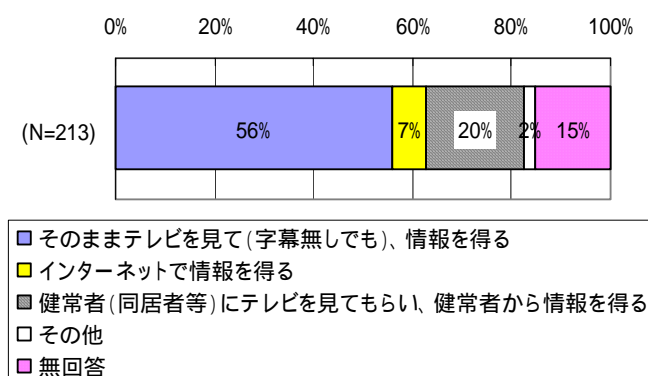


他方、同居健常者の有無別にみると、同居健常者が居る層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が56%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が11%であり、一方の同居健常者が居ない層では「ほぼ理解できている」「ある程度理解できている」の合計が52%に対して、「あまり理解できていない」「全く理解できていない」の合計が11%であることから、同居健常者が居ないとOCによる理解が低下する傾向にあることが判った。この理由は、健常者が居る場合は、OCで不足する情報

を健常者に聞くなどして入手することができるが、健常者が居ない場合はそのようなことができないためではないかと推察される。

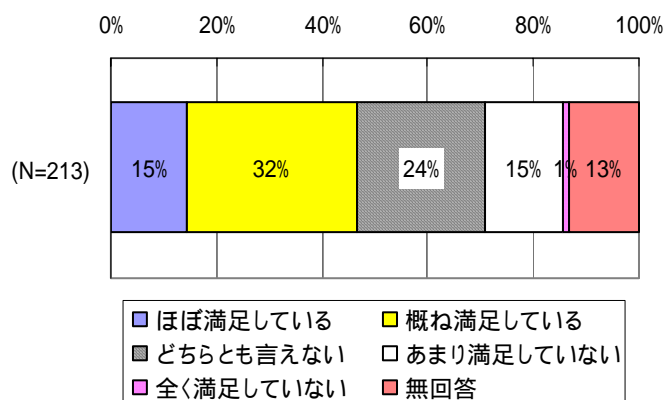
2-2-9 緊急時放送について

テレビ放送中に緊急ニュース（地震発生、天気の急変、重大ニュース等）の第一報をテロップで見た後、より詳しい情報を知りたいと思ったとき、どのような対応を行っているかという点については、以下のように、そのまま（字幕等無しでも）テレビを見続けて情報を得るという回答が最も多く、56%に上ることが判った。このことから、緊急時でもテレビが重要な情報源として利用されている傾向が伺える。



2-2-10 受信機について

受信機の利用しやすさについては、以下のように、「ほぼ満足」と「概ね満足」の合計が半数近くの 47%に達する反面、「あまり満足していない」「全く満足していない」の合計も16%に達することが判った。



「あまり満足していない」または「全く満足していない」を選んだ回答者にその理由を聞いたところ、主に以下のような意見が寄せられた。

- ・ 録画しにくい。
- ・ スイッチで切り替えしないとダメなので面倒。
- ・ 利用方法が難しい（操作が難しい）。
- ・ チャンネルを変えるたびに文字のボタンを押し変えなければならない。
- ・ 電波の弱い地域なので、時々字が出なくなる。

2-2-11 その他自由回答

その他、字幕放送や手話放送についての要望等を聞いたところ、以下のような意見が寄せられた。（これまでの質問でカバーされたものを除く。）

もっと字幕放送を増やして欲しい

- ・ 難聴者だけが特別な装置をもったりするのは大変おかしい。

相談先の不在

- ・ 字幕放送についての意見、質問をどこに出せばいいのか情報がなくて困る。しっかりPRして欲しい。

局による違い

- ・ A局ニュースの生放送に付く字幕の位置が不満。テロップの上に字幕が重なって出るため、文字情報が見えなくなります。他局のニュースに付く字幕は位置を少し上にずらして重ならないように工夫してくれています。
- ・ 現在放送されている字幕放送で一番ひどいのがB局の字幕放送。ひどい時は全く状況がわからない状態です。ですからB局の放送はあまり見たいとは思いません。C局、D局も時々字幕がおかしくなる時があります。これらは何故起こるのかわかるのであれば教えて欲しいです。文字を入力する人のミスならなくしてほしいです。

字幕放送を増やして欲しいジャンル等

- ・ A局は概ね娯楽番組しか字幕がない。楽しいものだけ見ていればよいというのは寂しい。全ての番組に字幕をつけ、政治番組や社会的なものを知りたい。全ての番組に字幕がつく様に希望し、待っております。宜しく願いいたします。
- ・ ドラマなどでおざなりの字幕放送の時がある。全部まじめに読み取っても変な字に変わっていて読めなかったり、話しているはずなのに字の表示がなかったりで不満な番組がある。
- ・ 日本の映画に字幕をつけてください。

- ・ ローカル局で制作した番組にも付けて欲しい。(近所との話題に付いて行けず淋しい思いがする)
- ・ 字幕放送を見られるようになったのはここ 1~2 年の間からですが、とにかくテレビ視聴が楽しくて仕方ありません。それまで見たかったドラマをもう一度再放送など字幕つきで見たいとよく思います。
- ・ 放送時は字幕付きだった番組が再放送の時、字幕が付かない事が多いです。再放送でも字幕を付けてください。

字幕への工夫

- ・ 字幕放送の時、漢字の上にひらがなをつけてほしい。(相撲の時も)

テロップへの評価

- ・ テロップでも何でも可能な事はどんどん取り入れて、ポイントだけでもわかるようにしてほしい
- ・ 民放のドラマ(夜)にはほとんど字幕がつき、うれしい。バラエティも字幕がつくことで楽しめる。バラエティに字幕がなく、ところどころテロップが出るだけでもないよりはマシ。

3 視覚障害者向けアンケート調査結果

3-1 アンケート調査概要

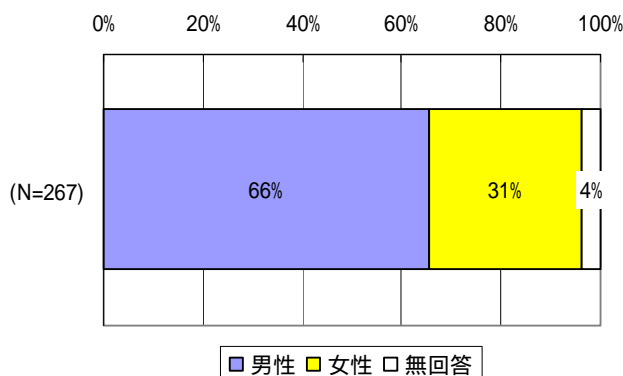
実施期間：2006年2月28日～2006年3月10日
対象地域：全国47都道府県
配布対象者：視覚障害者600名
配布方法：社会福祉法人日本盲人会連合会（日盲連）にてアンケート票を点訳し、次いで、日盲連から各地区の盲人団体に同アンケート票を送付。日盲連の依頼を受けた各地区の盲人団体は、回答者を選定し、各団体から回答者に直接郵送や手渡し等でアンケート票を配布。返送は郵送。点字で返送されたアンケート票については日盲連にて通常の文字に変換。
なお、各地区において配布できる部数に制約があることから、配布地域については、聴覚障害者向け調査のように全国7大都市圏に限定せず、全国47都道府県とした。
配布内訳：配布対象者は以下になるよう配布を行った。
男女比 = 1 : 1 （全国の聴覚障害者の男女比に合わせて）
年齢構成：50歳未満が約10%、50歳以上が約90%となるよう（全国の視覚障害者の男女比に合わせて）
地域別：各都道府県均一になるよう。

3-2 調査結果

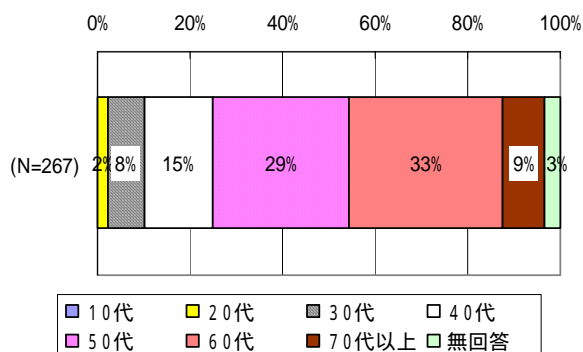
回収数は267（回収率 = 44.5%）であった。

3-2-1 回答者属性

（1）性別



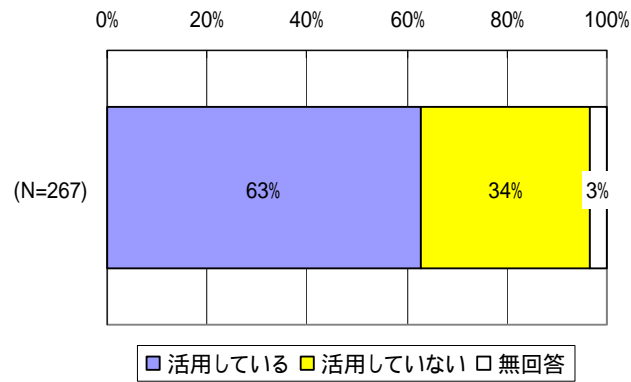
(2) 年齢



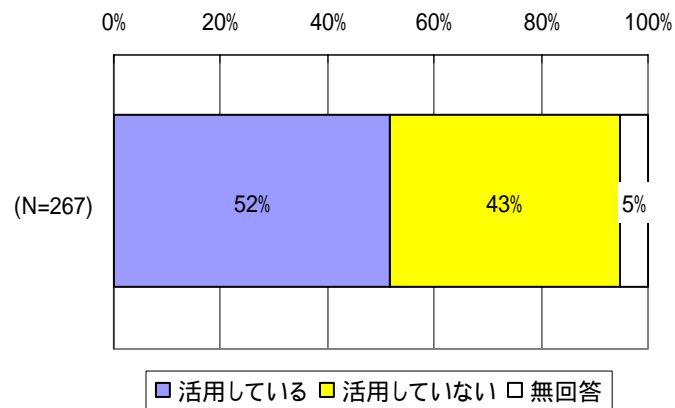
(3) 居住地

都道府県	%
広島県	8%
愛知県	7%
岡山県	5%
北海道	4%
奈良県	4%
千葉県	4%
神奈川県	4%
大阪府	4%
兵庫県	3%
福岡県	3%
鳥取県	3%
沖縄県	3%
宮城県	3%
富山県	3%
岩手県	2%
栃木県	2%
三重県	2%
滋賀県	2%
青森県	2%
東京都	2%
福井県	2%
島根県	2%
山口県	2%
長崎県	2%
大分県	2%
秋田県	1%
香川県	1%
埼玉県	1%
静岡県	1%
岐阜県	1%
愛媛県	1%
熊本県	1%
鹿児島県	1%
茨城県	1%
高知県	1%
佐賀県	1%
山形県	0%
福島県	0%
山梨県	0%
和歌山県	0%
宮崎県	0%
無回答	6%
(N=267)	

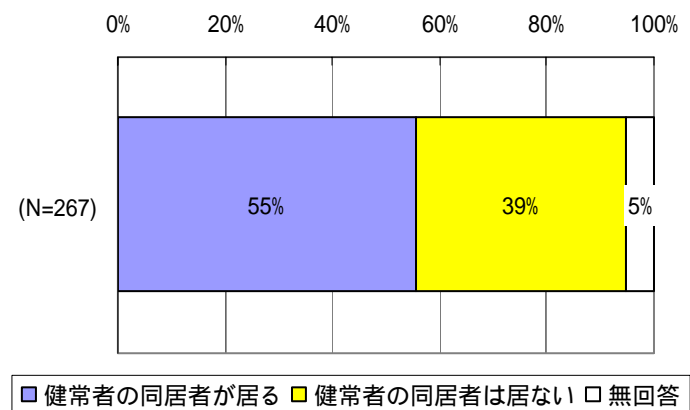
(4) パソコンの活用状況



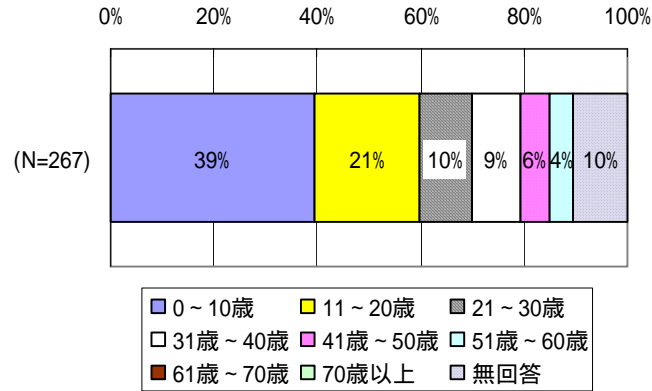
(5) インターネットの活用状況



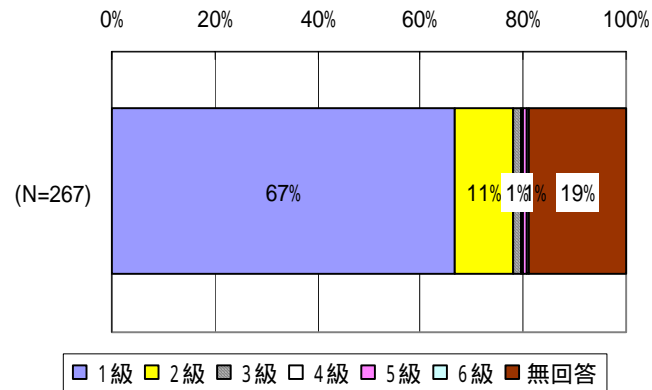
(6) 同居している健常者の有無



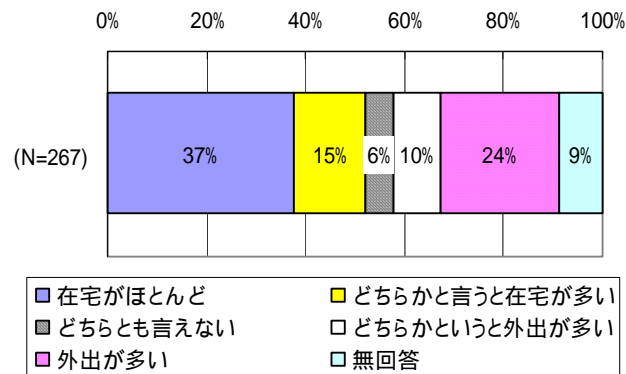
(7) 視覚を失った年齢



(8) 障害級数



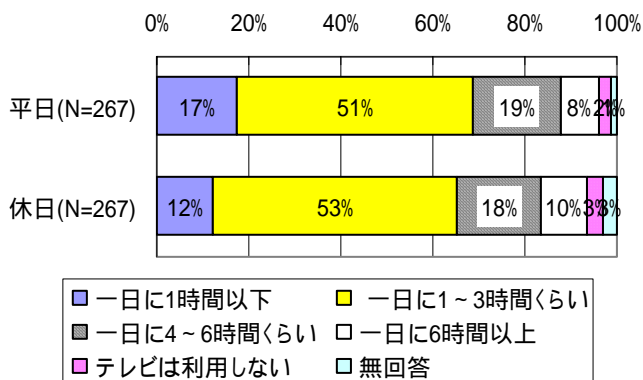
(9) 普段の生活様式 (在宅中心か、外出中心か)



3-2-2 一般的なテレビ番組及び解説番組の視聴状況

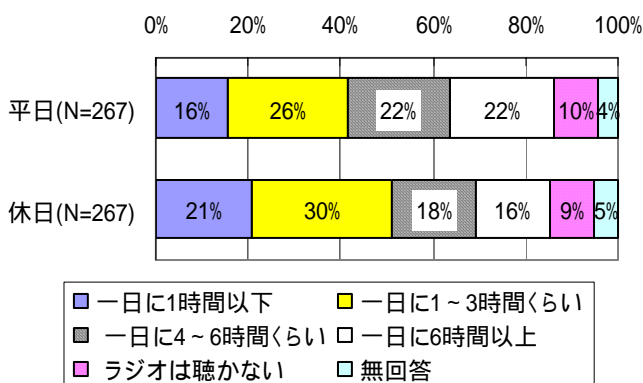
(1) 普段のテレビ視聴時間

以下のように、1日1～3時間という回答が最も多く、平日については51%、休日については53%となっている。



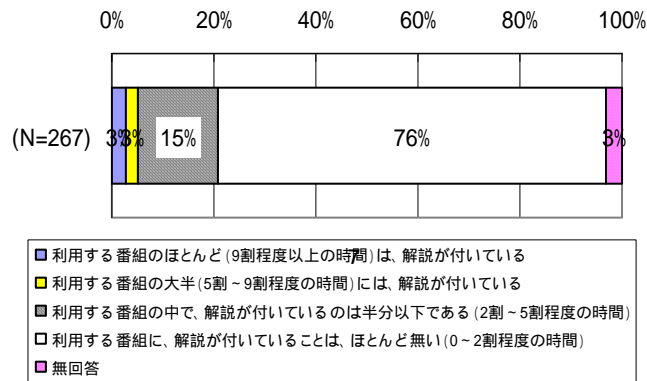
参考までに、ラジオについても同様の質問をした結果を以下に示す。

この結果が示すように、1日に4時間以上ラジオに接する割合は、平日で44%、休日で34%に上るのに対し、1日に4時間以上テレビに接する割合は、上記のように平日で27%、休日で28%である。このことから、視覚障害者は平日、休日ともラジオに接している時間が多い傾向が伺える。



(2) 解説付きテレビ番組の視聴状況

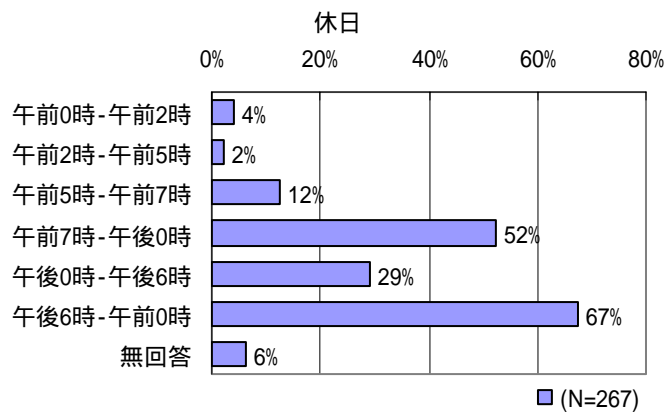
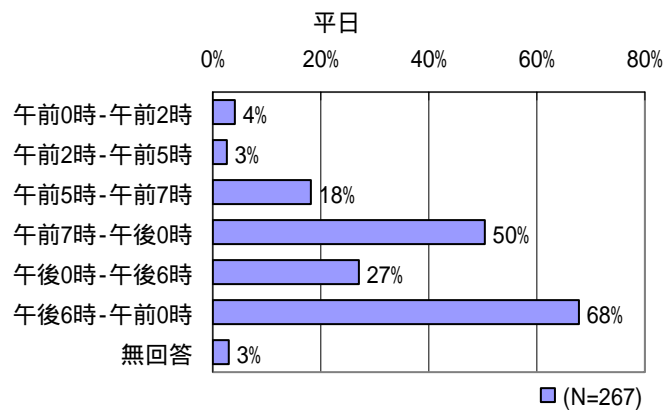
以下のように、「利用する番組に解説が付いていることは、ほとんど無い」という回答が76%に上るが、これは実際に解説番組が少ないことを反映していると思われる。



3-2-3 テレビ視聴の時間帯

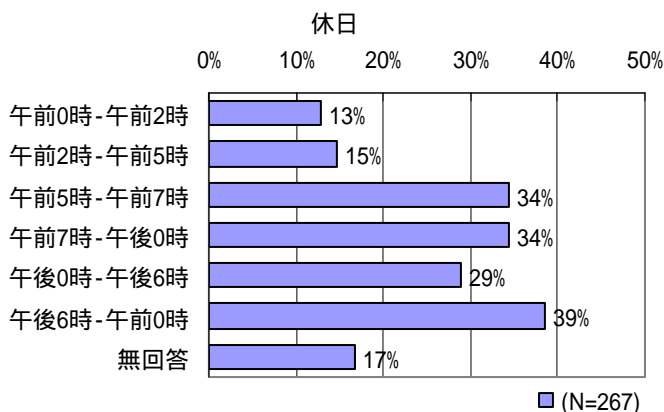
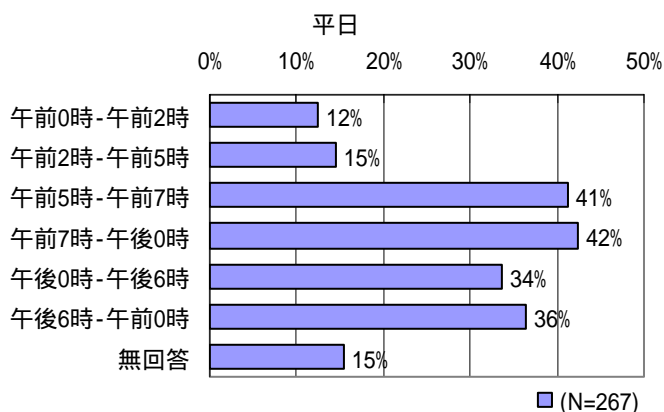
(1) テレビ視聴の時間帯

普段のテレビ視聴の時間帯については、以下に示すように、「午後6時～午前0時」が圧倒的に高い割合となり、続いて「午前7時～午後0時」が高いことが判った。



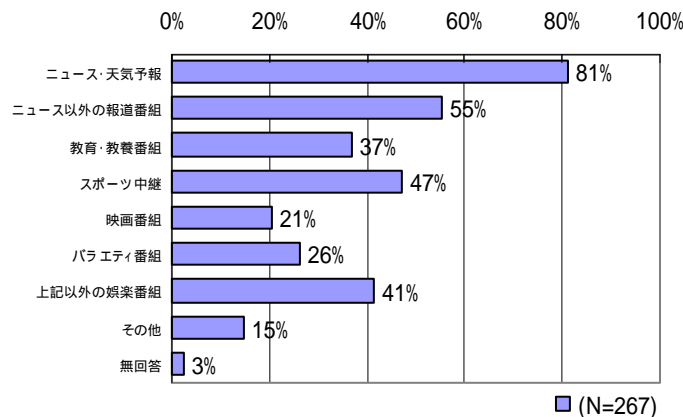
(2) ラジオ聴取の時間帯

普段のラジオ視聴の時間帯については、以下に示すように、平日・休日とも「午前 5 時～午前 7 時が最も高く」、その後午前 0 時までの時間帯を通じてそれほど差が無いことが判った。



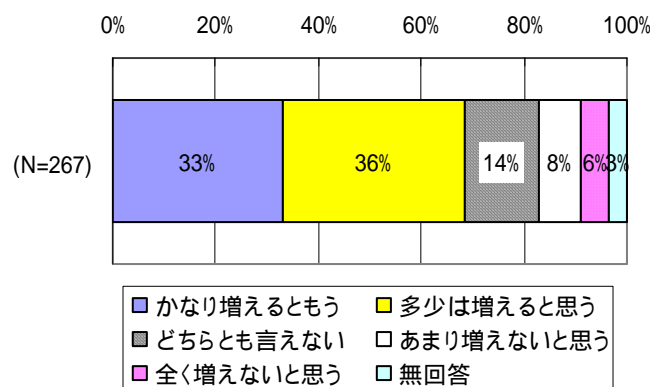
3-2-4 視聴するテレビ番組のジャンル

普段よく見るテレビ番組のジャンルとしては、ニュース・天気予報が 81%の回答者によって見られており、次いで「ニュース以外の報道番組」(55%)、「スポーツ中継番組」(47%)、「その他娯楽番組(ドラマ、アニメ等)」(41%)となっていることが判った。



3-2-5 解説付き番組と今後のテレビ視聴の関係

以下に示すように、解説付き番組が増えればテレビ視聴が増えるという割合は、「かなり増えると思う」及び「多少は増えると思う」を合計すると69%に上り、「あまり増えないと思う」及び「全く増えないと思う」の合計である14%を大きく上回る。



上記の理由としては、主に以下のような意見が得られている。

かなり増える、若しくは多少は増えると思う理由

- ・ 解説があれば楽しめる番組がふえるから。流行のドラマなども見れるから。
- ・ 音声のみから得られる情報は4,8割程度だと思っています。すなわち放送内容の概要は理解できます。しかし映像によって与えられる情報は明らかに欠落しています。それを100%得られるようなら重要源とすることができる。多くの番組に副音声解説を切にお願いします。
- ・ 字幕スーパーや画面の状況が判らず、日々はがゆい思いをしている。又英語等の外国語を流されても理解しにくい。又、緊急時のテロップが流れても全く判らない。
- ・ 解説の有無は番組選びの基準にさほどなっていないが、ドラマや映画番組に解説が付け

ば利用する。頻度は高まると思う。

どちらとも言えない理由

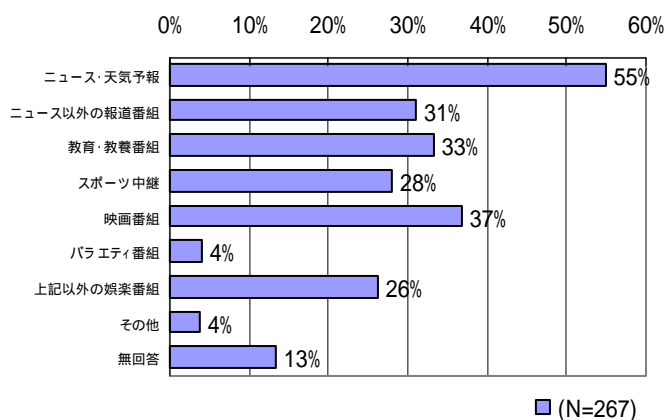
- ・ 解説付きのテレビを利用していない。副音声の音色が良くない
- ・ 解説付き番組の時間がわからない。
- ・ 日常の生活でも第3者が解説を加えて会話はあまりしない。障害者自身が判断して会話するものだから。
- ・ 解説付ドラマと言っても、切った張ったの場面の多い時代劇など生々しすぎて出来ないでしょう。全盲でも聴きたくありません。又、解説でペラペラたてつづけに心理状態までもしゃべりまくっているのもありましたが、こうなると困ったものです。もちろん切る事も出来ますが。

あまり増えない、または全く増えないと思う理由

- ・ もともと見てないので

3-2-6 解説付き番組を増やして欲しい番組ジャンル

以下に示すように、ニュース・天気予報の割合が最も高く 55%となっており、次いで映画番組（37%）、教育・教養番組（33%）などとなっている。

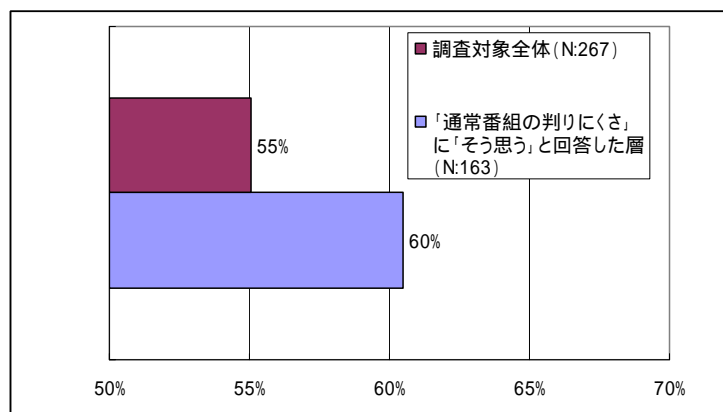


なお、ニュース・天気予報番組は通常、アナウンサーが原稿を読み上げる形式のものが多く、ニュース画像が流されている間も、何らかのかたちの原稿読み上げや現場レポートが音声として送出されているケースが多い。それにも係らず、視覚障害者の方からニュース・天気予報に対して解説を増やして欲しいとの要望が多く出た背景には、通常、原稿読み上げや現場レポートといった形式の中で、指示語の多用や、外国語を原語のまま放送する（日本語訳を字幕でしか表さない）ことに対する不満が込められていると考えられる。

この点を確認するため、「通常番組への満足度」（詳細は 3-2-8 節で後述）別に、ニュース・天気予報に対する解説ニーズを分析したところ、「ニュース・天気予報に解説を増やして欲しい」という割合は、全体では前述の通り 55%であるが、「通常番組における指示語の

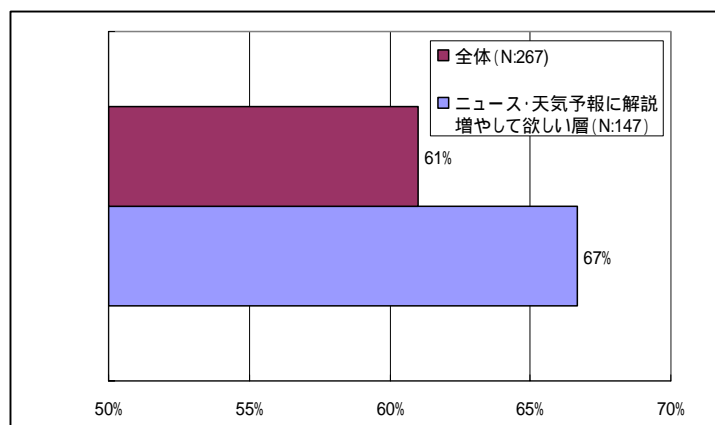
多用や外国語が音声として訳されないことを改善して欲しいか」という設問に「よくそう思う」と回答した層の中では60%に達することが判った。

ニュース・天気予報への解説を増やして欲しい割合



一方、「ニュース・天気予報への解説を増やして欲しい」という層は、上記の「通常番組における指示語の多用や外国語が音声として訳されないことを改善して欲しいか」という設問（3-2-8節で詳述）に対し、67%が「よくそう思う」と回答した。なお、この設問に対し「よくそう思う」と回答した割合は、調査対象全体の層の中では61%である。

通常番組の指示語や外国語を改善して欲しい割合



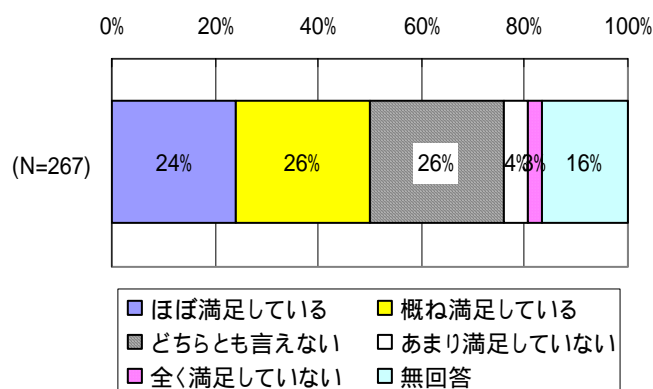
こうしたことから、「ニュース・天気予報への解説を増やして欲しい」という割合が多かった背景には、通常の番組中での指示語の多用や外国語の原語のままでの放送に対する不満があるものと推測することができる。

なお、解説を増やして欲しい「その他」の番組ジャンルとしては、以下のようなものが挙げられた。

- ・ 緊急災害報道の副音声
- ・ マジック
- ・ 字幕ニュース速報の音声解説

3-2-7 解説の判り易さ

解説の判り易さについては、以下のように、「満足」と「概ね満足」の合計が50%という結果となった。

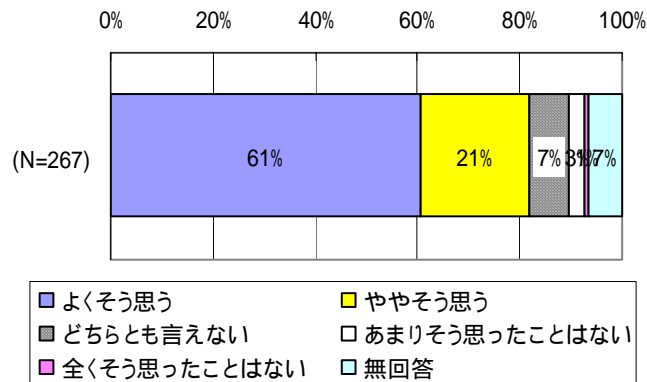


「あまり満足していない」、「全く満足していない」理由としては、主に以下のような意見が挙げられた。

- ・ 内容が不十分である。具体的に詳細に実現していない。
- ・ あまり解説が細かすぎてドラマ等はうっとうしい。
- ・ 時として想像が付きにくいことがある。利用者の側にたって作ってほしい。
- ・ 描写があまり適確ではないと思う。短く簡潔にしてほしい。
- ・ 情報が十分盛り込まれていない。
- ・ セリフと解説が重なる時がある。
- ・ 特にニュースや報道番組での外国人に対するインタビューの答えの内容が判らない。ボイスチェンジャーの内容が判らない。

3-2-8 通常番組の判り易さ

解説番組ではない健常者向け番組において、アナウンサー等が「これ」「あれ」等の指示語の多用したり、外国人との対話場面において外国が訳されないことなどについて、わかりやすく改善して欲しいと思うか、という点については、以下のように、「よくそう思う」と「ややそう思う」の合計が82%という高い結果となった。



上記の理由としては、主に以下のような意見が挙げられた。

よくそう思う、またはややそう思う理由

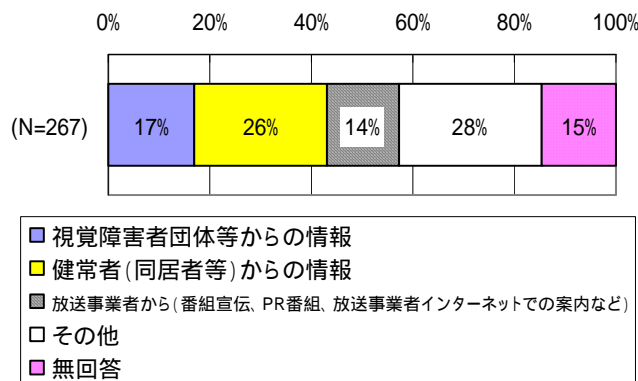
- ・ 「ご覧のとおりです」と言うこと。
- ・ 代名詞の使用が多い。画面だけで音声がないことが時々ある。
- ・ 番組が変わった事がわかり辛い。
- ・ 外国人出演時の外国語が訳されないこと。
- ・ 天気予報をみているとただ画面に出ているだけで読み上げないことがよくある。また下の字幕をご覧くださいで終わってしまうことがある。

どちらとも言えない

- ・ 特別意識したことがないため、どちらともいえない。
- ・ 横文字や外国語など多く、もっときっちりした日本語を話してください。

3-2-9 解説番組の探し方

ある番組に解説が付いているか否かという点を、どのように探しているかという点については、以下に示すように、同居する健常者（26%）や視覚障害者団体からの情報（17%）という回答が多く、放送事業者からの情報は14%であった。



その他としては、主に以下のようなものが挙げられた。

- ・ チャンネルを回して、さがしてわかる。
- ・ 探していない。ほとんどないと思っている。
- ・ 視覚障害者同士。
- ・ 新聞番組欄
- ・ 点字新聞

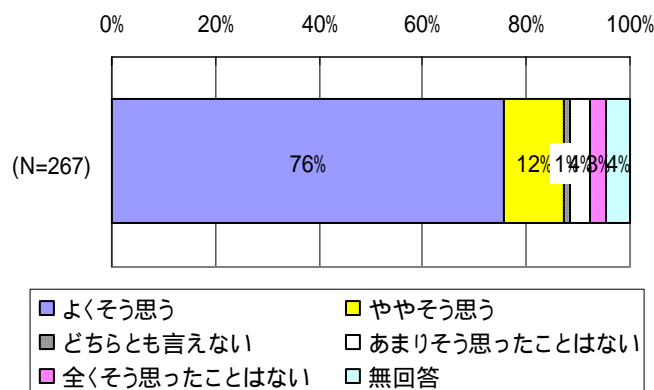
また、この点に関連して、以下のような意見も得られた。

- ・ NHK でも民放でも解説付か否かは番組放送中に教えて欲しい。

3-2-10 緊急時放送について

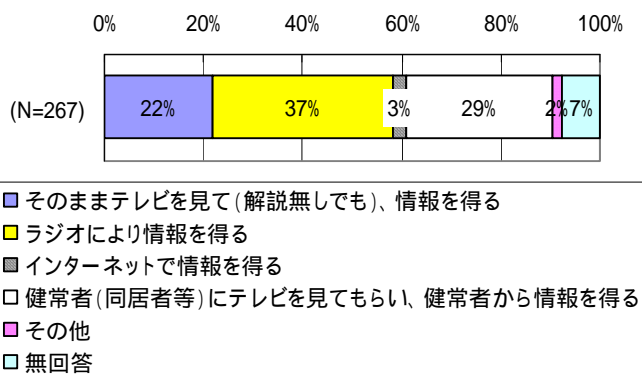
(1) 警告音について

テレビ利用中に、警告音によって緊急放送が入ったことが判っても、それがどんな内容の緊急放送か（例えばニュース速報なのか、気象関係速報なのか）判断できずに、不便に思ったことがあるか、という点については、以下のように「そう思う」が76%、「ややそう思う」が12%と、88%の回答者が不便とされていることが判る。



(2) 警告音の後の情報収集

警告音後により詳しい情報を知りたいと思ったとき、どのような対応をしているか、という点については、以下のように、ラジオによる情報収集が37%、健常者からの情報が29%という結果が得られた。テレビは22%であり、緊急時の情報源としての位置づけは、視覚障害者においては、ラジオや同居者の次という位置づけがなされていることが伺える。



「その他」では、以下のような意見が得られた。

- ・ あきらめる
- ・ 何もしない。
- ・ 電話か、隣の家に行き聞く。

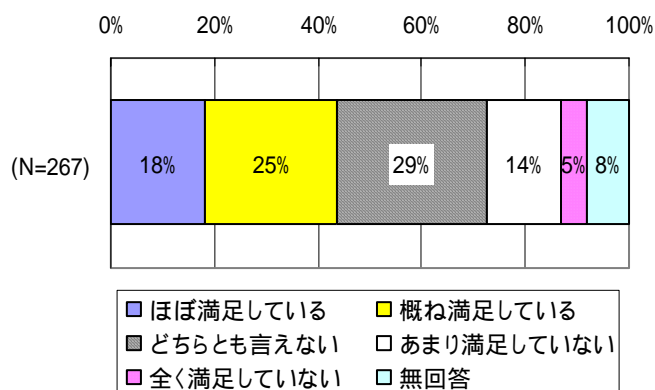
また、この点に関連して、以下のような意見も得られた。

- ・ 臨時ニュースのテロップ直後にワンタッチでその字幕と同じことを音声で流して欲しい。

3-2-11 受信機について

(1) 受信機の利用しやすさ

受信機の利用しやすさについては、以下のように、「ほぼ満足」と「概ね満足」の合計が43%に達する反面、「あまり満足していない」「全く満足していない」の合計も、同様に19%に達することが判った。

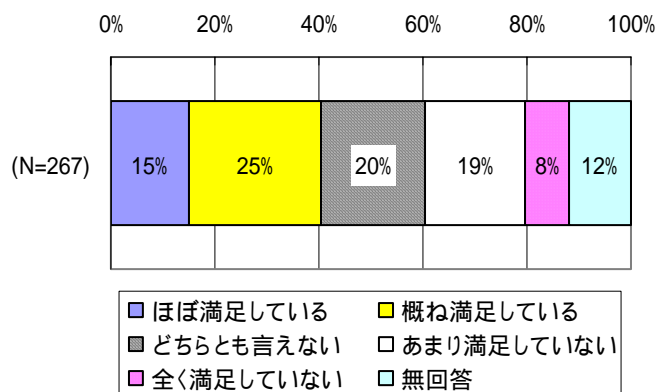


「あまり満足していない」、または「全く満足していない」理由としては、主に以下のような意見が得られた。

- ・ 利用方法がわからない。
- ・ 副音声の有無がわからない。
- ・ 切り替えスイッチを押してたどり着けるのに時間がかかる。副音声のままにしていたところ二ヶ国語放送の時に元にもどさないといけない。
- ・ 街頭番組なら判るがそうでないものの現在の状況が判らない。リモコンを押しても操作音がないので。
- ・ 副音解説のボリューム調整がほしい。
- ・ 副音声に切り替っているがどうか、実際に副音声が流れてみないと判断がつかなく、実際そのために番組の報道を聞き逃すことが多い。特にドラマのタイトルなど。
- ・ リモコンに並ぶボタンが類似の形状で、どれが何のボタンか覚えにくい。ステレオ、主音声のみなどの切り替え操作をしても、その結果が確認しにくい。テレビ画面に写るメニューを使って操作できない。

(2) リモコンの利用しやすさ

リモコンの利用しやすさについては、以下のように、「ほぼ満足」と「概ね満足」の合計が40%に達する反面、「あまり満足していない」「全く満足していない」の合計は27%に達することが判った。



「あまり満足していない」、または「全く満足していない」理由としては、主に以下のような意見が得られた。

- ・ ボタンが多すぎ小さくてこまる。チャンネル、音量、電源以外はフタをつけるなどしてほしい。
- ・ ボタンが同じようなものばかりで、分かりづらい。
- ・ ボタンを押した時のピープ音や音声ガイドが無い。
- ・ 各メーカーによって位置がバラバラ。一般の電気屋さんなどで売られているどのメーカー

ーのテレビでも使える簡単なリモコンには副音声の切り替えボタンが付いていないものがほとんど。

- ・ 緊急放送などに利用するとしたら形状を変えるべきだし、現状では副音声について何ら利用者のための配慮がないと思う。
- ・ アナログ放送のみ受信テレビのリモコンはチャンネル数が少ないのでボタンの数も少なく、ワンタッチで音声を切り換えることが出来ますが、デジタル放送も受信できるテレビのリモコンはチャンネル数が多くて音声の切り替えがワンタッチボタンではなくて、メニューボタンを押してから選ぶという操作をしないと切り換える事ができないので、メニュー画面が見えないと音声切り替え操作ができません。

3-2-12 その他自由回答

その他、解説放送についての要望等を聞いたところ、以下のような意見が寄せられた。(これまでの質問でカバーされたものを除く。)

解説放送を増やして欲しい

- ・ 解説放送をもっと増やしてください。
- ・ とにかく少なすぎて話にならない。

判りやすさ

- ・ 先天性の視覚障害者にもわかりやすい説明をしてほしい。
- ・ わざわざ解説放送にしなくても解決できることもあるし(外国語の音声による日本語訳など)。事件の関係者などのインタビューを放送する時、顔に網を掛けると同時に声も変形させ、話者を特定しにくくする手法が最近多用されているが、これは日本語であるにもかかわらず、字幕が読めなければほとんど理解不能で、実に厄介かつバカバカしい。普通には聞き取れないような変な声なら流すのもやめ、ナレーターが話しの内容を伝えればよい。
- ・ 内容がわかるように小説をよんでいるような解説をしてほしい。

4 中高年層向けアンケート調査結果

4-1 アンケート調査概要

実施期間：2006年2月28日～2006年3月3日

対象地域：全国7大都市圏（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）

配布対象者：50歳代以上の男女

配布方法：インターネットアンケートにより実施。Goo Research の会員から、上記条件を満たす会員にメールを送信し、予め設計した回答画面にて回答してもらった。

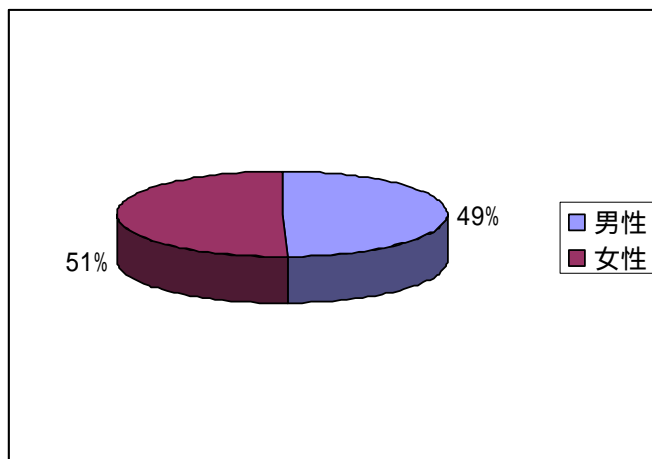
回答者が目標の200に達した時点で調査を終了した。（最終的な回答者数は219件）

4-2 調査結果

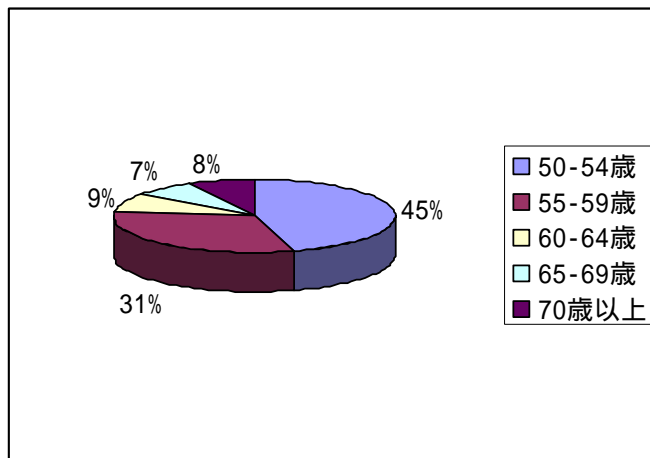
回収数は219であった。

4-2-1 回答者属性

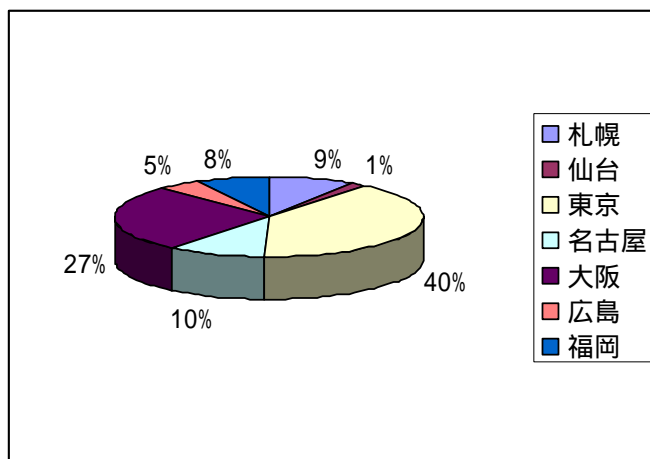
（1）性別



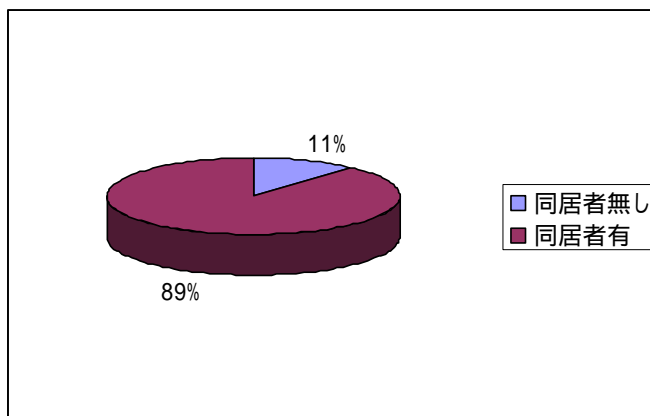
(2) 年齢



(3) 居住地



(4) 同居者の有無



(5) 職種

公務員・非営利団体職員	2.3%
会社・団体の経営者・役員	4.1%
その他給与所得者（管理職）	4.6%
その他給与所得者（事務職）	5.0%
その他給与所得者（技術・専門職）	7.3%
その他給与所得者（販売・サービス）	4.6%
その他給与所得者（その他）	1.8%
教職員	1.4%
医師・医療技術士・医療関係者	0.5%
自営業	14.6%
その他自由業（フリーター含む）	3.2%
専業主婦（主夫）	26.0%
兼業・有職主婦（主夫）	4.1%
無職	14.6%
その他	5.9%

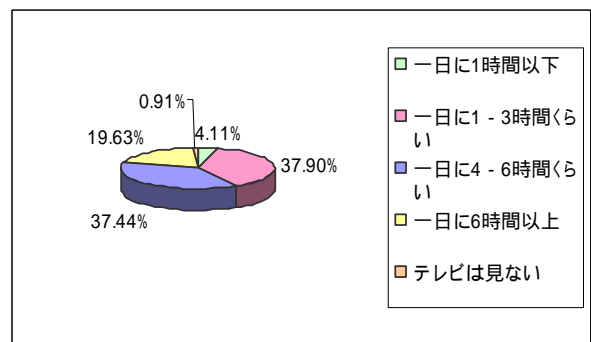
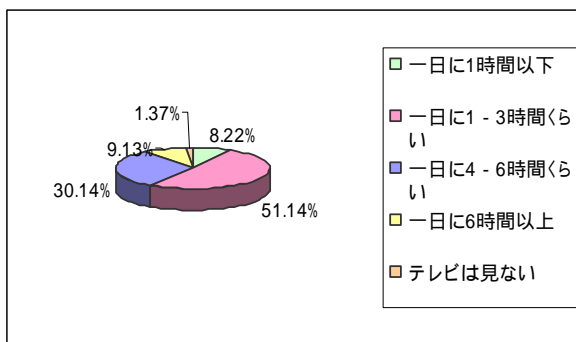
4-2-2 一般的なテレビ番組の視聴状況

以下のように、1日1～3時間という回答が最も多く、平日については約51%、休日については約38%となっている。

1日4時間以上テレビを見るという割合も、平日では39%程度、休日では57%に上る。

平日

休日

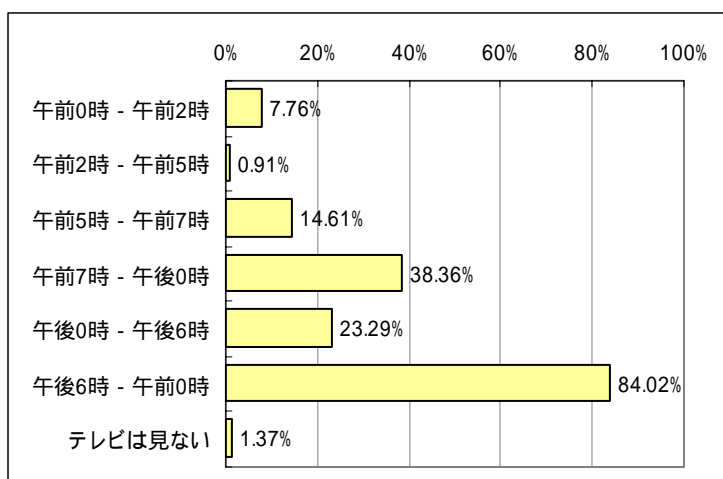


4-2-3 テレビ視聴の時間帯

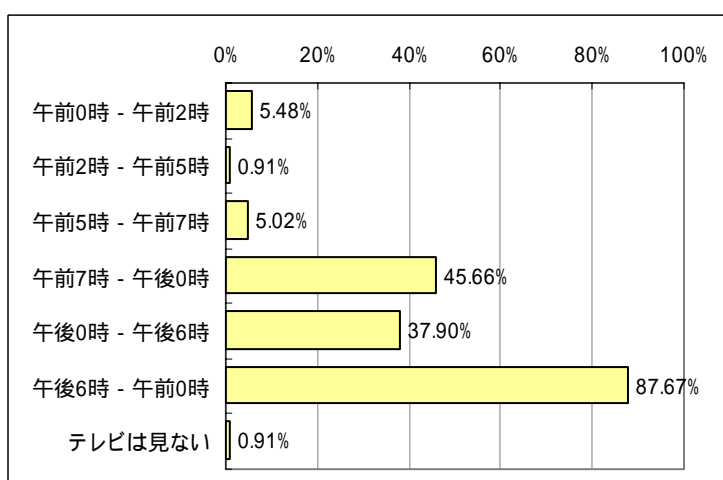
普段のテレビ視聴の時間帯については、以下に示すように、「午後6時～午前0時」が圧倒的に高い割合となり、続いて「午前7時～午後0時」が高いことが判った。

なお、現行の字幕放送普及行政指針では対象外となる時間帯については、「午前5時～午前7時」が平日は14.6%により視聴されており、また「午前0時～2時」も平日では7.8%により視聴されていることが判った。

平日

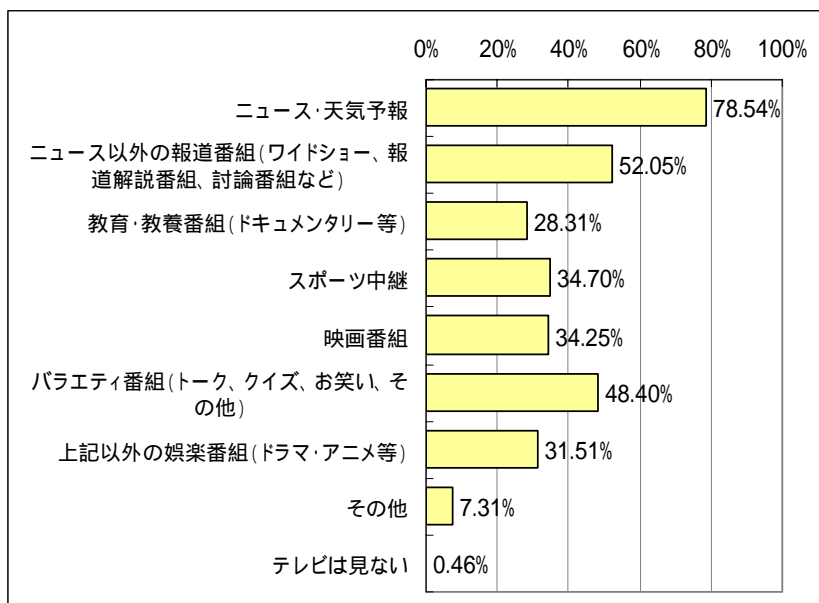


休日



4-2-4 視聴するテレビ番組のジャンル

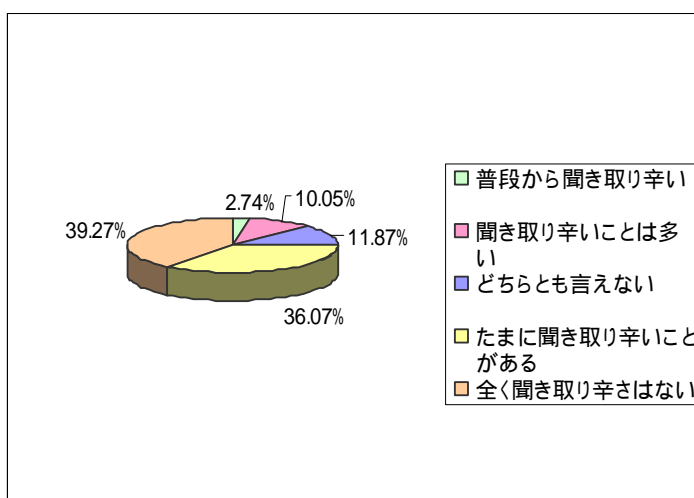
普段よく見るテレビ番組のジャンルとしては、ニュース・天気予報が79%の回答者によって見られており、次いで「ニュース以外の報道番組」(52%)、「バラエティ番組」(48%)などとなっていることが判った。



4-2-5 テレビ番組の聞き取り易さ、見易さ

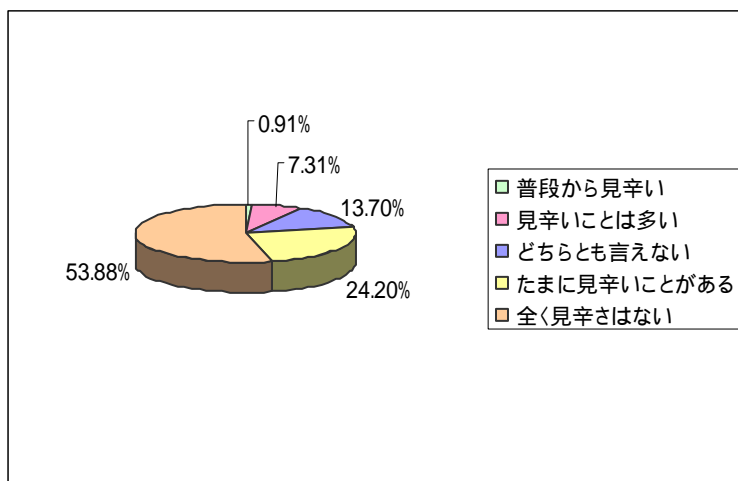
(1) 聞き取り易さ

以下に示すように、「普段から聞き取り辛い」、「聞き取り辛いことがある」を合わせると、合計13%程度の回答者が、何らかのかたちで聞き取り辛さを感じている。



(2) 見易さ

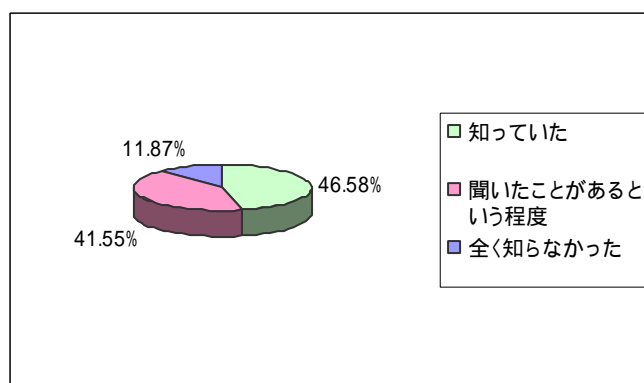
以下に示すように、「普段から見辛い」、「見辛いことがある」を合わせると、合計 8%程度の回答者が、何らかのかたちで見辛さを感じている。



4-2-6 字幕番組の認知状況及び利用意向

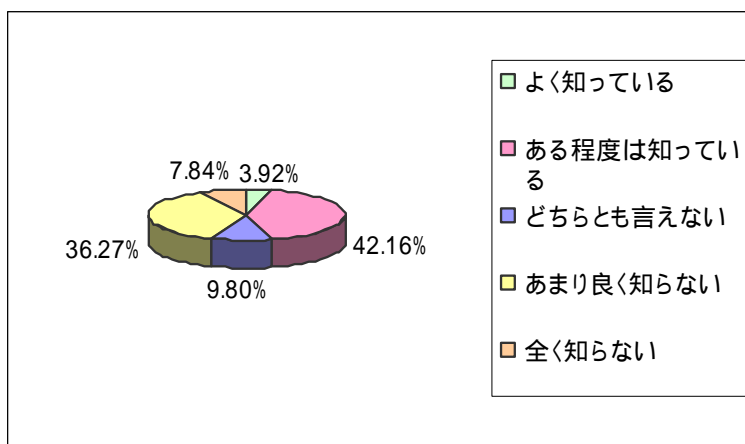
(1) 字幕放送を知っていたか

以下に示すように、半数近くの 47%程度が「知っていた」と回答しており、更に 41.2%が「聞いたことがある」と回答している。



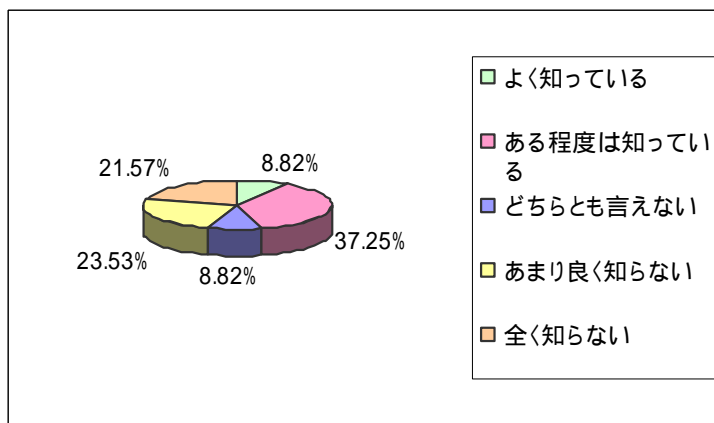
(2) 字幕付きで見られる番組に関する知識

「字幕放送を知っていた」と回答した回答者であっても、その中で、どの番組を字幕放送として見られるかという点までを把握しているのは、以下の「良く知っている」4%及び「ある程度は知っている」42%の合計の、44%程度である。



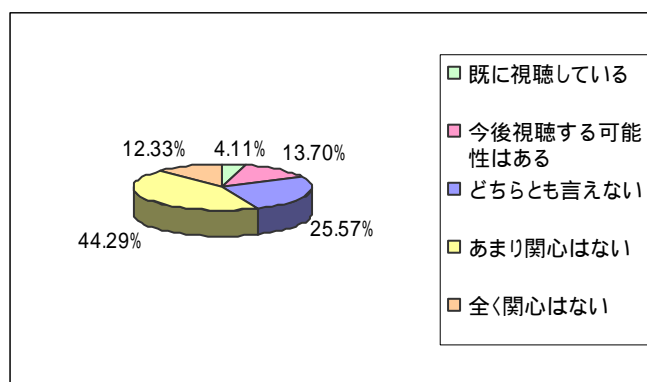
(3) 字幕放送を見る方法に関する知識

「字幕放送を知っている」と回答した者の内、字幕放送を見る方法（例えば専門受信機の必要性など）までを把握しているのは、以下の「良く知っている」9%及び「ある程度は知っている」37%の合計の、46%程度である。



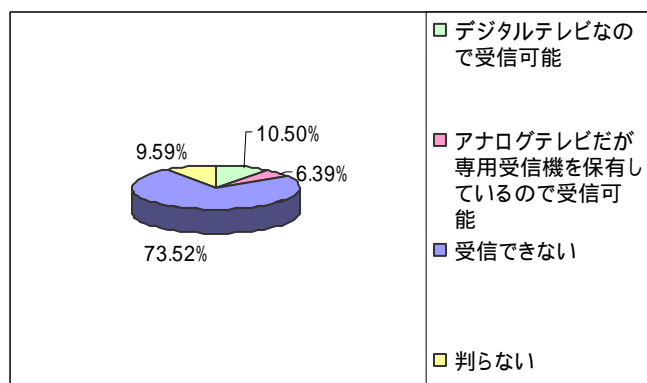
(4) 字幕放送の利用意向

字幕放送の今後の利用意向については、「今後視聴する可能性がある」との回答の割合は13.7%に留まった。



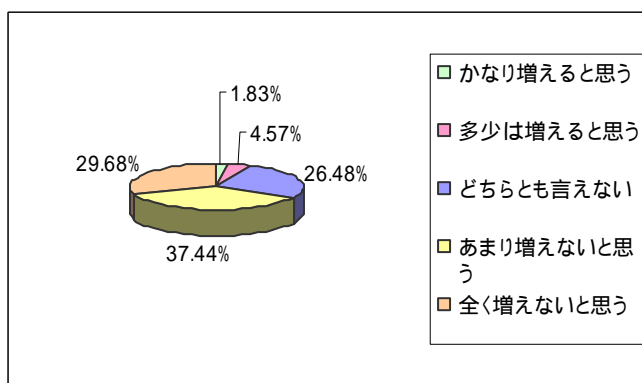
(5) 字幕放送の利用環境

回答者の、現在の字幕放送の利用環境については、「現在の環境では受信できない」という環境下にある回答者が74%であることが判った。



(6) 字幕放送と視聴時間の影響

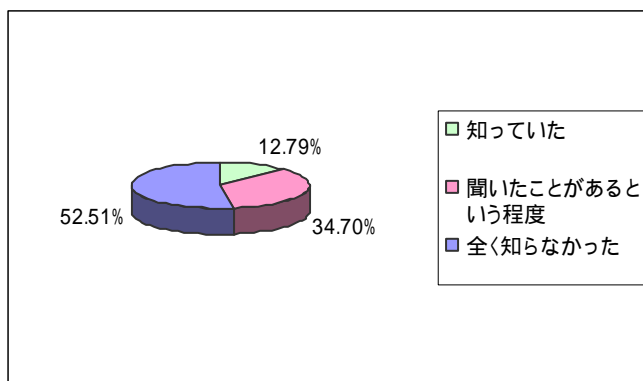
字幕放送が増えれば視聴時間が増えるかという点については、67%の回答者が「全く増えない」または「あまり増えない」と、やや否定的な見解を示した。



4-2-7 解説幕番組の認知状況及び利用意向

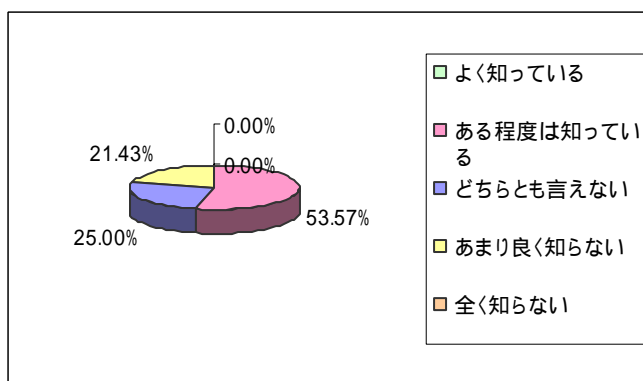
(1) 解説放送を知っていたか

以下に示すように、13%程度が「知っていた」と回答しており、更に35%が「聞いたことがある」と回答している反面、53%が「全く知らなかった」と回答している。



(2) 解説付きで見られる番組に関する知識

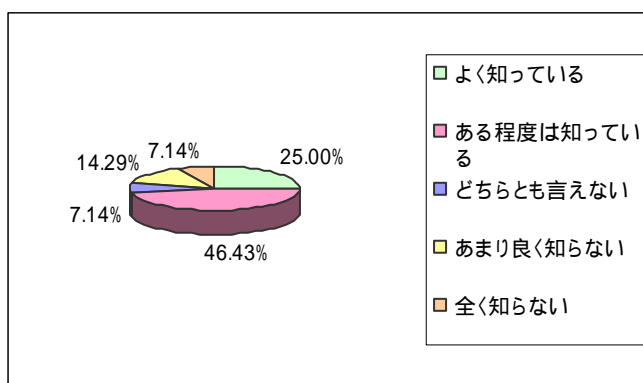
「解説放送を知っていた」と回答した回答者の内54%は、どの番組を解説放送として見られるかという点について、「ある程度は知っている」と回答している。



(3) 解説放送を見る方法に関する知識

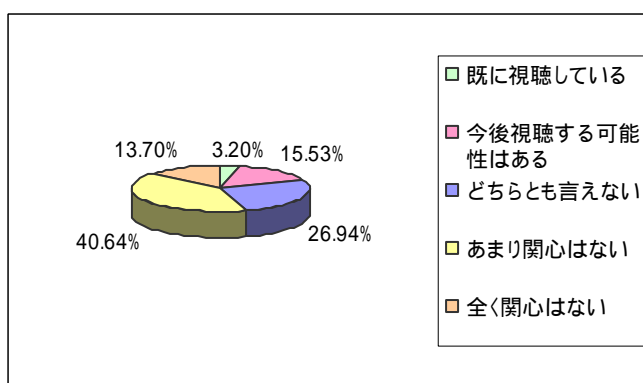
「解説放送を知っている」と回答した者の内、解説放送を見る方法（副音声受信機能付きの受信機の必要性など）までを把握しているのは、以下の「良く知っている」25%及び

「ある程度は知っている」46%の合計の、71%程度であり、解説放送のことを認知している場合は、利用の仕方まで認知されている傾向が強いことがわかった。



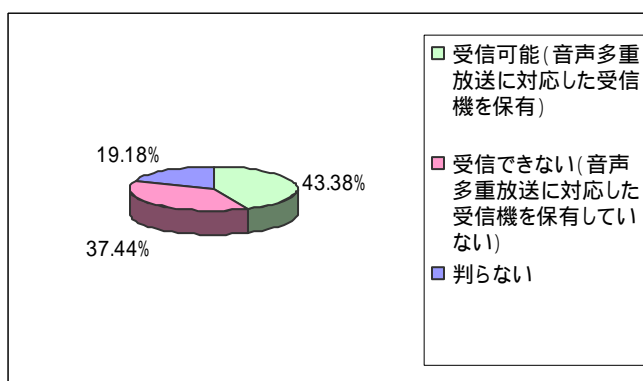
(4) 解説放送の利用意向

解説放送の今後の利用意向については、「今後視聴する可能性がある」との回答の割合は16%であった。



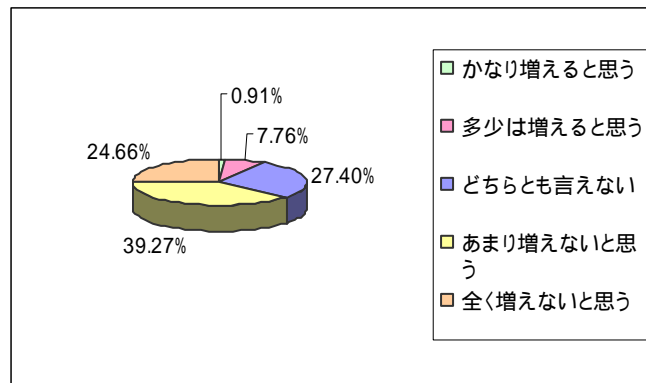
(5) 解説放送の利用環境

回答者の、現在の解説放送の利用環境については、「現在の環境では受信可能」という環境下にある回答者が43%であることが判った。



(6) 解説放送と視聴時間の影響

解説放送が増えれば視聴時間が増えるかという点については、64%の回答者が「全く増えない」または「あまり増えない」と、否定的な見解を示した。



4-2-8 その他、字幕放送・手話放送や解説放送について自由回答

今はまだ必要性を感じない

- ・ 映画の字幕放送は歓迎するがその他は別に必要性を感じない。

今は必要ではないが将来必要性を感じるようになると思う

- ・ 必要としている人が増えると思うので、より研究開発を進めてほしい。
- ・ 聴覚障害者の知人がいます そのお宅で字幕のテレビをみて初めて意識をするようになりました。聴覚障害者以外にたいする日ごろからのPRがもっと必要と感じます。
- ・ 中高年層向けのデバイスの開発は必須。
- ・ これから必要性が出てくると思うので、情報を集めていきたい。
- ・ 私自身にはまだ必要でないが、それを必要とされる方々には大いに役立っているのではないかと思います。いずれは必要になるのでしょうか？

より加齢になれば必要

- ・ 年齢と共に耳が遠くなると必要になるのでよいと思う。
- ・ 初めて知ったので、よく解りません。将来、聴力が衰えた時に、考えるかもしれません。
- ・ テレビは毎日の情報を得るための大事な手段なので、これからはもっと体に障害が出るとお世話になると思う。年寄りにはテレビが一番の楽しみだと思う。
- ・ 障害者の方で必要があると思うのでとても大事な事と思う。耳の遠いお年寄りが大音量で聞いていると、何とかならないものかと思う。
- ・ 加齢により聴力が落ちているので増えれば利用したい。

あれば便利+工夫が必要

- ・ 外の音、車の音で聞きにくい時が多いので字幕は助かります
- ・ そこまでしてテレビを見たいと思わないが、どうしても見たい番組があった場合、見づらければそれはとても便利だとは思う
- ・ 字幕の字を少し大きくすると良いのでは。
- ・ 現在のTVは、イヤホンを使うと音声は他の人には聞こえない仕組みになっています、これを、両方使える様になればいいですね。。。又、その際、音声も別に調整できると良いですね。。。高齢になるとテレビの音が五月蠅いと若い人から嫌われるので、是非欲しいと思っています。
- ・ 現在家人から音が大きいと言われる事がしばしばあるが、テレビより耳にスピーカーを付けて聞き取ると集中して聞き取ることが出来るのと、字幕は目で画面と字を追うので目疲れが早く来る様な気がします。

5 アメリカ字幕放送等に関する調査

概 要

米国では、特にクローズドキャプション（CC）の普及が非常に進んでいる。本報告書では主にこの背景にある政策動向や、実務的な業務実態を中心に述べるが、米国でCCが非常に普及した背景には、各種政策（受信機へのデコーダー義務付けや、教育省を中心とした助成制度等）の効果も働いてはいるものの、社会・経済的な側面の効果が大きかったと思われる。

特に、英語が日本語に比べると、話されている台詞を、その場でスピーディかつ正確に入力することが容易であるという「言語と入力の特徴」に起因するメリットが大きい。テレビ番組においては昔からニュースや情報番組、スポーツ中継等の生放送が大きなウェイトを占めていたのに加え、近年は収録番組においても放送直前まで編集等を行う傾向にあることから、生字幕の重要性が高まっている。この点、生字幕においては、聞き取りながら正確かつスピーディにそのまま入力できるという英語の特性は、途中で「変換」というステップを挟む必要がある日本語に比べると、非常に大きなメリットとなる。

加えて、米国では人口当たりの視聴覚障害者の数が日本よりも多い。（この原因は不明だが、日本では加齢に伴う視聴覚障害により視聴覚障害者の認定を受けられるようになっても受けない人口が多いのではないかと推測される。） このように、視聴覚障害者の人数が多いということや、更に、障害者が情報にアクセスできないことが「差別」と捉えられる社会風潮、及びそれが提訴に結びつきやすいという点も、米国での字幕普及に際しての関係各者（政府、テレビ局、スポンサー等）の意思決定に影響を与えていると考えられる。

日米の視聴覚障害者数及び総人口比の比較

	米国	日本
視覚障害者数（人）	130万人、人口比0.5%（視覚障害者） ¹ 1000万人、人口比3.6%（何らかの視覚障害） ¹	35万人、人口比0.3% （公式統計） ³
聴覚障害者数（人）	42万人～480万人、人口比0.2%～1.7%（聴覚障害者） ² 1000万人、人口比3.5%（何らかの聴覚障害） ²	30万人、人口比0.2% （公式統計） ³

1 American Foundation for the Blind（2006）

2 National Center for Health Statistics（2004）

3 厚生労働省（2001）

以上のように、米国と日本では、字幕の普及に影響を与える背景が大きく異なる点に留意する必要がある。

5-1 地上波で放送されている番組の字幕、手話、解説付与度

アメリカの場合、地上波よりケーブルと衛星放送（DBS）が主流なので、本調査ではすべてに言及する。字幕、手話、解説の歴史は参考資料 1 にまとめた。

5-1-1 字幕放送

クローズド・キャプション（CC）は全米人口の 10%に相当する 2800 万人²の耳の不自由な国民に役立つ。耳の不自由な人以外にもバーやレストラン、空港などの騒音環境でも CC は役立つ。また 2800 万人の英語を第二外国語とする人たちにも役立つ。300 万人の英語能力が劣る子供たちの読む能力向上にも役立つ。また子供番組に CC をつけることで、5 歳以下の幼児 1800 万人が読み方の学習に役立つ。³そのほか 3000 万人ともいわれる文盲の人たちにも役立っている。⁴ 1995 年には CC デコーダー付き TV2500 万台が販売され、5000 万から 6000 万世帯に CC デコーダー付き TV が普及していた。⁵ 現在では、デジタル放送については全てのチューナー及びコンバータ、デジタル放送のチューナー内蔵型受信機については 13 インチ以上（4：3 比の場合；16：9 比の場合は縦 7.8 インチ以上）の全ての受信機、更にアナログテレビ受信機については 13 インチ以上の全ての受信機に、CC デコーダーの内蔵が義務付けられている。

The National Captioning Institute Foundation が 2003 年春に発表した報告書によると、耳の不自由な人や英語が第二外国語の人などの CC の利用度、重要性は次のとおりである。サンプルは 203 人で内訳は聾啞者 25.6%、難聴者 21.2%、英語が第二外国語の者 26.6%、一般が 26.6%である。⁶

CC 利用頻度（％）

	稀	時々	大半時	常時
聾啞者	4	4	7	84
難聴者	3	6	26	66
英語が第二外国語	11	37	31	20
一般	80	15	3	3

² National Association of the Deaf, Captioning
<http://www.nad.org/site/pp.asp?c=foINKQMBF&b=176416>

³ 同上

⁴米教育省「National Assessment of Adult Literacy」調査（2003 年）より

⁵ 同上、Paragraph 12

⁶ The National Captioning Institute Foundation, “The State of Closed Captioning Services in the United States”, Spring 2003, p.21,22
<http://www.captionedmedia.org/caai/nadh136.pdf>

CC が重要な TV 番組の種類 (%)

	地元ニュース	全国ニュース	娯楽	スポーツ
聾啞者	9 6	9 6	8 6	7 4
難聴者	8 8	8 8	8 8	5 7
英語が第二外国語	7 2	8 3	3 3	3 1
一般	7 6	8 3	4 1	4 0

CC が重要な媒体 (%)

	CM	ビデオ	DVD	インターネット オーディオ
聾啞者	4 9	8 6	8 2	8 9
難聴者	1 4	8 6	7 3	5 3
英語が第二外国語	1 6	5 0	5 6	4 7
一般	1 1	5 6	5 0	4 2

(1) 英語放送

1996 年通信法に基づき、連邦通信委員会 (FCC) が 1998 年に制定した規制によって、2006 年 1 月 1 日より英語のすべての新番組に CC を付与することが義務付けられている。1997 年 12 月 31 日以前に初放送されたアナログ番組、及び 2002 年 6 月 30 日以前に初放送されたデジタル番組については、2003 年 1 月 1 日から 2007 年 12 月 31 日にかけて四半期毎に 30%、2008 年 1 月 1 日以降は四半期毎に 75%、CC を付与することが義務付けられている。

CC は Electronic Industries Alliance (EIA) が 1991 年、採択した Vertical Blanking Interval (VBI) ライン 21 の CC 技術標準 CEA-608 (2003 年改正で CEA-608B) に従い、付与する。

番組配給者は番組所有者等が付与した CC 信号をそのまま配給する義務がある。なお、以上の規制は地上波以外、ケーブル、衛星放送にも適用されている。

英語放送の CC 付与義務

新番組 (1998 年 1 月 1 日以後初放送)	四半期毎の CC 付与義務
2000 年 1 月 1 日 ~ 2001 年 12 月 31 日	最低 450 時間
2002 年 1 月 1 日 ~ 2003 年 12 月 31 日	最低 900 時間
2004 年 1 月 1 日 ~ 2005 年 12 月 31 日	最低 1350 時間
2006 年 1 月 1 日 ~	100%
古い番組 (1997 年 12 月 31 日以前初放送)	
2003 年 1 月 1 日 ~ 2007 年 12 月 31 日	30%
2008 年 1 月 1 日 ~	75%

(2) スペイン語放送

スペイン語の新番組については 2006 年 12 月 31 日まで、四半期毎に最低 900 時間の CC 付与が義務付けられている。1997 年 12 月 31 日以前に初放送されたアナログ番組、及び 2002 年 7 月 1 日以前に初放送されたデジタル番組については 2005 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日については四半期毎に 30%、2012 年 1 月 1 日以降は四半期毎に 75%、CC 付与が義務付けられている。

スペイン語放送の CC 付与義務

新番組 (1998 年 1 月 1 日以後初放送)	四半期毎の CC 付与義務
2001 年 1 月 1 日 ~ 2003 年 12 月 31 日	最低 450 時間
2004 年 1 月 1 日 ~ 2006 年 12 月 31 日	最低 900 時間
2007 年 1 月 1 日 ~ 2009 年 12 月 31 日	最低 1350 時間
2010 年 1 月 1 日 ~	100%
古い番組 (1997 年 12 月 31 日以前初放送)	
2005 年 1 月 1 日 ~ 2011 年 12 月 31 日	30%
2012 年 1 月 1 日 ~	75%

(3) 例外

以下の場合には CC を付与しなくてよい。

1996 年 2 月 8 日以前に効力を発した契約上、CC を付与することが契約違反となる場合。

CC 付与が膨大な負担となることを理由に FCC に例外措置申請をし、承認された場合。英語、スペイン語以外の番組。ただし Electronic News Room (ENR) 技術を利用して CC 付与できる脚本がある番組は例外措置対象にはならない。

番組予定表や地域社会掲示板のように、音声視覚的に文字やグラフィックで表示されている番組。

夜間午前 2 時から 6 時に放送される番組。

10 分以下のプロモーション発表、公共サービス発表。

Instructional Television Fixed Service ライセンサー発信の番組。

再放送の価値がない地元で制作され、配給されたノンニュース番組。

ニュース局の番組。また放送局開局後、最初の 4 年。ただし 1998 年 1 月 1 日時点で開局から 4 年以下の局については 2002 年 1 月 1 日まで例外措置。

歌詞のない音楽番組。

CC 付与が前年総収入の 2 %を超えた場合。

年間総収入が 300 万ドル以下の局。ただし、すでに CC が付与された番組を放送する場合はそのまま CC を付ける義務はある。

地域社会制作の教育番組。小中高校向けに公共TV局が地域社会で制作した教育番組。

7

5-1-2 手話放送

手話は大統領の公共演説やシンポジウム等、イベント主催者側が用意する場合、または地域社会のニュース番組でたまにある手話付きのセグメント、『セサミ・ストリート』で手話を取り上げられる場合以外に、番組として提供されることはない。⁸

一方、手話放送を行っている障害者専門番組や局としては以下のようなものが知られている。

- ・ アリゾナ州フィニックス、ツーソンで 1974 年以来、放送されている *Community View* は耳の不自由な人向けの最長寿番組で、手話と解説と CC の 3 つを同時に提供しているトークショーである。⁹
- ・ 1981 年に Silent Network という耳の不自由な人を対象としたケーブル局が設立され、100%手話とキャプション付の番組が提供された。しかし、1990 年に買収され、Kaleidoscope と改名され、手話とキャプション付の番組の割合が減り、2000 年 12 月には廃局となった。¹⁰
- ・ インターネット放送では DeafNation.com が手話でニュースを報道している。

⁷ FCC Consumer & Governmental Affairs Bureau, FCC Consumer Facts, Closed Captioning

<http://ftp.fcc.gov/cgb/consumerfacts/closedcaption.html>

FCC Consumer & Governmental Affairs Bureau, Part 79 – Closed Captioning of Video Programming

http://ftp.fcc.gov/cbg/dro/captioning_regs.html

⁸ Nancy J. Bloch, Chief Executive Officer, National Association of the Deaf, 3/14/2006 メール

⁹ Deaf Culture – Television Programming for the Deaf

http://deafness.about.com/cs/culturefeatures3/a/tvfordeaf_p.htm

¹⁰ Deaf History – Silent Network – A Deaf Cable Channel

http://deafness.about.com/cs/featurearticles/a/silentonetwork_p.thm

5-1-3 解説放送

米国における視覚障害者の数については各種統計があるが、ある統計によると何らかの視覚障害を持つ人口が 1000 万人程度と推計されている。¹¹ 解説はこうした人々に対する有効なサービスと認識されている。

解説付き番組 Public Broadcasting Service (PBS)の子供番組に特に多く見られる。主に CBS、フォックス、PBS、ニッケルオデオン、ターナー・クラシック・ムーヴィーズ (TBS) が定期的に解説付き番組を提供している。ボストンの PBS 局 WGBH の Media Access Group が Descriptive Video Service (DVS)を提供しており、解説のリーダーである。解説の信号は Secondary Audio Program (SAP)チャンネルに入れられる。¹²

1996 年には PBS 以外に解説付きの番組は放送されていなかったが、2004 年にはかなり増えた。ゴールデンアワーと子供番組では次の番組が解説付きである。

解説付きゴールデンアワー、子供番組

放送局	番組名	内容
PBS	<i>American Experience</i>	米史教育番組
	<i>Masterpiece Theatre</i>	ドラマ
	<i>Mystery</i>	探偵ドラマ
	<i>Nature</i>	科学教育番組
	<i>Nova</i>	科学教育番組
	<i>Sesame Street</i>	教育番組
	<i>Barney and Friends</i>	着ぐるみバーニーが主人公の教育番組
	<i>Mr. Rogers' Neighborhood</i>	ミスター・ロジャースの教育番組
CBS	<i>CSI: Crime Scene Investigation</i>	ラスベガス警察による犯罪解決ドラマ
	<i>JAG</i>	警察アクションドラマ
	一部の映画	

¹¹ American Foundation For the Blind の「Blindness Statistics」資料(2006 年)より

¹² National Center on Accessible Information Technology in Education, “What is audio description?” <http://www.washington.edu/accessit/articles?79>

WGBH, Media Access Group, DVS FAQ
<http://main.wgbh.org/wgbh/pages/mag/services/description/dvs-faq.html>

CBS& Nickelodeon	<i>Reading Rainbow</i>	4～8 歳対象に読書の楽しみを教える教育番組
	<i>Rugrats</i>	子供向けアニメ番組
	<i>Blue 's Clues</i>	子供向けアニメ番組
	<i>Dora the Explorer</i>	子供向けアニメ番組
NBC	<i>Law and Order</i>	警察ドラマ
	一部の映画	
	<i>Scout Safari</i>	写真記者の母親の同行する兄弟の物語
	<i>Kenny the Shark</i>	子供向けアニメ番組
	<i>Endurance</i>	20 人のティーンによるサバイバル・ゲーム
Fox	<i>The Bernie Mac Show</i>	黒人一家のコメディ
	<i>That 70 's Show</i>	70 年代のティーンのドラマ
	<i>The Simpsons</i>	アニメ
	<i>Magic School Bus</i>	子供向けアニメ番組
ABC	一部の映画	

シンジケート局 TCM、TBS、TNT、Lifetime、USA は解説付き映画を放送している。特に TCM は 1 日最低一本は解説付き映画を放送している。またファーストブロードキャスト時には解説がなかった番組に解説を付与して再放送している。例えば TNT の *Law & Order*、*Homicide*、*Life on the Street*、USA の *JAG*、Spike の *CSI: Crime Scene Investigation*、TBS の *Ripley 's Believe it or Not* などである。¹³

ちなみに 2006 年 3 月 1 日の解説付き番組リスト（上記表のものを除く）は次のとおりである。¹⁴

解説付き番組（2006 年 3 月 1 日）

タイトル	放送局	放送時間 (EST)	長さ	番組内容
<i>CSI: Crime Scene Investigation</i>	Spike TV	12 AM	60 分	ラスベガス警察による犯罪解決ドラマ

¹³ FCC Eleventh Annual Report “Annual Assessment of the Status of competition in the Market for the Delivery of Video Programming”, Adopted January 14, 2005, paragraph 182

http://hraunfoss.fcc.gov/edocs_public/attachmatch/FCC-05-13A1.doc

¹⁴ <http://www.tv-now.com/dvs/0301a.htm>

<i>The Berenstain Bears</i>	P B S	6 AM	30 分	アニメ。熊一家の物語
<i>Arthur</i>	P B S	7 AM	30 分	アニメ。少年ねずみが主人公
<i>Clifford's Puppy Days</i>	P B S	7:30 AM	30 分	アニメ。犬が主人公
<i>Dragon Tales</i>	P B S	8 AM	30 分	アニメ。恐竜が主人公
<i>Maya & Miguel</i>	P B S	8:30 AM	30 分	アニメ。多人種の少年少女が主人公
<i>Caillou</i>	P B S	9 AM	30 分	アニメ。少年カイユと一緒に学ぶ教育番組
<i>Barney & Friends</i>	P B S	9:30 AM	30 分	着ぐるみバーニーが主人公の教育番組
<i>Boohbah</i>	P B S	10 AM	30 分	幼児向け教育番組
<i>A Perfect Murder</i>	T B S	10 AM	120 分	サスペンス映画
<i>Between the Lions</i>	P B S	10:30 AM	30 分	ライオンが主人公の教育番組
<i>Sesame Street</i>	P B S	11 AM	30 分	教育番組
<i>Mister Rogers' Neighborhood</i>	P B S	12 PM	30 分	ミスター・ロジャースの教育番組
<i>Jakers! The Adventures of Piggley Winks</i>	P B S	1 PM	30 分	アニメ。豚の一家の物語
<i>Clifford the Big Red Dog</i>	P B S	2 PM	30 分	アニメ。赤い犬が主人公
<i>Nick of Time</i>	USA Network	2:30 PM	120 分	映画
<i>Reading Rainbow</i>	P B S	3 PM	30 分	4-8 歳対象に読書の楽しみを教える教育番組
<i>Law & Order</i>	T N T	3 PM	60 分	警察ドラマ
<i>Zoom</i>	P B S	3 PM	30 分	科学教育番組
<i>Law & Order</i>	T N T	3 PM	60 分	警察ドラマ
<i>Cyberchase</i>	P B S	4:30 PM	30 分	コンピューターに関するアニメ
<i>CSI: Crime Scene Investigation</i>	Spike T V	7 PM	60 分	ラスベガス警察による犯罪解決ドラマ
<i>Law & Order</i>	T N T	7 PM	60 分	警察ドラマ

5-2 放送局が字幕、手話、解説を番組に付与するドライビングフォース

まず、米国では障害者が情報にアクセスできないことが「差別」と捉えられ、また米国では差別一般に対する厳しい社会的罰則（訴訟）が課せられていることが、放送局が字幕放送等に熱心なドライビングフォースの一つとなっていることが考えられる。

差別被害者は差別した相手を提訴できる。賠償金は請求できないものの、被告に弁護士費用を負担させることはでき、また訴訟となっていることが公になることで差別者に社会的制裁を加えることができる。更に、司法長官に苦情を提出でき、司法長官が一般市民にとって重要な案件だと判断した場合、差別した相手を提訴する。被告が有罪の場合は 5 万ドルの罰金（二回目以降は 10 万ドル）が科される。¹⁵

特に Americans with Disabilities Act (ADA) が 1990 年に制定されて以来、障害者差別は厳しく禁じられるようになった。例えば、病院、バー、ショッピングセンター、美術館などの公共の場（映画館は除く）で TV、映画、スライドショーに字幕や手話、解説を付けることが義務付けられた。（ただし、プログラムが根本的に変化してしまう場合や過度な負担になる場合は例外である。例えばプラネタリウムで照明が必要な手話を提供しなくてもよい。また同法は政府による公共サービス発表に対する CC 付与を義務つけた。）

（１）字幕放送

特に字幕放送については、上記 ADA を受けて、具体的な執行法として、FCC が Telecommunications Act of 1996 に基づき 1998 年に前述の目標値等を定めた規則を遵守している。更に、Television Decoder Circuitry Act で 1993 年半ばまでに 13 インチ以上の TV にキャプション・デコーダーを内蔵することが義務付けられた。

一方、規制とは別に、教育省による助成金 (Individuals with Disabilities Education Act: IDEA) も大きな役割を果たした。1995 年の助成金は 790 万ドルで、キャプション付与費用総額の 40% を負担した。ABC が 1996 年に付与した CC コストの 45% が教育省助成金でまかなわれた。¹⁶ 教育省は現在も継続的に CC への助成を行っているが、予算上の制約等もあり、最近の教育省助成金の対象となるのは、資金的にその余裕がないローカルの小さい放送局などにシフトしつつある。¹⁷ 但し、ネットワーク局番組にも、ニュースや教育番組

¹⁵ U.S. Department of Justice, Civil Rights Division, Disability Rights Division, Americans with Disabilities Act, Title III Highlights
<http://www.usdoj.gov/crt/ada/t3hilght.htm>

¹⁶ FCC Report, “In the Matter of Closed Captioning and Video Description of Video Programming”, July 25, 1996, Paragraph 84
http://www.fcc.gov/Bureaus/Cable/Orders/1996_TXT/fcc96318.txt

¹⁷ Department of Education, Office of Special Education and Rehabilitative Services, Jo

等については、引き続き字幕付与の助成は継続されている。

(2) 手話と解説

上記 ADA がドライビング・フォースとなつてはいるものの、字幕とは異なり、具体的な執行法レベルで後押しする制度は存在しない。

なお、解説放送については、FCC が ADA 施行 10 周年を記念して、Telecommunications Act of 1996 に基づき 2000 年 7 月 21 日、解説放送規定を制定した。これは、目の不自由な人たちの TV 番組へのアクセスを増やし、緊急情報を提供することが目的だった。しかし、Motion Picture Association of America (MPAA) が、「CC と異なり、Telecommunications Act of 1996 上、FCC に解説規定を制定する権限はない」と提訴した。連邦上訴裁判所が 2002 年 11 月 8 日、MPAA の主張を認め、FCC 規定は違法であるとの判決を下した。したがって現在、解説に関する法的義務は ADA 規定以外はいまいな状態となっている。¹⁸

なお、違法判決が下った FCC の 2000 年 7 月 21 日付けの規定は次のような内容だった。全米 TV 市場トップ 25 の 4 大ネットワーク (ABC、CBS、フォックス、NBC) はゴールデンアワーと子供番組について四半期毎に最低 50 時間の解説を付与する。PBS についてはすでに毎週 10 時間以上、解説付き番組を放送しているので、新規定からは除外される。

全米 TV 市場トップ 25 とは New York、Los Angeles、Chicago、Philadelphia、San Francisco-Oakland-San Jose、Boston、Dallas-Fort Worth、Washington, D.C.、Detroit、Atlanta、Houston、Seattle、Tampa-St. Petersburg-Sarasota、Minneapolis-St. Paul、Cleveland、Miami-Fort Lauderdale、Phoenix、Denver、Sacramento-Stockton-Modesto、Pittsburgh、St. Louis、Orlando-Daytona Beach-Melbourne、Portland (Oregon)、Baltimore、San Diego である。

5 万人以上の加入者がいる多チャンネル配給者 (MVPD) は全米トップ 5 のノンブロードキャスト・ネットワークも 4 大ネットワーク同様、ゴールデンアワーと子供向け番組について四半期毎に最低 50 時間の解説を付ける。具体的に対象となるのは合わせて 1200 万人の加入者を持つ 275 のケーブル・システムと 2 つの DBS (DirecTV と DishNetwork) のニッケルオデオン、USA、ライフタイム、TNT、TBS という 5 チャンネルである。また全放送局、MVPD は解説付きの番組はそのまま放送する。(ただし SAP に通訳が入っている場合などは

Anne McCann 電話インタビュー、2006 年 3 月 17 日

¹⁸ FCC Consumer & Government Affairs Bureau, Video Description, Orders, Public Notices, Notices, Press Releases and Factsheet
<http://www.fcc.gov/cbg/dro/video-description.html>

例外。) ¹⁹

全米最大の目の不自由な人を代表する団体 American Council of the Blind (ACB) は FCC の規定が施行されなかった結果、解説付きの番組は 75%減ったと批判している。ACB は自主的な解説付与を期待するのは不十分であると、FCC による規定を求めている。現在、米連邦議会には FCC の 2000 年の規定を復活させる法案が提出されており、ACB はその成立を議会に求めている。 ²⁰

5-3 政府設定付与率達成の可能性

政府設定付与率が規定されているのは CC だが、付与率が段階的に上げられたこともあり、達成されている。なお、政府付与率の達成は、放送局免許の更新条件とはなっていない (USCode47 (307))。

5-4 字幕、手話、解説の付与を促進する制度 (放送時間、放送ジャンル、時間帯の目標)

教育省の助成金は視聴者が多い、全米ニュース、公共政策番組、子供番組、映画、ゴールデンアワー特別番組に充てられた。

1997 年 6 月 4 日、Individuals with Disabilities Education Act (IDEA) が改正され、2001 年度以後、教育省は教育番組、ニュース、情報提供番組だけを対象に、CC 付与の助成金を供与することになった。

その結果、教育省が助成金申請を承認した番組と拒否した番組のリストは参考資料 2 にまとめた。 ²¹

¹⁹ WGBH Media Access Group, MAG Guide Vol.3, The FCC's Rules for Closed Captioning and Video Description
http://main.wgbh.org/wgbh/pages/mag/resources/guides/mag_guide_vol3.html

²⁰ American Council of the Blind, Video Description
<http://www.acb.org/washington/seminar-dvs-2006.html>

²¹ National Association of the Deaf, Television Captioning, Television Captioning Censorship Hurts Family Values, Posted October 2, 2003
<http://www.nad.org/site/pp.asp?c=foINKQMBF&b=179707>

Approved and Disapproved Television Programs
<http://www.nad.org/site/pp.asp?c=foINKQMBF&b=181091>

なお IDEA は 2004 年 11 月 17 日に再延長され、予算は 2011 年までつけられた。TV、ビデオ、CD、DVD、ビデオ・ストリーミングなど CC、解説付与に助成金が出る。²²

また、DOE による助成金額について DOE 担当者にヒアリングをしたところ、CC と解説がセットで助成対象とされているために、CC だけ、または解説だけに対する助成金額は定かではないが、CC・解説の両方に対する助成金額は、近年はほぼ 1000～1400 万ドル/年程度で推移しているとのことであった。

以下に、過去 3 年間の助成金額を示す。

2003 年～2005 年の CC と解説に対する DOE の助成金額の推移

年度	CC と解説に対する DOE の助成金額 (US \$)
2003	12,657,566
2004	13,802,395
2005	11,517,318

なお、手話放送に対する助成については、米国では聴覚障害者向け放送サービスの主流が CC と位置づけられていることもあり、手話放送に対する助成は CC に対する助成よりも遥かに小さな規模であると考えられる。

5-5 番組に字幕、手話、解説を付与するのは誰か

(1) 字幕

番組制作者が社内の専門家に付与させるか、社外の専門会社を下請けに出す。全米最大の耳の不自由な人を代表する非営利団体 National Association of the Deaf (NAD) の Captioned Media Program (教育省助成金で活動) 公認の英語 CC 付与サービス提供企業は全米 37 社である。企業によって CC、オープン・キャプション、サブタイトル、オフライン、オンライン、外国語などサービス内容はさまざまである。²³ NAD 公認のキャプション・サービス会社は参考資料 3 に添付した。

生字幕の場合、98%の精度でタイプ速度が最低 1 分 225 ワードの速記専門家が必要である。98%の精度でも 1 分当たり、3、4 件のミスを意味する。語彙も増やす必要があり、5 万か

²² Hearing Loss Association of America, "President Bush Signs IDEA Reauthorization" <http://hearingloss.org/msw/BushSignsIDEA.doc>

²³ National Association of the Deaf, Captioned Media Program, Approved Captioning Service Vendors <http://www.captionedmedia.org/caai/nadh11.pdf>

ら 10 万語を知らなければならない。速記専門家は裁判所速記専門学校で訓練する機会が多い。速記用のキーボードは 24 の文字と数字があり、全文字をタイプしなくても速記が可能である。音声認識方式もある。この場合、訓練された速記者が耳にした音声をマイクに繰り返し、インプットする。

National Court Reporters Association (NCRA)は 27,000 人あまりの裁判所とキャプションの速記専門家がメンバーである。また音声認識の速記専門家の組織としては National Verbatim Reporters Association (NVRA)がある。

なお、ウェブキャストのキャプション付与用のエンコーダー、デコーダー、ソフトの販売会社も存在する。²⁴ そのリストは参考資料 4 に示す。

ローカル局の場合、番組の大半は系列親会社やシンジケート番組であり、すでに CC は付与されている。自局で CC を付与しなければいけないのは地元ニュースだけである。多くの局はテレプロンプターからコンピューターに入力し、コンピューターが VBI ライン 21 に CC をエンコードするシステムを利用している。この方法だとライブの緊急ニュースや台本にないキャスターのコメントなどは CC 化されない。

ケーブル局の場合、自局制作でない限り、下請けの番組制作者が CC を付与して、番組を納入する。スポーツやニュースなどの専門ケーブル局の場合は大手 CC 会社と契約を結んでおり、外注する。²⁵

(2) 解説

解説付与会社としては WGBH の Video Description Service(VDS)がもっとも有名である。番組制作者は VDS などの専門会社に委託する。

²⁴ Closed Captioning Web
<http://www.captions.org/softlinks.cfm>

²⁵ The National Captioning Institute Foundation, “The State of Closed Captioning Services in the United States”, Spring 2003, p.33、34
<http://www.captionedmedia.org/caai/nadh136.pdf>

5-6 番組に字幕、手話、解説を付与する際の平均コストアップ

(1) 字幕(通常の収録番組)、生字幕

CC付与のコストについては、様々な要因により幅があるが、Captioning Instituteによると30分番組で1分当たり8ドルから28ドルとのことである。トランスクリプトがない場合はその制作費、クライアントの要請によるCC修正などは別費用。大量に下請けする場合やトランスクリプトがある場合は割引される。また60分や90分番組の場合は1分当たりのコストは割安となる。長さにかかわらず、機械へのアクセス、人件費などの固定費に差はないからである。²⁶

フォックスによると2004年の自社制作番組のCC付与にかかる費用は1時間当たり105ドルから365ドルで、365ドルは生放送の場合。²⁷ The National Captioning Institute Foundationが2003年春、発表した報告書によると、CC付与コストは1時間当たり450ドルから700ドル。外注した場合は1時間あたり800ドルから1000ドル。²⁸

また、WGBHのCCサービスを提供しているMedia Access Groupによると、収録済みの番組に話し手とマッチしたCCは1時間750ドル、時間をマッチせずに3行ずつロールアップさせるCCは1時間450ドル、生の場合は1時間150ドルから250ドルをチャージしている。WGBHのサービスは98%以上の精度の高品質のCCのため、平均より高めのレートであるとのこと。²⁹

²⁶ Captioned Media Program, Captioning Agency Telephone Survey Results, April 2004

<http://www.captionedmedia.org/caai/nadh98.pdf>

²⁷ FCC Eleventh Annual Report "Annual Assessment of the Status of competition in the Market for the Delivery of Video Programming", Adopted January 14, 2005, paragraph 180

http://hraunfoss.fcc.gov/edocs_public/attachmatch/FCC-05-13A1.doc

²⁸ The National Captioning Institute Foundation, "The State of Closed Captioning Services in the United States", Spring 2003, p.34

<http://www.captionedmedia.org/caai/nadh136.pdf>

²⁹ WGBH Media Access Group, Marketing, Lori Ward, 電話インタビュー、2006年3月21日

一方、1996年のFCCのレポートによると番組の脚本を利用して付与するCCは1時間当たり800ドルから2500ドル。生放送の場合は訓練された速記タイプ者が必要で、1時間150ドルから1200ドル。収録番組はCC付与後に編集、校正をするので、生放送よりコストは高い。生の場合には脚本をCC化するコンピューター・ソフトを利用する電子ニュースルーム・キャプションという手法もある。機械とソフトを2500ドルから5000ドルで購入した後はコストはほぼゼロである。³⁰

(2) 解説

解説のコストは幅があるが、労力を要するので高い。1996年FCCレポートによると、National Cable Television Association (NCTA)はフィーチャー番組は1万ドルかかるとコメントしている。

一方NTN社によると1時間当たり1000ドルから1200ドル。

PBSによると解説付与は最低CCの1.5倍のコスト、つまり1時間当たり3000ドルかかる。

Audio Optics社は1時間半の番組にかかる費用は利益や人件費を除いても4000ドルかかるとコメントしている。³¹

WGBHのMedia Access Groupによると30分番組で2400ドル、1時間番組で4000ドルとのことである。³²

5-7 字幕、手話、解説付与によるコストアップの負担者

(1) 字幕

CCの資金源は4つある。中でもこれまでは教育省の占める割合が大きく、1995年時点で教育省がCCに対して790万ドルの助成金を与えたが、これはCCコスト総額の40%に相当していた。なお、近年の助成金額(CCと解説の両方が対象)は、前述した通り、毎年1000~1400万ドル規模となっている。

ABCの1996年のCCコストの45%は教育省の助成金によって軽減された。但し、ABCが現在、公的助成をどの程度受けているかという点については、情報を得ることができなかった。

³⁰ FCC Report, "In the Matter of Closed Captioning and Video Description of Video Programming", July 25, 1996, Paragraph 16
http://www.fcc.gov/Bureaus/Cable/Orders/1996_TXT/fcc96318.txt

³¹ 同上、Paragraph 106

³² WGBH Media Access Group, Marketing, Lori Ward, 電話インタビュー、2006年3月21日

現在、教育省の助成金は全米ニュース、公共問題番組、子供向け番組、映画、ゴールデンアワー特別番組に使われる。字幕制作専門機関である National Captioning Institute, Inc. (NCI) は、ニュース、公共情報番組に CC を付与しているが、このコストの 50% を、教育省から受けている 4 年間で 140 万ドルの助成金によりカバーしている。(残る 50% は契約先のテレビ局等の民間が負担。)

教育省以外の資金源は企業広告、チャリティーや財団、番組の制作者および配給者である。³³

³⁴1996 年の ABC では 9% が民間からの資金で、自社負担は残る 46% だった。

CBS はニュースと公共問題番組の CC 付与コストについては、公共サービスとして CC を助成する企業の支援を得た。またスポーツ番組の CC 付与コストを負担してくれた企業については、後援があったことを字幕で明示した。娯楽番組については番組プロデューサーと広告、政府助成金を利用した。

一方、HBO やシネマックスなど有料サブスクリプション・チャンネルの自社制作番組の場合、加入者を増やすことができると考えて、CC を自主的に付与している。

地方 TV 局も放送時に企業名等を表示することで民間の資金を利用している。National Association of Broadcasters (NAB) によると、67.9% の地方局に CC 付与付きニュースのスポンサーがいる。³⁵

(2) 解説放送

解説の主な資金源は教育省、PBS、National Endowment for the Arts (NEA)、National Science Foundation (NSF) を通じて供与される政府助成金である。特に教育省の助成金が大きく、1995 年の年間予算は 150 万ドルだった。これは目の不自由な国民一人当たり 19 セントに相当する。

そのほかの資金源は企業、財団、ビデオ販売収入、視聴者からの寄付などだ。ボストンの PBS 局 WBGH の Video Description Service (VDS) はこれらの資金でコストの 35% をまかなっている。³⁶

³³ FCC Report, "In the Matter of Closed Captioning and Video Description of Video Programming", July 25, 1996, Paragraph 19
http://www.fcc.gov/Bureaus/Cable/Orders/1996_TXT/fcc96318.txt

³⁴ 同上、Paragraph 20

³⁵ 同上、Paragraph 85, 86

³⁶ 同上、Paragraph 110, 111

5-8 今後の字幕、手話、解説放送に関する取り組み予定

字幕については FCC の目標値が達成されており、後は質の向上が課題だと思われる。質については NAD をはじめとする団体が 2004 年 7 月 23 日、FCC に陳情書を提出し、CC の完全さ、正確さ、読みやすさ、番組の音声とのシンクロ改善について基準を設けるよう要請した。³⁷

手話については、今後の聴覚障害者向け放送の主流が CC と位置付けられている中で、手話放送をどのように政策的に位置付けるかという点については、明確な方針は出されていない模様である。

解説については、FCC が Telecommunications Act of 1996 に基づき 2000 年 7 月 21 日、制定した解説規定を連邦上訴裁判所が 2002 年 11 月 8 日、違法判決を下したため、法的義務は ADA 規定以外はいまのまゝの状態のままである。但し、現在は米連邦議会に FCC の 2000 年の規定を復活させる法案が提出されており、ACB はその成立を要請している。³⁸

5-9 視聴覚障害者向けの緊急放送（緊急ニュース、緊急気象情報、等）についての体制及び実施状況

FCC はローカル緊急情報を次のように定義している。

「緊急情報とは人命、健康、安全、不動産を保護するための情報で、例えば次のようなものがある。

気象：竜巻、ハリケーン、洪水、津波、地震、道路凍結、大雪、大火事、天候変更の警告
地域社会：毒ガス発生、広範にわたる停電、工場爆発、市民動乱、学校閉鎖、以上によるスクールバス・スケジュールの変更」

緊急情報には緊急事態についての重要な事実と対策を含める。例えば次のような情報：

- ・ 緊急事態で影響される地域に関する詳細の情報
- ・ 避難命令、避難場所、非難ルート
- ・ 避難場所、自宅を強化する方法、道路閉鎖、救済援助を求める方法

³⁷ National Association of the Deaf, Before the FCC, Petition for the Rulemaking, July 23, 2004
<http://www.nad.org/atf/cf/%7BA2A94BC9-2744-4E84-852F-D8C3380D0B12%7D/FCCCaptioningPetition.pdf>

³⁸ American Council of the Blind, Video Description
<http://www.acb.org/washington/seminar-dvs-2006.html>

(1) 耳の不自由な人向けの緊急情報

放送局は番組の音声による緊急情報は CC、OC、流し字幕でも提供しなければならない。CC 以外で提供する場合、CC を読めなくしてはいけない。また CC は CC 以外で提供されている緊急情報を読めなくしてはいけない。

(2) 目の不自由な人向けの緊急情報

定期的にスケジュールされているニュース放送、または定期的番組を中断するニュース放送でビデオで提供される緊急情報は主音声でも提供しなければならない。定期的番組中に緊急情報が流し字幕で提供される場合は、同時に警告音を放送せねばいけない。そうすることで目の不自由な人はラジオ放送などの緊急情報を聞くべきだという警告となる。³⁹

(3) 実施状況

放送局がこれに対応していない場合は FCC に苦情を書簡、ファックス、電話、インターネット、電子メール、オーディオ・テープ、点字などで提出できる。FCC は放送局に通告し、30 日間に苦情に返答する。FCC は苦情、返答に基づき適切な対策を講じる。緊急情報を CC で提供しなかったために FCC に罰金を科された例は 2005 年に 7 件、2006 年に入ってから 1 件ある。

FCC による緊急情報規則違反罰金(2006 年、2005 年)⁴⁰

年月日	局	罰金(\$)
2006 年 2 月 22 日	NBC Telemundo License Co.	12,000
2005 年 8 月 9 日	Waterman Broadcasting Corp. of Florida, Inc., WBBH-TV Fort Myers-Naples, Florida	24,000
	Montclair Communications, Inc., WZVN-TV Fort Myers-Naples, Florida	24,000
2005 年 5 月 25 日	Fox Television Stations, Inc., WTTG(TV)	16,000

³⁹ FCC Consumer & Governmental Affairs Bureau, FCC Consumer Facts, Accessibility of Emergency Video Programming to Persons With Hearing And Visual Disabilities <http://fcc.gov/cgb/consumerfacts/emergencyvideo.html>

FCC News, FCC Orders Increased Accessibility of Video Programming to Viewers With Hearing Disabilities, Requires Programmers to Make Emergency Information Accessible, April 13, 2000

⁴⁰ FCC Emergency Information Access <http://www.fcc.gov/eb/tcd/EIA.html>

	Washington, D.C	
2005年5月25日	NBC Telemundo License Co., WRC-TV Washington, D.C.	16,000
2005年5月25日	ACC Licensee, Inc. WJLA-TV Washington, D.C.	8,000
2005年2月23日	McGraw-Hill Broadcasting Company, Inc. KGTV San Diego, California	20,000
2005年2月23日	Channel 51 of San Diego, Inc. KUSI-TV San Diego, California	25,000
2005年2月23日	Midwest Television, Inc., KFMB-TV San Diego, California	20,000

5-10 字幕番組の制作スケジュール

外注の場合、音声と会話のトランスクリプション、CC のエンコード、電磁波か共軸ケーブルを通じた信号送信と CC 付与に必要な3つの作業をそれぞれ、別の企業が担当することが多い。通常、番組制作の最終段階で CC 付与は行われるため、放送予定日までに時間があまりないことが多い。米国でも日本と同様に、収録番組でも放送直前まで完成しないケースが多いが、そのようなケースではもちろん、24時間～48時間程度の余裕がある場合であっても、一部のキャプション会社は生放送キャプション手法を使うことになる。⁴¹

なお、WGBH の Media Access Group では、生でない場合は2週間前にマスターテープを提供するように要請しているが、これは相当稀なケースと言われている。2週間という条件は、同 Group が解説を付与する場合も同じである。⁴²

C-SPAN の場合、連邦議会本会議の審議は上院、下院共、CC 付きで送られてきた信号をそのまま放送している。そのほかの生放送と収録番組については、C-SPAN が契約した下請け会社に放送時に信号を送り、リアルタイムで CC を付与させている。⁴³

なお、CC 付与後に番組が再編集された場合、タイムコードが変わり、VBI ライン 21 にあ

⁴¹ The National Captioning Institute Foundation, "The State of Closed Captioning Services in the United States", Spring 2003, p.35, 36
<http://www.captionedmedia.org/caai/nadh136.pdf>

⁴² WGBH Media Access Group, Marketing, Lori Ward, 電話インタビュー、2006年3月21日

⁴³ C-SPAN, Video Assets, Barry Katz, 電話インタビュー、2006年3月21日

る CC が中断されるため、最初から CC 付与をやりなおさねばならない。⁴⁴

5-11 オープンキャプションとの位置関係

番組に CC を付与する過程で、OC にすることも可能である。収録番組の場合、CC をエンコードした後、デコーダーを通して録画すれば、OC 付きのマスターテープができる。OC はスクリーンの下部、または上部に表示される。例えばニュースやショッピング・チャンネルなどのテロップ、流れ字幕などの情報はスクリーン下部 1/5 の位置するが、CC や OC はその上のスクリーン下部 2/5 の位置、またはスクリーン上部に黒をバックに白文字で表示される。

5-12 字幕を間違えた場合

FCC による罰則、基準などはない。The National Captioning Institute が 2003 年春に発表した調査結果（サンプルは PBS、地上波、ケーブルから 38 チャンネルを 2002 年 10 月 24 時間録画。）一般の番組で CC がまったく問題がなかったのは 63.6%、多少問題があったのは 24.1%、かなり問題があったのは 12.1%だった。

これに対して生字幕のニュース番組の場合、字幕の質はかなり落ちた。全米ニュース局（サンプルは CNN、NBC、ABC）の場合、まったく問題がなかったのは 30%、多少問題があったのは 65%、かなり問題があったのは 6%だった。地方ニュース局（サンプルは ABC、NBC、WB、フォックス）になると更にその質は低下し、多少問題があったのは 53.6%、かなり問題があったのが 46.4%という結果だった。⁴⁵

問題の内訳は以下のとおり。

	一般番組	地方ニュース	全米ニュース
タイプミス	3 4 %	5 0 %	6 2 %
代替、削除、欠落	7 6 %	7 3 %	7 3 %
欠陥、字幕凍結	録画情報信頼度低過ぎ	1 5 %	6 %
意味に影響あり	2 4 %	6 9 %	5 0 %

⁴⁴ 同上、p.37

⁴⁵ The National Captioning Institute Foundation, "The State of Closed Captioning Services in the United States", Spring 2003, p.9~11
<http://www.captionedmedia.org/caai/nadh136.pdf>

意味に大影響あり	7%	22%	1%
----------	----	-----	----

同調査でサンプル 203 人(内訳は聾啞者 25.6%、難聴者 21.2%、英語が第二外国語の者 26.6%、一般が 26.6%) を対象に CC の質に関する調査結果は次のとおりである。⁴⁶

CC の質 (%)

	全体	聾啞者	難聴者	英語が 第二外国語	一般
満足している	45	56	70	34	28
速度が速過ぎる	18	27	14	21	11
速度が遅過ぎる	4	6	2	9	0
言葉が難し過ぎる	11	13	12	4	17
ミスが多過ぎる	26	33	35	15	22
その他	16	25	28	7	7

なお、National Court Reporters Association (NCRA) は Certified Realtime Reporter (CRR) 試験合格者に資格を発行している。1 分あたり 180 ワードから 200 ワードの速度のディクテーションを 5 分速記して、96%以上の精度を達成したものに資格が与えられる。つまり 39 箇所以上のミスを犯すと試験には合格できない。また 2 箇所以上で 10 ワード以上続けて落とした場合も不合格となる。

同様に、National Verbatim Reporters Association (NVRA) も音声認識方式の速記試験による資格 Realtime Verbatim Reporter (RVR) を実施している。CRR 同様、合格するには 1 分あたり 180 ワードから 200 ワードの速度のディクテーションで 96%以上の精度が求められる。⁴⁷

⁴⁶ The National Captioning Institute Foundation, “The State of Closed Captioning Services in the United States”, Spring 2003, p.25
<http://www.captionedmedia.org/caai/nadh136.pdf>

⁴⁷ The Closed Captioning Handbook 2004, Gary D. Robson

6 英国字幕放送等に関する調査

概要

英国でも、視聴覚障害者向けの各種放送サービスの普及拡大（中でもクローズドキャプション（CC））について、野心的な政策目標が掲げられており、また特に CC についてはその普及が実際に進んでもいる。本報告書では主にこの背景にある政策動向や、実務的な業務実態を中心に述べるが、英国でもこうした背景には、各種政策効果と同時に、社会・経済的な側面の効果が大きかったと思われる。

特に、米国と同様に、使用言語が英語である点のメリットは、CC 普及の上で非常に大きな影響を与えている。

また、これも米国と同様に、人口比当たりの視聴覚障害者の数が多いという点（詳細は 6-5-1 節）も、日本とは異なる大きな社会的背景である。

以上のように、英国と日本では、字幕の普及に影響を与える背景が大きく異なる点に留意する必要がある。

6-1 字幕放送等の普及目標

英国では、Code On Television Access Services を制定しており、字幕放送、手話放送、解説放送に関する 10 年間の普及目標を公表している。BBC も OFCOM と締結した BBC Agreement により同様の目標を制定している。

これにより、英国の放送事業者は、10 年間で、対象除外とされなかった全番組の放送時間の最低 80% に字幕を、同 5% に手話を、そして同 10% に解説を、それぞれ付与することを義務付けられている。（以下表参照）なお、表に示した各年次の目標は毎年守られなければならないが、字幕放送については、5 年目で対象時間の 60% に字幕を付与していることを求めている点が特徴である。

なお、これらの数値が何故そのように決められたのか（例えば、何故手話放送の 10 年目の目標が、10% でも 3% でもなく、5% に決まったのか）という点については、基本的には（6-5 節でも述べるが）視聴覚障害者団体からの働きかけを受けて、政治的に目標数値が決まった側面があるとの回答を、現地障害者団体、現地放送関係者、及び現地コンサルタント

トへのヒアリングでは得た。例えば、解説放送のターゲットについては、Communications Act2003 でターゲットを制定する前に、政府は関係各位と調整を行い、50%を主張する視覚障害者団体と、実現可能性を主張する放送局とのバランスの中で、10%に決定されたと思われる。

英国の字幕放送等の普及目標

単位：対象除外とされなかった全番組の放送時間に占める割合（％）

	字幕	手話	解説
1年目	10	1	2
2年目	10	1	4
3年目	35	2	6
4年目	35	2	8
5年目	60	3	10
6年目	60	3	10
7年目	70	4	10
8年目	70	4	10
9年目	70	4	10
10年目	80	5	10

上記の開始基準年度（0年目）は放送局によって異なる。例えばBBC1及びBBC2については1997年が0年目とされている。ITV 2やITV Newsは、地上波デジタル放送を開始した2002年が初年度とされている。

なお、Channel3及びChannel4については字幕放送の目標は更に高く設定されており、10年目で90%とされている。

また、BBCについては、Channel3及びChannel4と同様に、10年目で90%という字幕付与目標が定められているが、これとは別に、自主目標を公表しており、これによると、2008年までには字幕付与100%を実現することとなっている。

BBC（BBC1及びBBC2）の字幕放送等の普及目標

単位：対象除外とされなかった全番組の放送時間に占める割合（％）

	字幕	手話	解説
2004	85	3	6
2005	90	3	6
2006	95	4	8
2007	97	4	8
2008	100	5	10

BBC (BBC3、BBC4、CBBC、Cbeebies、News24) の字幕放送等の普及目標

単位：対象除外とされなかった全番組の放送時間に占める割合（％）

	字幕	手話	解説
2004	60	3	6
2005	70	3	6
2006	80	4	8
2007	90	4	8
2008	100	5	10

なお、これに対して、2004 年度の主な放送事業者の字幕放送等の実績は以下の表に示すとおりであり、全ての局が目標をクリアしていることがわかる。

主な放送事業者の字幕放送等目標値の達成度（2004）

	字幕		音声解説		手話	
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
BBC ONE	85%	90.4%	6%	6.7%	3%	3.1%
BBC TWO	85%	92.1%	6%	6.2%	3%	3.1%
BBC THREE	60%	70.6%	6%	13.0%	3%	3.7%
BBC FOUR	60%	62.9%	6%	7.3%	3%	3.6%
CBBC	60%	67.6%	6%	5.3%	3%	3.3%
Cbeebies	60%	77.7%	6%	7.6%	3%	3.8%
BBC News 24	60%	60.6%	適用除外	-	3%	3.0%
民放						
ITV1(excl.GMTV)	83%	92.2%	6%	6.5%	3%	3.2%
ITV2	39%	44.0%	6%	7.9%	3%	3.6%
GMTV1	58%	91.1%	適用除外	-	3%	3.1%
GMTV2	39%	40.2%	6%	13.1%	3%	5.2%
Channel 4	80%	82.0%	6%	9.6%	3%	3.2%
Five	60%	62.2%	6%	6.1%	3%	3.1%

なお、オープンキャプションについては、特に目標値は設定されておらず、実際にオー

ブキャプション付きでと放送されている番組も、「See,Hear」等の視聴覚障害者向けのものを中心に、一部に留まっているとのことである。

6-2 対象除外番組

OFCOM は、字幕等を付与しなくてもよい番組（対象除外番組）を定めている。ある番組が対象除外番組か否かという点は、以下のような基準で決定される。

- ・ 字幕等の付与がもたらす視聴覚障害者のベネフィットの度合い
- ・ 想定対象視聴者の数
- ・ 字幕等の付与がベネフィットをもたらす視聴覚障害者の数
- ・ 想定対象視聴者が英国以外に居住している割合
- ・ 字幕等の付与が技術的に困難な度合い
- ・ 字幕等の付与のために必要なコスト

なお、以下の番組については、最初から対象除外と認められている。

- ・ 広告により構成される番組（ショッピングチャンネル等）
- ・ EPG
- ・ 他国で認可されているテレビ放送

想定対象視聴者数については、OFCOM では、年間で視聴シェア 0.05%以上のものであれば、対象除外とはならない。

また、技術的な困難さという観点からは、以下の番組・サービスについては対象除外であることが明記されている。

- ・ 音楽番組及びニュース番組に対する解説の付与（音声トラックの余裕が少なく、ニーズも少ない） 但し、OFCOM では、ニュースにおける映像の意味合い等について視覚障害者でも十分に理解できるような放送内容にするために、プロデューサー・編集者・キャスターが訓練を受けることを義務付けている。
- ・ 中国語など、市販のセットトップボックスで表示できない字幕の付与
- ・ 多言語番組における字幕や手話の付与（どの言語を字幕化または手話通訳すべきか判断が困難な場合）

一方、コストの面からは、OFCOM では字幕等の付与コストを算出している。そしてこれを基に、各放送事業者に対し、英国で得た収入の1%を字幕等の付与に支出することを求めている。これにより、「年間の字幕等の付与目標の100%」（レベル1）または「年間の字幕の付与目標の66%及び手話と解説の付与目標の100%」（レベル2）または「年間の字幕の付与目標の33%及び手話と解説の付与目標の100%」（レベル3）のどれかを達成すること

を定めている。しかし、収入の1%ではレベル3の達成も困難な事業者については、コスト面から対象除外とすることを認めている。

なお、OFCOM 自身が、放送局や字幕制作機関等に対し、直接的に字幕等の政策の助成を行っているかという点については、BBC や ITV 等の財務諸表等を見る限りでは、直接的な助成は行われていない可能性が考えられる。

6-3 字幕等の品質

OFCOM では、字幕等の品質（表示の仕方など）について、Guidance on Standards を定めており、公表している。

例えば字幕については、以下のような基準がある。（これらは、膨大な基準の中から抽出したものであり、一例である。）

- ・ 文章の分割について：接続詞で繋がれた長い文章については2つの文章に分割することは可（例：「We have standing orders, and we have procedures which have been handed down to us over the centuries.」を「We have standing orders and procedures.」、「They have been handed down to us over the centuries」に分割することは可）
- ・ 字幕のスピード：録画番組で表示する字幕は140字/分を上限とする。但し、例外的な番組においては、180字/分を上限とする。
- ・ 時差：字幕が画面より遅れるのは、モノログ（一人のスピーカーによる比較的長い台詞）では6秒以内、ドラマ等では2秒以内を目標とすべき。

同様に、手話についても、例えば「可能であれば、画面の6分の1を手話通訳者の映像が占めることが望ましい」など、ガイドラインを制定している。

また、解説についても、例えば現在進行形を使うべきであることや、避けるべき表現、活用すべき表現など、詳細なガイドラインを制定している。

6-4 字幕放送等の時間帯

OFCOM では、字幕放送と解説放送については、いわゆるプライムタイムをはじめとする、視聴率の高い時間帯（ピークタイム）に放送されるべきとしている。しかし手話放送については、現在はオープン形式でしか制作できないことから、ピークタイム以外の時間帯で放送されることを受け入れている。

また、普及目標達成のために、（字幕等を付与済みの）番組の再放送を多用することは避けるべきとしている。

6-5 英国における字幕放送等を普及促進するドライビングフォース

6-5-1 障害者数の多さ

英国で障害者向け放送が広く行われている背景には、まず対象である障害者の数が多いことが挙げられる。

但し、「聴覚障害者」において、英国と日本ではのカウントの仕方（基準）が異なる。

英国（各地域）における聾者・聴覚障害者数（推定、人）

	16～60歳	60歳以上	合計
英国全体			
軽度 / 中度聴覚障害者 (Mild/Moderate Deafness)	2,366,000	5,891,000	8,257,000
強度 / 重度聴覚障害者 (Severe/Profound Deafness)	108,000	580,000	688,000
全体	2,474,000	6,471,000	8,945,000
イングランド			
軽度 / 中度聴覚障害者 (Mild/Moderate Deafness)	1,981,000	4,930,000	6,911,000
強度 / 重度聴覚障害者 (Severe/Profound Deafness)	90,000	487,000	577,000
全体	2,071,000	5,417,000	7,488,000
スコットランド			
軽度 / 中度聴覚障害者 (Mild/Moderate Deafness)	203,000	498,000	701,000
強度 / 重度聴覚障害者 (Severe/Profound Deafness)	9,000	48,000	57,000
全体	212,000	546,000	758,000
ウェールズ			
軽度 / 中度聴覚障害者 (Mild/Moderate Deafness)	118,000	321,000	439,000
強度 / 重度聴覚障害者 (Severe/Profound Deafness)	5,000	31,000	36,000
全体	123,000	352,000	475,000
北アイルランド			
軽度 / 中度聴覚障害者 (Mild/Moderate Deafness)	62,000	140,000	202,000
強度 / 重度聴覚障害者 (Severe/Profound Deafness)	3,000	14,000	17,000
全体	65,000	154,000	219,000

（The Royal National Institute for Deaf People: RNID ホームページより）

例えば、上の表に示すように、英国全体では 895 万人の聴覚障害者が暮らしているとさ

れている。これは、人口 5980 万人の英国では、これは 6.7 人に 1 人という計算になる。日本の聴覚障害者数はおよそ 30 万人（およそ 400 人に 1 人）とは大きな違いがあるが、これは、英国では 25 デシベルを基準にしているからである。（日本では 70 デシベルが聴覚障害として認定される基準である。） 但し、英国で強度 / 重度聴覚障害と認定される基準は 70 デシベルであるが、英国の強度 / 重度聴覚障害者数は 69 万人と、人口当たりになると 86 人に 1 人と、日本よりも多い。

ここにおける、聴覚障害者の聴覚障害の程度は下記の通りである。

軽度の聴覚障害者 (Mild Deafness) ...25 ~ 39 デシベル以上の聴力の者

中度の聴覚障害者 (Moderate Deafness) ...40 ~ 69 デシベル以上の聴力の者

強度の聴覚障害者 (Severe Deafness) ...70 ~ 94 デシベル以上の聴力の者

重度の聴覚障害者 (Profound Deafness) ...95 デシベル以上の聴力の者

6-5-2 法律の性格

上述の OFCOM による規制は、日本とは異なり、放送免許認可条件の一つとして位置づけられる、強行法的な性格を持つ。

このことから、各放送事業者は、字幕放送等の拡大に真剣に取り組まざるを得ない状況となっているとのことであった。

6-5-3 字幕放送付与の経済効果

字幕放送を上記のように政策的に拡大することを正当化する根拠として、OFCOM では字幕放送拡大の Regulatory Impact Assessment (政策効果評価) を計算している。

この試算の前提は、番組への字幕付与の、聴覚障害者からみたベネフィットは、レンタルビデオを毎週 1 本見ることに相当するというものである。ビデオレンタル費を 5 ポンドとし、聴覚障害者のように字幕に常に頼る視聴者の数を 100 万人とすると、字幕付与の経済効果は毎年 2.6 億ポンドに上るという計算結果が得られている。

これに対し、RNID では、テレビの平均視聴時間は毎週 3.5 時間程度であり、これを基に計算すると経済効果は毎年 17 億ポンドになるはずだと主張している。

6-5-4 視聴覚障害者団体からの働きかけ

RNIB や RNID といった視聴覚障害者団体からの情報によると、英国で視聴覚障害者団体は、

視聴覚障害者向け放送を拡大するために、国会議員に対して連日のように視聴覚障害者が手紙を送るなどのロビイング活動を熱心に行ったとのことである。

この成果が、上記の OFCOM 規則のかたちで結実したというのが、これらの団体の見方である。

また、これを裏付けるように、RNIB 等は現在も更にロビイング活動を活発に行っている。

例えば、2005 年 11 月 8 日に開催された下院の文化・メディア・スポーツ小委員会において、RNIB の代表者が証人として招聘されており、解説放送の放送時間割合を現行規制の 10% から 20% に増大するよう要求している。

この要求を正当化する材料として、RNIB は以下を掲げている。

- ・ 1991 年の RNIB 調査、2003 年の RNIB 調査等により、66～94% の視覚障害者が解説放送を要求していること
- ・ 1995 年調査により健常者の 40% も解説放送が便利と考えていること
- ・ 10% では解説放送番組の制作コストが下がらない可能性があること

こうした材料を基に RNIB では、同委員会にメモも提出して、審議を要求しているのである。

更に、上記のように英国では視聴覚障害者と認定される数が多いが、英国の全障害者の購買力は 500 億ポンド (= 2.01 兆円) と Disability Rights Commission では見積もっており、この大きな購買力も、放送局やスポンサーを説得する上では大きな効果を挙げていると考えられる。

また、BBC によると、英国では視聴覚障害者団体が、BBC や民放の字幕放送や解説放送等を細かくチェックしており、例えば字幕の量の少なさや、字幕の質的問題が発生したりすると、すぐに団体機関紙等にて公表されてしまう。このような、障害者団体からの高い期待・圧力も、英国の放送局が真剣に取り組む背景となっているとのことであった。

6-5-5 字幕放送番組等の制作コスト

英国で最大手の字幕等制作会社である ITFC によると、字幕放送番組等の 1 時間当たりの制作コストは以下の通りである。

- ・ 字幕放送番組 (生放送): 平均 250 ポンド程度 (1 ポンド = 約 210 円) / 時間
 - ・ 字幕放送番組 (オフライン): 平均 300 ポンド程度 / 時間
 - ・ 解説放送番組: 平均 500 ポンド / 時間
- (手話放送についての制作費は不明)

但し、字幕放送番組については、生放送・オフラインともに制作費が急激に下がっているとのことである。この背景には、技術的なコストダウンの仕組みの拡大や、競争の激化に加え、字幕放送時間が急拡大していることから、契約規模が拡大し、単価が下がっているということが挙げられる。

6-5-6 字幕放送等の制作方法の現状と今後の展望

字幕放送の制作方法

生放送への字幕付与を実現するためには、ステノグラフ（14 個のキーがある特殊キーボードを用いた高速入力）やペロタイプ（同様）といった特殊な機械が利用されている。

聴覚障害者団体によると、ステノグラフとペロタイプは一長一短であるが、民放から委託を受けて討論番組への生字幕制作を行う上記 ITFC ではペロタイプを使い、BBC 等ではステノグラフが用いられることが多いという。なお、字幕制作者に資格が必要かという点については、障害者団体からの情報では法廷速記者の資格に加えて **Council for the Advancement of Communication with Deaf People (CACDP)**での訓練を必要としているとのことであった。

また、ニュースであっても、多くの題材は放送時刻の数十分あるいは数時間前に決定されており、ニュース原稿もすでにできている。更に夕方 6 時のニュースと同じ内容が 10 時に放送されることもある。このように、放送原稿が完成していて事前に字幕入力可能な題材を扱うのが、録画入力・再生機である。録画字幕入力者は、ニュース放送開始の前に、ニュース映像をコンピュータから引き出し、ニュース原稿を見、録音された音声があれば、それを聞きながら字幕を作成しておく。そしてニュース放送時刻になると、放送中の映像の進行に合わせ、出力キーを押すのである。そうすると、事前に準備された字幕が次々に放送されるという仕組みである。30 分ニュースのうち、およそ 3 分の 2 の字幕は事前に制作し、生で送出している字幕であるという。そして、3 分の 1 が、アナウンスを聞きながらステノグラフで入力する字幕である。

なお、BBC では生字幕付与を行うに際し、上記のステノグラフに加えて、いわゆるリスピーク方式も活用している。

これは、音声入力担当者がレシーバーを掛け、そこから聞こえてくる放送の音声を、マイクの前で即座に反復してしゃべり、その声をコンピューターは認識して文字にするものであり、3～4 秒の遅れで、画面に字幕が表示される。

文章が終わるところで音声入力担当者が「full stop」といえば「.」（ピリオド）が表示され、疑問符の終わりには「question mark」と叫んで「？」を表示させる。改行や「！」

も、すべて音声で入力できる。

音声入力担当者の声を事前に音声認識システムに認識させておくこと、雑音を極力遠ざける（または雑音も音声認識システムに予め認識させておく）こと、テクニカルタームを事前に登録しておくこと、等の条件さえ整えば、この方式による正確度は、普通の話し方であれば 98%とのことである。これは、ステノグラフによる字幕生成の正確度に劣らないレベルであり、ステノグラフよりもランニングコストが低いため、今後は急速に広がっていくものと見られている。

現在のところ、BBC には音声認識字幕室は 2 つしかないが、2008 年までに 100%の番組に字幕をつけるという BBC の公約を達成するためには、音声認識字幕が重要な役割を果たすと期待されている。

一方、オフライン字幕（生放送ではない番組への字幕付与）や、ニュース番組における上記のようなオフライン部分への字幕付与について、BBC では“Assisted Subtitling”という新しい技術の導入を始めている。

これは、生放送ではない部分については番組台本を活用する（台本を字幕として画面表示する）というものである。この時、台本が字幕として画面に表示されるタイミングが、画面上で発せられている音声とシンクロナイズすることが必要になる訳であるが、BBC では音声認識技術を改良して、このシンクロナイズを実用化レベルにまで高めることに成功した。

すでに、2001 年の段階でこの技術はグラスゴーやホワイトシティといったエリアで運用されており、現在は更に活用エリアが広がっている。

この技術を用いると、オフラインへの字幕付与については 50%の時間及びコストダウンが可能になるとされている。

なお、オフライン字幕については、仮に台本が存在しない場合でも、この“Assisted Subtitling”と、生字幕で用いられるリスピーク方式を組み合わせることで、比較的 low コストで字幕を付与することが実用化されている。この方法は“Script Capture”と呼ばれ、台本が存在しない番組でも、予め音声入力担当者と音声認識システムを活用したリスピーク方式により台本を作り出しておき、これを放送時に Assisted Subtitling により字幕として音声とシンクロナイズさせながら送出するというものである。

また、近年の技術的な対応としては、生字幕に対するリモート対応というものがある。

これは、多くの局・チャンネルにおいて、生字幕を付与する時間帯が重複することが多く（夕方のニュースの時間帯等）、一方で字幕制作者が不足していることに対応するために開発されているものである。

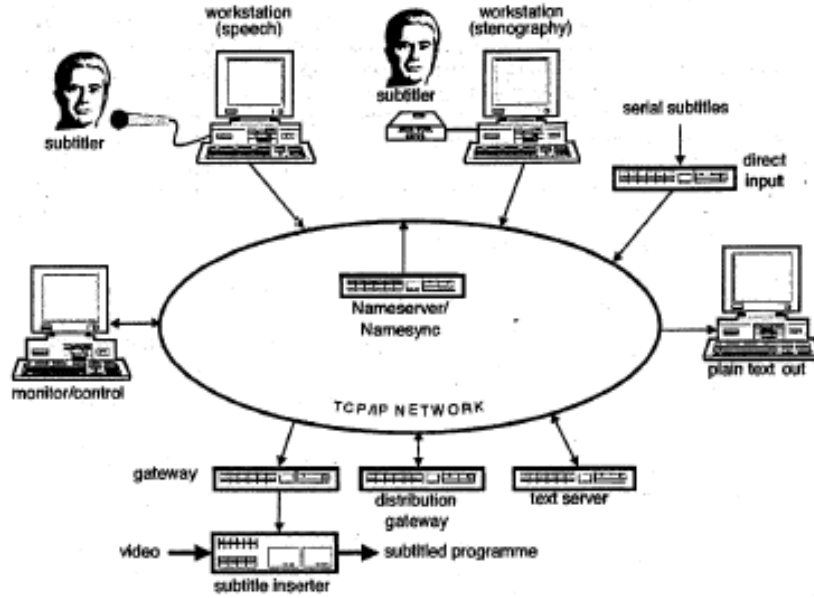
基本的には、以下のような特徴を持つ。

- ・ 生放送番組の字幕制作が字幕制作者の自宅など、リモート地域からでも可能
- ・ 字幕制作方法はステノグラフ入力とリスピークのどちらにも対応可能
- ・ リモートで字幕制作中の字幕制作者同士、及び中央が相互にコミュニケーション可能

システムの概念図を次頁に示す。

基本的には、2人以上の字幕制作者がリモートで字幕を制作し（一人がメイン、もう一人がサブという役割分担）、それぞれが制作した字幕が TCP/IP ネットワーク上の特殊なアプリケーションで表示・伝送され、中央でモニタリングを掛けられると共に、ゲートウェイから放送局の字幕送出機に送られて、字幕として放送されるというものである。

図 BBC の進めるリモート生字幕制作システム概念図



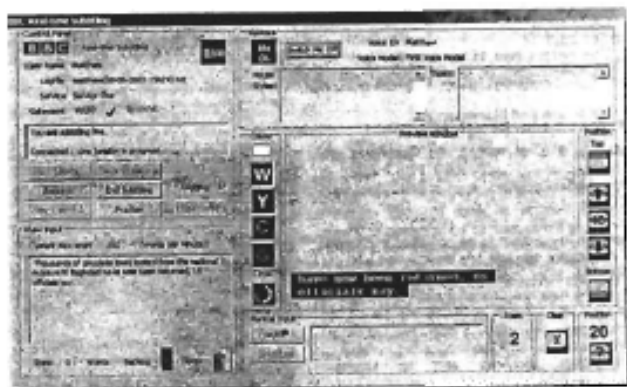
出所：BBC

写真 家庭で字幕制作を行う
字幕制作者



出所：BBC

図 字幕制作中に字幕制作者
の利用するスクリーンに表示
される画面



出所：BBC

一方、いわゆる「ダイレクト音声認識」(発せられている音声をコンピューターが直接認識して字幕として送出)については、BBC では実用化の目処は立っていない。

手話放送の制作方法

手話放送について BBC では、計画通りに進めると 1 日に 3.5 時間 (5 チャンネル全体で) を放送する義務が生じるが、これについては、「See Hear」という 1981 年開始の聾啞者向け番組に加えて、新たに「手話番組の時間」という時間帯を BBC1 及び BBC2 の深夜に設け、自然番組やドキュメンタリー、討論番組に手話を付けて再放送している。これらの番組への手話付与のために BBC では、「手話スタジオ」を新設し、専属の聾啞スタッフを置いている。

英国では手話放送について、手話通訳者が番組を手話に転換し、その様子を画面の隅にワイプで表示するという、オーソドックスな手法が採用されている。

しかし、この手法では画面の一部を手話通訳者に当てるために、健常者にとっては必ずしも好ましいものではない。このため、放送局にとっては、どの番組に手話を付けるかという選択が、完全には自由にはならないことになる。

また、この手法ではどうしてもコストが嵩むことになる。

これらの問題に対応するために、BBC では手話放送について「クローズド手話」化すること、及び低コスト化の試みがなされている。

現在、特に熱心に研究が行われているのは、CG 手話である。

イギリス民放連 (ITC) は大学に委託研究して、英文のテキスト原稿をコンピューターが読み取って、CG で手話をさせるというものである。手や指だけでなく、英語の発音に合わせて口も動いている。ITC では、今後 6 ~ 7 年以内に、これを実用化させようと考えている。

BBC でも “AVATAR” という CG 手話の研究を行っている。

これらの技術では、手話情報はコーディングされてクローズドなカタチで視聴者まで伝送され、受信機側でデコードされて CG 手話として画面の一部で再生される。

BBC では手話のクローズド化については、CG 手話とは別に、手話通訳者の手話画面を MPEG4-AVC 方式で圧縮してデコードして送信する方法も検討している。この方式を用いると、手話情報の伝送に必要なビットレートは 200KBPS と、MPEG2 の 3 分の 1 で済むことになる。但し、まだ実用化段階には至っておらず、研究が続けられている。

解説放送の制作方法

英国では解説放送について、解説者解説部分を朗読し、それを音声のサブチャンネルで送信するというオーソドックスな手法が採用されている。

今後の展望としては、利用者の利便性を高めるような解説放送の付加価値化が図られている。(コストダウンの方向については情報を得ることができなかった。)

付加価値化の方法としては、以下のようなものがある。

- ・ 音声圧縮による伝送ビットレートの低減
- ・ 利用者側でメイン音声と解説音声のボリュームを別々にコントロールできる
“Receiver MIX” という仕組み(視聴者が、下の写真に示すような機器を受信機に挿入することで達成する)

なお、“Receiver MIX”については、これを内蔵した受信機が既に実用化し、2003年末から販売されている。

写真 Receiver MIX のモジュール



出所：BBC

7 韓国字幕放送等に関する調査

韓国では、障害者の情報アクセス充実の機運が1990年代半ばから高まり、それ以来、いわゆる障害者を含む疎外階層のための情報アクセスと利用権を中心に法・制度的努力が続けられてきた。障害者のための情報のアクセスから始まった制度化は2000年に入って放送分野にも導入されるようになった。現在は、制度整備やアクセス環境整備のための取り組みが急がれている。

なお、韓国と日本の間には、英語と日本語ほどの差ではないものの、やはり入力面の違い（基本的にはハングル文字が中心で、変換を要する漢字は韓国では近年あまり使われなくなっている）があり、これが字幕制作の実務面では大きな影響を与えている可能性がある点には留意が必要である。

7-1 障害者のための放送の実態

7-1-1 概況

韓国で始めて字幕放送が行われたのは1999年であり、それほど長い歴史とはいえない。1999年2月最初のMBCに次いでKBS1、SBSがすぐ始め、その翌年には教育専門の地上波放送であるEBSが、そして2003年にはKBS2が字幕放送をスタートさせ、やっと全国レベルの地上波放送局が全部足並みをそろえることになった。また、2004年6月からは衛星やケーブルTV向けのチャンネル事業者である国政放送のK-TVなどが新たに字幕放送に加わっている。

字幕放送は2005年末現在、地上波放送4社(KBS, MBC, SBS, EBS)とケーブルTVのK-TV(国営放送)だけが実施しており、解説放送は地上波放送3社(KBS、MBC、SBS)だけが行っている。

字幕・手話及び解説放送は主に全国レベルの地上波放送に限られており、ローカル放送をはじめケーブルTV、衛星放送などではほぼ実施されていない状況にある。また、教育放送であるEBSによる教育番組への解説放送も実施されていない。

字幕（クローズドキャプション）・手話・解説放送編成の現状(2001～2006年)

放送局	年度	週間放送時間(比率)			
		総放送時間	字幕放送	手話放送	解説放送
KBS-1	2001年	6,820分	2,050分(30.0%)	65分(0.9%)	-
	2002年	7,285分	2,440分(33.4%)	65分(0.8%)	-
	2003年	7,275分	2,480分(34.0%)	65分(0.8%)	55分(0.7%)

	2004年	7,275分	2,535分(34.8%)	35分(0.4%)	55分(0.7%)
	2005年	7,330分	2,750分(37.5%)	35分(0.5%)	70分(1.0%)
	2006年	8,390分	4,820分(57.4%)	100分(1.2%)	290分(3.5%)
KBS-2	2001年	6,990分	-	-	-
	2002年	7,480分	-	-	-
	2003年	7,345分	845分(11.5%)	-	-
	2004年	7,305分	1,530分(20.9%)	80分(1.0%)	210分(2.8%)
	2005年	7,360分	1,745分(23.7%)	100分(1.4%)	290分(3.9%)
	2006年	8,365分	2,335分(27.9%)	100分(1.2%)	460分(5.5%)
MBC	2001年	7,513分	1,836分(24.4%)	40分(0.5%)	55分(0.7%)
	2002年	7,356分	2,452分(33.3%)	40分(0.5%)	55分(0.7%)
	2003年	7,782分	2,137分(27.4%)	40分(0.5%)	55分(0.7%)
	2004年	7,827分	2,163分(27.6%)	40分(0.5%)	210分(2.6%)
	2005年	7,195分	2,360分(32.8%)	40分(0.6%)	295分(4.1%)
	2006年	8,360分	4,205分(50.3%)	40分(0.5%)	458分(5.5%)
SBS	2001年	7,105分	438分(6.1%)	40分(0.5%)	-
	2002年	7,305分	752分(10.2%)	40分(0.5%)	-
	2003年	7,305分	1,242分(17.0%)	40分(0.5%)	-
	2004年	7,305分	2,012分(27.5%)	40分(0.5%)	120分(1.6%)
	2005年	7,305分	2,410分(33.0%)	20分(0.3%)	326分(4.5%)
	2006年	8,380分	3,310分(39.5%)	20分(0.2%)	270分(3.2%)
EBS	2001年	6,980分	565分(8.0%)	-	-
	2002年	6,980分	740分(10.6%)	-	-
	2003年	6,980分	780分(11.1%)	70分(1.0%)	-
	2004年	7,200分	1,085分(15.0%)	90分(1.2%)	-
	2005年	7,050分	1,090分(15.5%)	90分(1.3%)	-
	2006年	8,000分	1,350分(16.9%)	90分(1.1%)	

*2006年は1月末基準

(出所：韓国放送研究院まとめ)

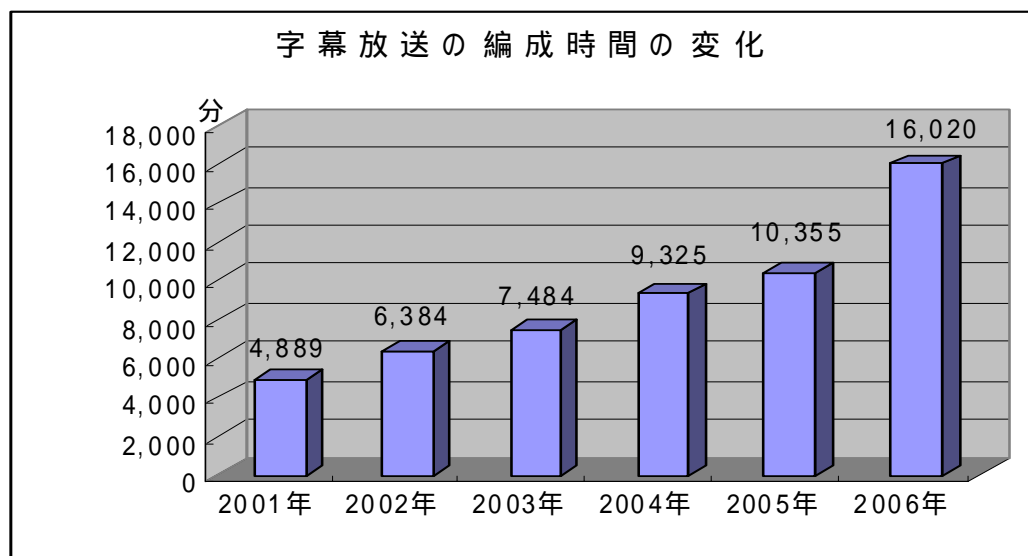
7-1-2 字幕放送

字幕放送の場合、地上波放送 5 チャンネルのうち、KBS1 が一番高い編成比率と時間を示している。2006 年 1 月末の時点で KBS1 は 1 週間の総放送時間 8,390 分のうち、57.4% に当たる 4,820 分を字幕放送している。その次が MBC(4,205 分、50.3%)、SBS(3,310 分、39.5%)、KBS-2(2,335 分、27.9%)、EBS(1,350 分、16.9%) の順になっている。

2001 年には 1 週間の総放送時間のうち、字幕放送が占められるシェアは 13.8% であったが、2005 年には 28.6% と 2 倍強伸びて、さらに 2006 年には 38.6% へと急増している(下のグラフを参照)。特に 2005 年から 2006 年にかけてわずか 1 年で 10% も増えたのは、2005 年 12 月から障害者のための放送などの充実を条件に昼間の時間帯の放送を認めた措置⁴⁸によるものが大きいと見られる。

また、字幕放送はニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティーなどジャンルにこだわることなくに手がけられている。

ちなみに字幕放送のお知らせは、TV 受信機の左側の上端に「聴覚障害者のためのハングル字幕放送」という文字が現われて、字幕放送のスタートを告げる方式である。



(出所：韓国放送研究院まとめ)

⁴⁸ 12時から16時までの時間帯

7-1-3 手話放送

手話放送の場合、KBS1,2 がそれぞれ 100 分と一番多く、次いで EBS90 分、MBC40 分、そして SBS が一番低い 20 分となっている。KBS と EBS は 2001 年に比べ、手話番組の時間が多少増えているが、MBC は 2001 年以來 40 分と変わらないし、SBS はかえって 40 分から 20 分と減っている。総放送時間のうち、手話番組の時間が占める比率は 0.8% であり 2001 年の 0.3% (105 分) に比べ少々増えている。

手話放送は字幕放送や解説放送よりも顕著に低い。その大きな理由はマルチ画面によって非障害者の視聴を妨げているため、放送局が制作に消極的になっているからである。手話がよくつけられているジャンルはニュース番組である。下の表のように 5 本の手話付きの番組のうち、ニュースが 4 本も占めていることわかる。

主な手話付き番組(2005 年秋改編以後)

放送局	番組名	分野	ジャンル	曜日	時間
KBS1	KBS ニュース 5	報道	ニュース	月、土	25 分
	KBS ニュース	報道	ニュース	日	10 分
KBS2	愛の家族	教養	生活情報	月～木	100 分
MBC	MBC ニュース	報道	ニュース	火、水	40 分
SBS	SBS ニュース	報道	ニュース	木、金	20 分

(出所：韓国放送研究院まとめ)

7-1-4 解説放送

解説放送は MBC が一番早く行っており、他の放送 4 チャンネルは 2003 年あたりからスタートしている。KBS2 が 460 分(5.5%)で一番多く、その次ぎが MBC(458 分、5.5%)、KBS1(290 分、3.5%)、SBS(270 分、3.2%)の順となっている。EBS は今の所、解説放送を実施していない。

1 週間の総放送時間のうちに解説放送が占める比率は 2004 年には 1.6% (575 分) に過ぎなかったが、2006 年には 3.6% (1,478 分) と 2 倍以上の伸びを見せている。

解説番組は主にドラマに集中されている。視覚障害者にとっては、聴覚は可能なので、情報性の強いニュースなどの番組より、画面の解説が必要なドラマなどのジャンルへのニーズが多い。下の表のように 10 本の番組のうち、7 本がドラマになっている。

主な解説放送の編成状況(2005 年秋改編以後)

放送局	番組名	分野	ジャンル	曜日	時間
KBS1	橐の木に愛がかかっている	娯楽	ドラマ	金	55 分
	特選ドラマ	娯楽	ドラマ	水、木	55 分
	独立映画館	娯楽	映画	木	60 分
KBS2	夫婦クリニック 愛と戦争	娯楽	ドラマ	金	70 分
	アンコール ドラマシティー	娯楽	ドラマ	土	80 分
MBC	ノンフィクション パノラマ	教養	ドキュメンタリー	木	55 分
	ドラマ特選	娯楽	ドラマ	火～金	240 分
	MBC 名作ドラマ	娯楽	ドラマ	土	70 分
SBS	ドラマ特選	娯楽	ドラマ	火～金	240 分
	特選 ヤシンマンマン	娯楽	バラエティー	土	60 分

(出所：韓国放送研究院まとめ)

7-1-5 障害者のためのチャンネル

字幕放送などは、時間割りの編成に取り組んでいる障害者のための放送であるが、一方では、チャンネル毎の障害者専門放送が出てきている。

今年 3 月に本放送をスタートした‘福祉 TV’は、衛星放送やケーブル TV 向けの韓国最初の障害者専門のチャンネルとしてすべての番組に対して字幕、手話、解説をつけて放送することを目指しているという。そのほかにラジオでの取り組みとして KBS 傘下のラジオ局である‘KBS 3 ラジオ’は障害者などを含む疎外階層のための放送をメインとしている。

また、インターネット上の動きも活発になっている。放送事業者の枠組ではないが、ネット上では、‘障害者宣教放送’、‘聾啞人宣教放送’、‘インターネット韓国聾啞放送’、‘希望放送’等の障害者関係のネット放送局が活動している。

7-2 制度的背景

韓国で急速に字幕放送等(中でも字幕放送)が伸びている背景には、制度的な後押しがある。これらの障害者のための放送規制は、任意規定になっており、法的拘束力は強くないものの、規制改革に加えて、受信機の普及事業や今年から本格的になる放送発展基金による制作費支援、有料放送での公益チャンネル指定、制作等のインフラ支援など、様々なアプローチで取り組んでいる。

7-2-1 障害者の情報アクセス制度に関する制度的背景

2005年9月現在、韓国の保健福祉省に登録されている障害者の数は、174万人に上っている。そのうち視覚障害者が18万5千人、聴覚障害者が15万6千人を占めている。高齢者に多く現われる難聴者まで含めると、相当な人数に及んでいると推定される。

障害者のためのいわゆるアクセス権は最高法である憲法を始め様々な法律で保障されている。その最初のより所は韓国の憲法に定めている‘幸福を追求する権利’(第10条), ‘人間らしい生活をする権利’(第34条)の一環として発せられている。

また、前述したように1990年代半ばから障害者などの情報アクセスと利用を制度化する動きが顕著になったが、そのはしりといえるのが、1997年に成立した‘障害者・老人・妊婦などの便宜増進の保障に関する法律’である。同法第4条でも‘障害者などは人間としての尊厳と価値及び幸福を追求する権利の保障を受けるために障害者等ではない人々が利用する施設と設備を他の人の手伝いなしに同等に利用し障害者などではない人々がアクセスできる情報に他の人の手伝いなしに自由に接することができる権利を持つ’と障害者の情報へのアクセス権を明確に規定している。その上、第6条では‘国及び地方自治体は障害者などが生活を営むにあたって安全で便利に施設及び設備を利用し情報にアクセスできるように様々な対策を講じなければならない’と行政側の責務を強調している。

憲法の精神などをうけて情報化促進基本法⁴⁹も第16条の1で政府の差別のないユニバーサル役務の提供を定めたうえ、1999年に第16条の2を新たに設けて‘政府は障害者・高齢者・低所得者等社会的弱者らが自由な情報アクセスの機会を享有し情報化の恩恵を蒙るように情報通信料金・情報通信機器の使用便宜性及び情報利用能力の開発などに必要な対策を講じなければならない’と政府による情報アクセスの向上のための具体的な対象と方向性を明確にしている。

また、障害者福祉法⁵⁰は‘障害者の完全な社会参加と平等を通じた社会統合’を基本理念としており、そのために同法第20条の1項では‘国と地方自治体は障害者が円滑に情報にアクセスしその意思を表示することができるように電気通信及び放送施設などを改善するよう努力しなければならない’とした上で引き続き第2項では‘国家と地方自治体が放送局の長など民間事業者に対してニュース、国家的主要事項の中継など大統領令で定める放送番組に聴覚障害者のための手話または字幕などの放送を要請することができる’と規定している。さらに同法の施行令第11条では、福祉法第20条の2項に基づいて国家や地方自治体の長が要請できる手話番組・字幕放送番組の範囲を以下のように詳しく定めている。

⁴⁹ 第16条の1 ‘政府は情報通信網に対する自由なアクセスと利用を保障し地域的・経済的差別のない均等な条件のユニバーサル役務が提供できるように必要な対策を講じなければならない’

⁵⁰ 障害者福祉法の第20条では障害者の円滑な情報へのアクセス、第27条では経済的負担の軽減が明記されており、とくに第55条ではリハビリ補助機器として情報通信機器が含まれる可能性を規定している。

放送法施行令第 50 条第 2 項の規定による報道放送

公職選挙及び選挙不正防止法第 70 条ないし第 74 条、第 82 条及び第 82 条の 2 の規定による選挙放送

国民の祝日に関する法律による祝日及び各種の記念日などに関する規定による記念日の儀式とそれに伴う行事の中継放送

その他、聴覚障害者の情報接近が必要だと認定し、保健福祉部長官が定めて公示する放送

一方、障害者のアクセス権等が侵害されないように国家人権委員会法の第 30 条第 2 項第 1 号でも「合理的な理由なしに性別、宗教、障害、年齢、社会的身分、出身地域、出身民族、容貌などの身体条件、婚姻如何、妊娠または出産、家族状況、人種、皮膚色、思想または政治的意見、刑の効力が失効された前科、性的志向、兵歴を理由に財貨と用役において特定の人を優遇・排除・区別したり不利に待遇しないようにしなければならない」としている。

以上のように韓国社会では障害者のためのアクセス権は憲法をはじめ、いろいろな情報や福祉、人権絡みの法律で明確に保障されている。しかし、アクセス権の確保は任意や宣言的なレベルに留まっており、法的拘束力がよわいため、それほど強くないのが実状である。

7-2-2 障害者向け放送に関する制度的背景

韓国社会に 1990 年代半ば最初情報へのアクセスという広い意味で紹介されたが、その流れをうけて放送での制度化に結び付けられるのは 2000 年からである。字幕放送はその制度化以前に放送事業者レベルで行われていたが、本格的な制度整備は 2000 年 3 月に放送委員会が立ち上げられてからである。ここでは放送政策の主務機関である放送委員会の制度化と取り組みを中心に述べたい。

(1) 放送制度の概況

韓国では、放送一般の政策作りと規制は放送委員会、放送産業の振興政策作りは政府組織の文化観光省、放送技術や周波数、通信政策と規制は同じく政府組織の情報通信省が管轄する 3 つ巴になっている。そのうち、主に障害者のための放送制度や支援などを担当しているのは放送委員会である。

韓国は日本と同様公共と民間放送の二元体制を根幹としている。ただし、全国放送あるいは全国ネットの放送ができる放送局は 4 つあるが、そのうち 3 つが公共放送の枠に入る公共色の強い放送体制をとっている。まず KBS と EBS⁵¹は全国放送のできる公共放送で、

⁵¹ 政府出資の KBS は地上波で二つのチャンネルを持っており、両方とも全国放送できる。また同じく政府出資の教育専門放送の EBS は、KBS の送信インフラを通じて全国放送されている

MBC は元々民間放送からスタートしたが、公益法人である「放送文化振興会」が筆頭株主となっており、一応公共放送の枠に入っている。純粹に民間放送として全国ネットの放送ができる放送局は 1991 年にできた SBS しかない。

韓国において障害者のための放送は、公共放送の強い風土の中で実際前述した地上波放送 4 局を中心として行われている。

(2)障害者のための放送制度

障害者のための放送制度が始めて盛り込まれるようになったのは 2000 年に施行された放送法である。まず、放送法第 1 条での目的で「...放送の公的責任を高めることで、受け手の権益保護と民主的世論の形成及び国民文化の向上をはかって放送の発展と公共の福利の増進に役立つ」と規定し、視聴者主権の保障を明らかにしている。また、同法第 6 条の 2 項では、「放送は性別・年齢・職業・宗教・信念・階層・地域・人種などを理由に放送編成に差別をしてはならない。」と明記している。

その放送法の基本概念の中の障害者向け放送の部分については、同法第 69 条で「放送事業者は大統領令の定める所により障害者の視聴を助けることができるように努力しなければならないし、必要な場合、放送委員会は基金から経費の一部を支援することができる」と明記している。法改正を行う 2002 年以前までは、その対象が「地上波放送事業者」だけになっていたが、多チャンネル多メディア時代に相応しくケーブル TV や衛星放送⁵²などにも適用できるように「放送事業者」に改正したものである。

改定前	改定後
地上波放送事業者は大統領令の定める所により障害者の視聴を助けることができるように努力しなければならないし、必要な場合、放送委員会は基金から経費の一部を支援することができる。	放送事業者は大統領令の定める所により障害者の視聴を助けることができるように努力しなければならないし、必要な場合、放送委員会は基金から経費の一部を支援することができる。

また、2003 年には放送法施行令の改正を行い障害者向け視聴支援の放送を「手話または字幕等」から「手話・字幕・解説放送等」へと規定した。施行令の改正は、放送事業者一般まで広げたことと、視覚障害者のための解説放送を明確にしたことに大きな意義がある。

⁵² 多チャンネル型衛星放送サービスは 2002 年 3 月からスタート。

改定前	改定後
<p>法律第 69 条第 7 項の規定によって<u>地上波放送事業者</u>は障害者の視聴を助けるために 以下の各号に該当する放送番組に対しては<u>手話または字幕等</u>を利用した放送をするよう努力しなければならない。</p> <p>1. 法律第 75 条の規定による災難放送番組</p> <p>2. 障害者福祉法施行令第 11 条の規定による放送番組</p> <p>3. 障害者の放送視聴が必要と認められ、放送委員会の規則で定めた放送番組⁵³</p> <p>4. その他、障害者の福祉を目的として編成された放送番組</p>	<p>法律第 69 条第 7 項の規定によって<u>放送事業者</u>は障害者の視聴を助けるために以下の各号に該当する放送番組に対しては<u>手話・字幕・解説等</u>を利用した放送をするよう努力しなければならない。</p> <p>1. 法律第 75 条の規定による災難放送番組</p> <p>2. 障害者福祉法施行令第 11 条の規定による放送番組</p> <p>3. 障害者の放送視聴が必要と認められ、放送委員会の規則で定めた放送番組</p> <p>4. その他、障害者の福祉を目的として編成された放送番組</p>

さらに 2005 年 12 月には ‘放送評価に係わる規則’ (放送委員会規則)も改定された。障害者のための字幕放送・手話番組・解説放送を行う放送事業者の評価点数（免許更新等の際に考慮に入れられる）を以前より引き上げる改正を行うことで障害者のための放送を促す狙いがある。

字幕放送などを通じて放送へのアクセスのほかに障害者のための放送は様々な形で行われている。たとえば、放送内容での配慮を規定している放送法第 33 条の審議規定や、受信料の免除(放送法施行令第 44 条)などがある。以下は放送法に係わる障害者のための規定である。

⁵³ 放送法施行に関する放送委員会規則

第 14 条(障害者の視聴支援)

令第 52 条第 3 号での「放送委員会の規則で定めた放送番組」は以下のとおりである。

1. 政府政策発表など国民的に関心度が高いと判断される放送番組
2. 障害者視聴者の情報にアクセスする際、必要だと判断して放送委員会が要請する放送番組

放送法	<p>第 33 条(審議議定)</p> <p>7 . 障害者など放送疎外階層の権益増進にかかわる事項</p> <p>第 38 条(基金の用途)</p> <p>8 . 障害者など放送疎外階層の放送アクセスのための支援</p> <p>第 69 条(放送番組の編成など)</p> <p>放送事業者は大統領令の定める所により障害者の視聴を助けることができるように努力しなければならないし、必要な場合、放送委員会は基金から経費の一部を支援することができる。</p>
放送法施行令	<p>第 44 条(受信料免除)法律第 64 条但しの規定により以下の各号の 1 に該当する受像機に対しては受信料を免除する</p> <p>9 . 保健福祉省に登録された視覚・聴覚障害者が生活する家庭の受像機</p> <p>第 52 条(障害者の視聴支援)法律第 69 条第 7 項の規定によって放送事業者は障害者の視聴を助けるために以下の各号に該当する放送番組に対しては手話・字幕・解説等を利用した放送をするよう努力しなければならない。</p> <p>1. 法律第 75 条の規定による災難放送番組</p> <p>2. 障害者福祉法施行令第 11 条の規定による放送番組</p> <p>3. 障害者の放送視聴が必要と認められ、放送委員会の規則で定めた放送番組</p> <p>4. その他、障害者の福祉を目的として編成された放送番組</p>
放送法施行にかかわる放送委員会の規則	<p>第 14 条(障害者の視聴支援)令第 52 条第 3 号で‘放送委員会規則で定めた放送番組’とは以下の各号の通りある。</p> <p>1 . 政府政策発表など国民的関心度が大きいと認められる放送番組</p> <p>2 . 障害の持つ視聴者の情報アクセスに必要と認められ放送委員会が要請する放送番組</p>
放送審議規定	<p>第 21 条(人権侵害の制限)</p> <p>放送は心身障害者または社会的に疎外されている人々を扱う時には特に人権が最大限保護されるように慎重を期しなければならない。</p> <p>放送は精神的・身体的障害者を嘲笑いの対象として扱ったりしてはならないし、否定的または劣等な対象として扱ってはいけない。</p> <p>放送は公共の利益のため、必ず必要な場合を除いてはオープンな方法で取材することを原則とし、強制取材・答弁の強要、誘導尋問などをしてはならない。</p>

なお、上記の規制は強行法ではないが、2005 年 8 月には政府与党（29 人の代議士による発意）は、字幕放送と手話番組を義務化する旨の放送法の改正案を国会に提出している。

現在は、‘文化観光委員会’で議論の土壌にのっているところである。今回の改正案が提出された背景には、現行の放送法が‘放送事業者は大統領令の定めている所により障害者の視聴を助けることができるように努力しなければならない’（法律第 69 条）という努力義務レベルに留まっているため、放送事業者による字幕放送などの比率が先進諸国と比べて著しく低いという認識がある。したがって、今回改正案のポイントは、障害者の知る権利、幸福追求権などの基本権をより実体のあるものとして保障するためには、放送事業者による障害者のための放送とその障害者の視聴支援にかかわる経費の全部あるいは一部を支援するよう法的レベルで規律しようとするものである。

現行	改定案
第 69 条(放送番組の編成等) ~ (省略) <u>放送事業者は大統領令の定めている所により障害者の視聴を助けることができるように努力しなければならないし、必要な場合、放送委員会は基金からその経費の一部を支援することができる。</u>	第 69 条(放送番組の編成等) ~ (現行と同一) <u>放送事業者は大統領令の定めている所により障害者の視聴を助けることができる字幕放送、手話通訳などをしなければならない。必要な場合、放送委員会は基金からその経費の一部を支援することができる。この場合、放送委員会は基金から経費の全部または一部を支援しなければならない。</u>

(3) 支援制度

概況

韓国において字幕放送等普及の一番のネックと考えられているものは、政策効果の恩恵を直接受ける障害者の制限と社会的費用の負担をめぐる問題である。

このため、放送委員会では、障害者関連団体や事業に対する放送発展基金⁵⁴からの支援、制作インフラの支援等を行っている。

放送委員会による 2005 年の支援実績は、8 つの団体の 11 つの事業に対して約 13 億 6 百万ウォン(約 1.7 億円)が支援された。その事業の内容は、字幕放送や解説放送、難聴向けの受信機の普及や関連番組制作、障害者のためのメディア教育などがメインになっている。

障害者関連団体や事業に対しての放送アクセス支援実績(2005 年)

⁵⁴ 各放送事業者から年間の広告収入や売上げなどから一定の比率で助成される基金。2005 年には 2,316 億ウォンの助成額。

分野	支援団体名	支援事業名	支援額（ウォン）
指定	韓国聾啞人協会	字幕放送向け受信機の普及及び放送アクセス環境の改善	258,495,000
		聴覚障害学生向けの EBS 受験字幕ビデオ普及	160,812,000
	韓国視覚障害者連合会	視覚障害者のための解説放送番組の普及事業	105,000,000
		DVS 受信機の普及	228,000,000
	大韓社会福祉開発院	難聴高齢者向け放送受信機の普及	200,000,000
	韓国高齢者総合福祉館協会	難聴高齢者向け放送受信機の普及	180,800,000
	4 団体合計		1,133,107,000
	障害友権益問題研究所	ドラマの中の障害者モニター分析と障害者権の放送指標の開発	31,360,000
	障害友権益問題研究所・メディアクト	ハブリックアクセスの拡大とローカル障害者のメディア教育インフラ作りのための障害者メディア教育	44,867,000
	障害者失業者総合支援センター	‘障害者の人権のため...障害者も文化活動の主体者に’養成するためのデジタルメディア講座	18,770,000
	韓国障害者総連盟	社会統合のための障害者の視聴者主権の実現方策に関する研究	13,282,000
		第2回、障害者放送アカデミー	64,300,000
	3 団体合計		172,579,000
合計			1,305,686,000

（出所：韓国放送研究院まとめ）

なお、2005年5月に発表された‘中長期放送発展研究委員会総合報告書’によれば、2006年には2005年のほぼ2倍に当たる24億ウォンを支援する計画である。最終的には2009年には47億ウォン（5.8億円）を視聴覚障害者向け放送に関する施策に支出する予定となっている。

障害者など疎外階層の放送アクセス支援額(予定)

年度	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
支援額	13億ウォン	24億ウォン	32億ウォン	38億ウォン	47億ウォン

出所：放送委員会(2005)、中長期放送発展研究委員会総合報告書

字幕放送や解説を視聴するための受信機の普及は、放送委員会の支援によりそれぞれの団体⁵⁵が中心になって無料で配っている。

字幕放送向け受信機は2005年まで聴覚障害者の10分1も満たない状況にあり、放送委員会は2010年まで聴覚視聴者の3割以上まで普及を引き上げる計画である。高齢者に多く見られている難聴者のための放送受信機の普及も行われているが、2005年には二つの機関に対して6,000台が配られている⁵⁶。2005年まで累計約2万3千台の難聴向け放送受信機が普及されているが、放送委員会は2010年までに難聴高齢者の1割の普及を目標としている。

解説放送向け受信機の普及は2004年末月現在、全体の視覚障害者のうち、2.5%しか行き渡ってなく早急な対策が求められているが、2010年まで視覚障害者の2割以上の普及を目指している。

受信機の普及現状と普及促進補助金

事業名	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	普及率
字幕放送受信機	2億3千万ウォン	3億5千万ウォン	3億ウォン	3億2千万ウォン	3億8千万ウォン	2億6千万ウォン	6億5千万ウォン	12.6%
	1,725台	2,500台	2,362台	2,500台	3,000台	2,000台	5,000台	19,087台
DVS* 受信機			1億2千万ウォン	1億千万ウォン	2億千万ウォン	2億3千万ウォン	5億5千万ウォン	6.0%
			1,000台	1,000台	1,800台	2,052台	5,000台	10,852台
難聴高齢向け受信機		1億6千万ウォン	2億5千万ウォン	2億5千万ウォン	2億ウォン	3億8千万ウォン	6億ウォン	2.4%
		3,180台	5,000台	5,000台	4,000台	6,041台	10,000台	33,221台

*金額は四捨五入で計算。

*DVSは解説放送向けの受信機

出所：放送委員会

⁵⁵ 聴覚障害者は、韓国聾啞人協会、視覚障害者は韓国視覚障害者連合会、難聴高齢者向け放送受信機は大韓社会福祉開発院と韓国高齢者総合福祉館協会が主管になってそれぞれの障害者に配っている。

⁵⁶ 2004年末現在、普及率は1.3%

制作インフラ支援など

放送委員会では、受信機の普及だけでなく字幕放送など障害者のための放送番組制作にも支援を強化していく方針である。2005 年までは受信機の普及に主に力を入れてきたが、2006 年からは、障害者のための放送番組を増やすための対策として、字幕放送番組に対して 14.7 億ウォン(1.8 億円)の制作費の支援を行う。その制作費の支援は、字幕放送・解説放送等を制作する放送局に対し直接支援される。

字幕放送番組の制作費支援方針は、聴覚障害者及び視覚障害者のアクセスに相性のいい媒体及びチャンネルを優先的に支援し、支援枠も段階的に拡大していく考えである。具体的には KBS1,2、MBC、SBS、EBS のほかにケーブルや衛星放送向けのチャンネルである KTV、OUN、国会放送、アリラン TV、YTN、MBN を第 1 次支援対象とし段階的に拡大する方針である。また、プライムタイム(平日:19:00~23:00、土・日曜、休日 18:00~23:00)での番組に対しての支援も強化する⁵⁷。

解説放送の制作費支援はとりあえず、地上波放送 4 チャンネル(KBS 1,2、MBC、SBS)を優先的に支援し、字幕放送の支援方針と同様に段階的に拡大する考えである。

一方、有料放送でも障害者のための取り組みを強化している。放送委員会は、2005 年 12 月に「福祉 TV」を新たに公益チャンネルとして指定した。それによって衛星放送やケーブル TVSO などのプラットフォーム事業者は福祉 TV を運用チャンネルとして採択しなければならない⁵⁸。このような公益チャンネル制度によって有料放送でも大勢の障害者のアクセス機会は確保されることになると見られている。

他方、文化観光省の傘下にある韓国放送映像産業振興院は、障害者向けのデジタル映像編集課程を開設している⁵⁹。この教育講座は障害者の社会参加を拡大するために設けられており、PC の操作が可能な障害者なら誰でも申し込むことができる。教育は就職のための予備教育というよりメディアリテラシーのレベルで行われており、所要経費は国の予算の支援により全額無料となっている。ちなみにオフライン教育は、受講生は最大 15 名以内で五日間で行われている。また、放送委員会傘下の地域メディアセンターという所を活かしての障害者教育も行われている。‘釜山視聴者メディアセンター’では、地域の障害者のための字幕放送などの制作や制作人材の教育などに場所などを提供しており、さらに 2006 年 12 月に完工予定の‘光州視聴者メディアセンター’でも同様の支援が行われる予定である。放送委員会は障害者など疎外階層のための放送アクセスの支援を増やしていく計画である。

⁵⁷ 放送委員会(2005)、中長期放送発展研究委員会総合報告書

⁵⁸ 放送委員会公示第 2005 - 03 号 第 7 条(放送事業者の義務)総合有線放送事業者及び一般衛星放送事業者は……10 の公益性のある放送分野のうち、8 つ以上の放送分野に対してそれぞれ 1 以上の認定チャンネルを含まなければならない。

⁵⁹ 撮影や制作は体が不自由な障害者にとって不便なことが多く、今のところ課程は設けられてない。また、オンラインでの教育も行っている。

また、放送委員会は、受信機の普及対策と絡んで字幕放送受信機の内臓型TVの生産義務化を検討していく考えである。しかし、メーカーの反対をどう押し切って実際に制度化までこぎ付けるか、その見通しはまだ不透明である。

7-3 韓国における字幕制作の実態

現在、TV字幕放送の制作に一番主導的に参加している団体は「韓国CAS速記協会」である。「韓国CAS速記協会」は、1991年に作られており1990年代後半に字幕放送の実現に大きな役割を果たした。今もKBS、MBC、SBS、K-TVの字幕放送の制作と送信を担当している。ちなみにEBSは今年3月から「韓国聾啞人協会」が受け持つことになった。

字幕放送の制作と送信過程は、生放送・録画放送に限らず、まず、速記士がTVを視聴することから始まる。次は速記士4名が一組になって2名は3秒の間隔で進められるシグナルを見て交代に速記し、残りの2名は其の二人が速記した内容をほぼ同時に校正をして送信する。

‘韓国聾啞人協会’によると、字幕放送のサービス料金は1分ベースで3,500ウォンで1時間に換算すると、21万ウォンが相場となっている。ジャンルや仕事の内容、生か録画放送かなどによる料金の設定はほとんど変わらないという。

手話放送の料金は、放送局の自主制作の場合、概ね10分に10万ウォンであるが、外部制作の場合はその単価はもっと低くなるという。しかし、直接にディレクターの個人のコネによる仕事の依頼もあるなど、その料金はバラエティーに富んでいる。

解説放送は‘韓国視覚障害者連合会’によって制作されるが、1時間の料金は100万ウォンが相場である。

なお、韓国の字幕放送制作のレベルとしては、字幕の正確さは98%、時間差も4秒以内と言われている。

また、視聴覚障害者向け緊急放送については、詳細は不明であったが、今後検討される課題であるとの意見が得られた。

8 中国字幕放送等に関する調査

中国の字幕放送等に関しては、データがほとんど整備されていないため、今回は現状の字幕等の付与状況についての結果のみを示す。

以下では、中国で字幕等がどの程度付与されているのかを調べるため、北京市で2006年3月7日～13日の1週間に視聴可能な地上波テレビ放送番組全てを、現地でモニターを使って実際に視聴させ、どの番組に字幕等が付与されているかを調べた結果を記す。

また、中国では（異なる言語間で発音が異なるためと思われるが）字幕放送がオープンキャプションの形態で放送されているケースが多く見受けられたため、以降では字幕番組はオープンキャプション番組を指すこととする。

対象地域：北京市

対象時期：2006年3月7日（火）～2006年3月13日（月）の1週間

対象チャンネル：上記時期に上記地域にて視聴可能であった地上波テレビ放送の、以下のチャンネル

CCTV1（総合編成、ニュース中心）

CCTV2（経済情報）

CCTV3（芸術総合）

BTV1（総合編成）

BTV2（芸術総合）

BTV3（報道中心）

対象番組：上記期間中に上記チャンネルで放送された全ての番組

調査方法：現地モニターが実際に全ての番組を視聴し、字幕等の有無を判断

結果は次頁に示すとおり、字幕については、放送時間の30%程度にオープンキャプションのかたちで付与されていたことが判る。

一方、手話番組については、上記条件で調査した範囲では120分（毎日午前中に放送される手話ニュース番組のみ）しか放送されておらず、また解説番組は放送されていなかった。

表 北京市の地上波テレビにおける字幕放送等の時間数と割合（2006/3/7～3/13 調査）

	字幕	手話	解説
視聴覚障害者向け番組の放送時間数、及び全放送時間中の割合（％）	13955 分 （30.6％）	120 分 （0.26％）	0 番組 （0％）

また、字幕放送番組について、ジャンル別の割合をみると、以下のようになる。なお、上記の唯一放送されている手話放送は、毎日午前中に放送されるニュース番組である。

ジャンル	字幕付き放送時間及び割合
時事評論・ニュース	1660 分（11.9％）
ドラマ	4570 分（32.8％）
教育	3625 分（26.0％）
芸術	3225 分（23.1％）
アニメ	490 分（3.5％）
バラエティ	385 分（2.8％）

字幕の制作方法については、中国 CCTV のプロデューサーによると、中国では字幕（オープンキャプション）を制作するに当たり、基本的には通常のキーボード入力が行われているとのことであった。

中国語の一般的なパソコン等へのキーボード入力方法は非常に数多い。例えば、「ピンインコード入力」という、日本におけるローマ字入力に相当する、言葉の発音を入力して漢字に転換し、幾つかの候補の中から該当する漢字に決定するという方法以外に、漢字を部首（影）に分解して入力する「影コード入力」がある。ピンインコードでは入力スピードは日本語入力とさほど違いは無いが、影コード入力では1～5つのキーボードの組み合わせで全漢字を表し、また重複するものが無いことから、非常にスピードが上がる。

また、中国では入力ソフトウェアも進歩しており、更に少ない打鍵で目標とする文字を打つことが可能となっている。

こうしたことから、上記プロデューサーによると、中国では字幕を作成するに当たり、特別の装置や技能を用いるのではなく、通常のキーボード入力と、打鍵速度の速い入力者で対応しているとのことである。

何れにしても、中国については今後更に、字幕放送等の実態及び制度動向を明らかにすることが必要である。

但し、中国と日本の間には、非常に安い人件費を活用した人海戦術が可能であるという経済的事情の違い、また方言が使われる地域が多いため標準語を推進する方策の一環と位置付けられているという制度的な背景の違い、及び前述の入力実務の違いがあり、これらの違いが、両国における字幕普及の背景にも大きな影響を与えていると考えられる。

9 国内における字幕放送等の今後の展望

今後の技術進展等を踏まえた、日本の今後の字幕放送等の動向を展望した。

9-1 字幕放送の今後

日本では字幕放送は録画番組に付与されるものであったが、2000年くらいから生字幕が付与されるようになった。生字幕の方法は、高速キーボード入力（話された言葉をその場で高速入力・変換する仕組み：「スピードワープロ研究所」が提供する、特別に開発された高速入力用の特殊キーボードを利用する方法と、通常キーボードを利用する方法がある）であり、この方式が現在も生字幕制作方式の中では主流である。ニュース番組の場合には事前に原稿が存在しているので字幕を作成することが比較的容易であり、視聴者にとってわかりやすい字幕を付与することが可能である

一方、NHKでは2003年頃からニュース等に生字幕を付与するに当たり、世界に先駆けてダイレクト音声認識方式（アナウンサーの音声を音声認識システムが直接認識して字幕化する方式）を、高速キーボード入力方式と使い分けながら、実用化を開始している。

具体的には、アナウンサーによる原稿読み上げ部分についてはダイレクト音声認識、その他（番組内でのレポートやインタビュー等）については高速キーボード入力が担当するようにした。

全てをダイレクト音声認識に切り替えることが出来なかったのは、ダイレクト音声認識ではレポートやインタビュー等では、雑音や聞きなれない声への対応といった技術的問題が発生するために、認識率が45%（街角や建物内でのインタビュー等）～82%（スタジオでの対談・解説）～91%（現場からの記者レポート）と低下してしまうからである。但し、通常のアナウンサーによる原稿読み上げであれば認識率は98%と、高速キーボード入力方式と比べても遜色が無いため、この部分についてはダイレクト音声認識方式を利用するようにしていた。

但し、コスト面では二重に掛かることになる。具体的には、高速キーボード入力は専門業者との時間契約による外注であり、アナウンサーによる原稿読み上げ（高速キーボード入力ではなくダイレクト音声認識が行われている）の時にも、外注費用は発生している。このため、2006年からはダイレクト音声認識は取り止められ、現在は高速キーボード入力のみがニュースへの生字幕を作成している。

一方、生放送へのリスピーク方式による字幕付与も2001年ごろからスポーツやバラエティ番組で用いられるようになってきている。音声認識率は95%程度の番組が多いが、扱う範囲の広い生活バラエティ番組では認識率が90%程度に低下する。

但し、リスピーク方式については、実用化に向けての課題が多いとの意見もある。例えば経済ニュース等においては、専門用語が次々に発生するが、こうした用語に対応した辞書を制作するためのコストと時間が膨大となるのである。更に、緊急ニュース等への対応が困難である。

また、スポーツ中継等においても、スポーツ種ごとの辞書を制作する必要があり、コストが高む（当然ながら定期的に辞書をアップデートする必要がありこのコストも掛かる）ことや、（これは高速キーボード入力でも同じではあるが）画面で話されていることと字幕の間に時差が生じるという問題がある。

更に、リスピークでは通常のアナウンサーではなく専門のリスピークアナウンサーを養成する必要や、専門の設備ブースを設置する必要がある。

こうした事情を踏まえ、多くの民放局ではリスピーク方式を採用するには至っておらず、また採用している場合も、ニュース等の幅広い領域をカバーする番組ではなく、特定のスポーツの中継のようにある一定の範囲の言葉が中心に話される番組で採用しているのが実情である。（辞書の範囲が限定しやすいため。但し、それでも辞書制作には莫大なコストが掛かる。）

一方、録画番組への字幕付与については、別途制作した字幕をフロッピー等に格納し、放送時に本編 VTR とフロッピーをシンクロ送出することによって字幕番組として放送することが行われている。

但し、これが可能となるのは、放送よりも数時間以上前に VTR が到着した場合である。この場合は、テキストだけ見て字幕を制作し、番組を見ながら送出するということができる。

しかし、最近の放送業界では、たとえ録画番組であっても、放送 VTR が完成・納品されるのが放送直前になるケースが半ば通例化しており（ギリギリまで編集等で作り込んでいたため）、VTR に予め字幕をつけることが益々困難になりつつある。

また、録画番組への字幕制作は、生字幕よりも技術的に困難というものではないが、生字幕に比べるとミスが許されないという側面があるという点、また字幕の場所や形態等について制作者が凝る傾向にあるという点では、生字幕よりも手間が掛かる。

今後の字幕放送についての展望については、基本的には字幕放送のこれからの技術的な課題は伝送面ではなく制作サイドの問題であり、長期的にはダイレクト音声認識の方向に向かうことが予想される。

この理由は、現在主流の高速キーボード入力方式は基本的には人海戦術であり、字幕番組を増やすためには人を増やさねばならず、それがコストに跳ね返るからである。現在でも日本の字幕制作コストは英米よりも相当割高であり、放送事業社が字幕拡大によるコスト負担を避けるためには、技術的な対応が不可避となる。

しかしながら、全てをダイレクト音声認識にするためには、様々な課題を解決する必要がある。現在のダイレクト形式に関しては、ニュース番組の中のスタジオでのアナウンサーによる、比較的是っきりと（またゆっくりと）した原稿の読み上げには対応できているが、この方式が字幕制作の主流となるためには、幅広い分野の言葉の認識や、雑音・話し言葉等の認識、台本が無い状態での信頼性等、多くの技術的課題を解決する必要がある。

こうした問題をクリアできる、技術的要求レベルが非常に高い音声認識技術は世の中に出ておらず、また主要なメーカーでも積極的に開発は行っていないのが現状である。（主要メーカーは音声認識の研究は行っているが、ここまで技術的要求レベルが高いものはターゲットとしていないと思われる。）このため、この研究についてはNHKと大学で行われているが、実用化にはしばらく時間がかかると思われる。また、実用化のためには、（研究実績の積み上げという時間的要素よりは）技術的なブレイクスルーが必要とされている。

以上から、字幕放送については、当面の間、高速キーボード入力方式が活用され、これに対抗するかたちでリスピーク方式が一部（活用可能な領域で）拡大する一方で、ある時期に技術的ブレイクスルーが起きればダイレクト音声認識が一気に拡大するという姿になることが予想される。

但し、高速キーボード入力方式は、前述のように人海戦術に頼る側面があるのでコストが高むという面以外にも課題を抱えている点に留意が必要である。

例えば、バラエティ番組や討論番組など、多くの出演者が、決められた順序等に従わずに話すような番組では、判りやすい字幕を付けることは非常に困難となる。これは、内容が困難である、多人数が一斉に話すので、声だけで文字を入力する入力担当者は誰が話しているのか把握できない、言葉が重なるとどのように字幕を作り表示すればよいか判断できない、といった点が理由である。

ある民放の討論番組では、事前にテーマを絞って辞書登録等をしておき、また画面上の字幕を写す場所を画面上部に設定して、出演者の顔をアップにする際も画面の上部はブランクにするなど、演出面にも一定の制約を掛けるほどの工夫を行った上で、高速キーボード入力方式により生字幕を付与し、一定の成功を収めたものの、それでもやはり字幕の判りやすさという点では課題が残った。

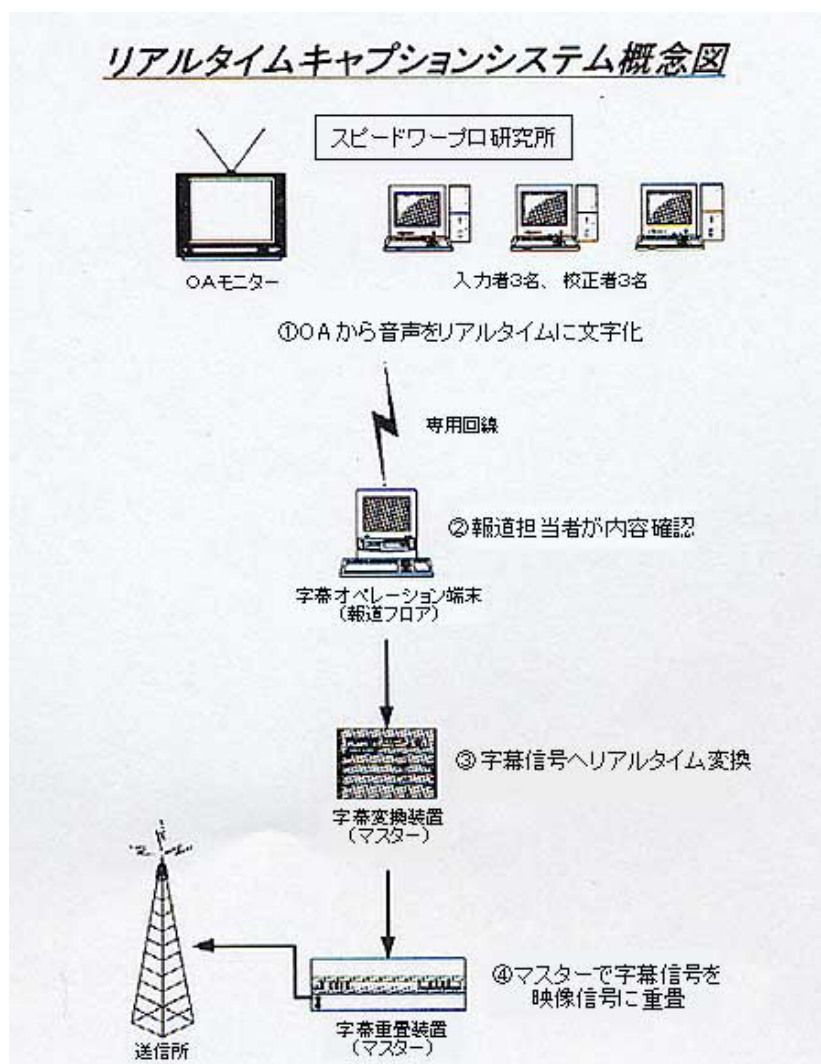
また近年は、請け負うことができる高速キーボード入力事業者側の供給制約も表面化している。具体的には、高速キーボード入力事業者は比較的小規模な事業者が中心であり、事業者の数自体も非常に小さく、また入力者の養成に数年掛かるという事情を抱えるため、全ての局の要望に対応できる陣容となっていない。つまり、放送局が字幕を増やしたくても、字幕制作能力を持つ外注先を確保できないという状況になりつつあるのである。

特にローカル番組への字幕付与という点については、高速キーボード入力事業者側が東京以外の局に対応できないという事態が生じていることから、準キー局でさえ、自社制作

番組への字幕付与に苦慮しているのが現状である。こうした事情により、標準的なローカル局では、自社制作番組への字幕付与がなかなか進んでいない。

今後、我が国が字幕放送を更に拡大するためには、中長期的にはリスピーク方式やダイレクト音声認識方式の実用性を高めるための開発を行うと共に、短期的には高速キーボード入力方式についても、上述のような喫緊の課題を解決することが必要となる。

参考までに、現在の生字幕等の制作体制を示す。スピードワープ研究所の方式では以下の図に示すとおり、入力者3名と校正者3名がチームを組み、渋谷のスピードワープ研究所本社で番組を視聴しながら字幕をリアルタイムで制作し、それを専用回線で放送局に送るという体制が取られている。放送局では、担当者が字幕内容を確認しながら、字幕信号へとリアルタイム変換し、送出する。



一方、通常キーボードを利用する方式の場合は、入力者3名(親指シフトかな入力2名、JISキーボード入力1名)とサポートスタッフ1名の4名でチームを形成する点はスピードワープ研究所と同じであるが、放送局に来てもらい、その場で字幕を制作する。番組スタッフが1名、チェックを行う。

なお、前述のように字幕放送の今後の展望は基本的には制作サイドの課題であって伝送サイドの問題ではないが、2006年4月から開始されるワンセグ放送で携帯電話で字幕を受信する際、キャリアによっては字幕受信を標準装備しているところと、そうでないところがある点(具体的には、2006年3月現在で発表されているワンセグ放送対応機種の内、KDDIの機種では字幕受信を標準装備しているが、NTTドコモの機種では標準装備していない)が、受信者からすると課題と映る可能性がある。

受信サイドについては、パソコンでテレビ受信した際の字幕受信について、字幕の位置を変えたり、自動編集するといった試みが、アナログ放送においては一部なされていたが、字幕の著作権の問題があり、デジタル放送ではこうした試みはなされていないとのことである。

9-2 手話放送及び解説放送の今後

手話放送については、全体として画面が見づらくなるという根源的な問題があり、また完成したVTRに再度手話放送を入れる必要があるので、制作に時間がかかる。このため、現在の放送業界では半ば通例となっている、(たとえオフライン番組であっても)「放送VTRの完成・納品が放送直前」という状況下では、手話放送を入れることは時間的に非常に困難である。

技術的な対応を図るため、CG手話の研究が行われているが、現段階では認識できる手話が2000語程度と言われており、また口や指先の細かい動きが表現が困難であるため、実用化の段階には至っていない。

解説放送については、番組の解説を制作するためには、完成台本とテープから解説を制作する必要があることから、放送の2週間前程度に作品を完成させる必要があり、現在の我が国放送業界の実情からは、納期、コストの面での対応が困難となっている。

NHKでは2006年に開催されたトリノ・パラリンピックで、10日間にわたって、合計12時間に上る生放送番組への解説付与を行った。これは、生番組への解説付与としては初めての試みであり、解説アナウンサー(NHK放送研修センターの「日本語センター」所属の、スポーツ中継等のベテランアナウンサー)が、事前に番組内容を十分に把握した上で、ラ

ジオ実況中継とほぼ同様の中継を行ったというものである。時に本編の音声と混在してしまうという事態も起きたが、概ね好評に迎えられたようである。但し、これも、技術的な対応というよりは、経験の蓄積と、ベテランアナウンサーの力量に頼る部分が多かったというのが実情である。

今後の技術的な対応として、原稿の自動読み上げの研究等がなされているが、実用化のレベルには至っていない。

なお、緊急時放送のテロップの自動音声読み上げについては、技術的には現在でも実施可能だが、送信側から音声として伝送するにはチャンネルの問題があり、一方でエンコードして伝送し受信機側でデコードするという方式については受信機側で対応できていないという問題がある。

参考資料 1

米字幕、手話、解説の歩み

年	できごと
1959	Captioned Film Act (PL85-905)で、団体 Captioned Film for the Deaf (CFD) に政府助成金が供与され、映画にオープン・キャプション (OC) が付与されるようになる。
1962	同法修正で教育メディアの訓練、制作、配給、リサーチ用に CFD に 150 万ドルが供与される。
1970	National Bureau of Standards (NBS) が Vertical Blanking Interval (VBI) で標準時間情報を発信する可能性をリサーチ。このプロジェクトは放棄されるが、後に ABC がここにクロズド・キャプション (CC) を挿入することを提案。
1971	National Conference on Television for the Hearing Impaired 第一回会議
1972	NBS と ABC が CC をデモ。デモが好評だったため、全米放送協会 (NAB) がキャプションの技術、経済面について調査。
	ボストンの Public Broadcasting Service (PBS) 局 WGBH がキャプション・センターを設立し、全米初の TV キャプション・エージェンシーとなる。
	PBS が初の OC 付 TV 番組 <i>The French Chef</i> を放送
1973	連邦政府がキャプションの開発とテストを助成し、PBS が委託。
	PBS が OC 付 <i>The Captioned ABC News</i> を放送
1975	PBS が FCC に TV 信号の一部をキャプション専用にするように要請
1976	FCC は VBI のライン 21 を CC 専用指定
1979	EEG エンタープライズ社がライン 21 キャプション・エンコーダーを開発
	National Captioning Institute (NCI) 創立
1980	ホーム CC デコーダー発売
	初の CC 付番組として、ABC が <i>ABC Sunday Night at the Movies</i> 、NBC が <i>Disney's Wonderful World</i> 、PBS が <i>Matterpiece Theater</i> を放送
	IBM 社が初の CC 付 CM を放送
1981	Showtime が有料ケーブル局として初めて CC 付与
	初の CC 付子供番組：セサミ・ストリート
	初のキャプション付ホームビデオ <i>Close Encounters of the Third Kind</i> , <i>The China Syndrome</i> , <i>Chapter Two</i> 発売
1982	TSI 社がリアルタイムのキャプション・システムを開発
	初の CC 付生番組
	初の CC 付生スポーツ番組：シュガー・ポウル
	初の CC 付生特別番組：アカデミー賞

	初の定期的 CC 付生放送 : ABC <i>World News Tonight</i>
1984	PBS が初の英語・スペイン語二カ国語の CC 付番組 <i>The Voyage of the Mimi</i> を放送
1985	ケロッグ社が初の CC スポンサーした企業となる (番組 <i>Family Ties</i>)
1986	WGBH が初の解説放送 (audio description) を <i>Mystery!</i> で実験
	Computer Prompting and Captioning (CPC) 社がプロンプターと同時に CC を付与するシステムを開発
	Xscribe Corporation がリアルタイム CC システムを開発
1988	PBS が Descriptive Video Service (DVS) を実験
	初の CC 付トークショー : <i>Oprah Winfrey Show</i>
1989	TV に CC デコーダー半導体内臓
	ロックグループ <i>Living Color</i> が初めてミュージック・ビデオに CC 付与
1990	Television Decoder Circuitry Act 立法で 1993 年半ばまでに 13 インチ以上の TV にキャプション・デコーダーを内臓することが義務付けられる
	Americans with Disabilities Act 立法
	Electronic Industries Alliance (EIA) が CC 標準化委員会を創設
1991	C-SPAN が連邦議会本会議審議放送に CC 付与
	EIA がライン 21 の CC 技術標準 CEA-608 を採択 (2003 年改正で CEA-608-B)
1993	Television Decoder Circuitry Act 施行
	PBS がクリントン大統領就任式特別番組で始めて CC と説明両方を生放送に付与
	WGBH に National Center for Accessible Media (NCAM) が創設される
1994	ゴア副大統領の情報スーパーハイウェー演説がサイバースペースで初のキャプション付公的イベントとなる
1995	Discovery Communications の <i>Live! With Derek McGinty</i> が初めてサイバースペースで定期的にキャプション付の番組となる
1996	Telecommunication Act of 1996 立法で FCC に CC の目標制定を指令
	Society of Motion Picture and Television Engineers (SMPTE) が DVD 用に MPEG デジタル・ビデオのキャプション標準作業委員会を創設。
1997	クリントン大統領第二期就任式が TV とインターネット生放送で同時にキャプション付で放送される。
	EIA は DTV の CC 標準 EIA-708 を採択 (2003 年改正で CEA-708-B)
1998	Telecommunication Act of 1996 施行
	Activision が <i>Zork Grand Inquisitor</i> という初の CC 付コンピューター・ゲームを発売
	RealNetworks 社がインターネット放送のキャプション・システムを導入
1999	Voice Writers 社が音声認識によるリアルタイム・キャプション技術を開発

2000	Telecommunication Act of 1996 により、四半期毎に新番組に 450 時間（1 日あたり約 5 時間）の CC 付与が義務つけられる
	FCC が DTV にキャプション付与を義務つける
	CNAM がマルチメディアのキャプション無料ソフト MAGpie をリリース
2001	Telecommunication Act of 1996 により、四半期毎にスペイン語の新番組に 450 時間（1 日あたり約 5 時間）の CC 付与が義務つけられる
2002	Telecommunication Act of 1996 により、四半期毎に新番組に 900 時間（1 日あたり約 10 時間）の CC 付与が義務つけられる
	Caption Quality Initiative 第一回会議
2003	Telecommunication Act of 1996 により、1997 年 12 月 31 日以前に初放送された番組 30%の CC 付与が義務つけられる
	Caption Quality Initiative により、CC サービス会社が Accessible Media Industry Coalition (AMIC) を設立
2004	Telecommunication Act of 1996 により、四半期毎に新番組に 1350 時間（1 日あたり約 15 時間）の CC 付与が義務つけられる
2005	Telecommunication Act of 1996 により、1997 年 12 月 31 日以前に初放送されたスペイン語番組 30%の CC 付与が義務つけられる
2006	Telecommunication Act of 1996 により、100%の新番組の CC 付与が義務つけられる
2007	Telecommunication Act of 1996 により、四半期毎にスペイン語の新番組に 1350 時間（1 日あたり約 15 時間）の CC 付与が義務つけられる
2008	Telecommunication Act of 1996 により、1997 年 12 月 31 日以前に初放送された番組 75%の CC 付与が義務つけられる
2010	Telecommunication Act of 1996 により、100%のスペイン語の新番組の CC 付与が義務つけられる
2012	Telecommunication Act of 1996 により、1997 年 12 月 31 日以前に初放送されたスペイン語番組 75%の CC 付与が義務つけられる

（参考資料： *The Closed Caption Handbook*, 2004, Gary D. Robson

National Captioning Institute , *A Brief History of Captioned Television*,
www.ncicap.org/caphist.asp)

参考資料 2

教育省が CC 付与を助成した番組(2003 年度)

20/20 Primetime ABC

21st Century Astrology, VCI Education Series

48 Hours Investigates - CBS

60 Minutes II- CBS

A Midsummer Night's Dream, Turner Classic Movies, C in C

A Taste of Freedom

A Walk In Your Shoes

A&E Biography Series, Cable in the Classroom

A&E Classics Series, Cable in the Classroom

A&E Classroom Series, Cable in the Classroom

ABC Good Morning America

ABC Iraqi War-related Specials

ABC News Specials

ABC World News Saturday

ABC World News Sunday

ABC World News This Morning

ABC World News Tonight

Adult Literacy Media Alliance Programming - TV411

Air Force Story series

Al Rojo Vivo

Albert Schweitzer

Amazing Animal Videos

AMC Literary Series - Cable in the Classroom

America in the 20th Century

American Justice - A&E

American Revolution Series - Cable in the Classroom

Andy Hardy Series

Angelina Ballerina - PBS

Ape Man - The Story of Evolution Series, Cable in the Classroom

Assignment Discovery series, Cable in the Classroom

Atlantis: In Search of a Lost Continent, The Learning Channel, C in C

Avoiding Armageddon

Barney and Friends - PBS

Basic Black - WGBH, informational programming
Benedict Arnold,
BET NEWS - NYLA
BET News/BET Tonight
Blair Communications Documentary Series, Aftermath: War Doc.
Blair Communications Educational Series, Abraham Lincoln
Blair Communications Educational Series, Anna Karenina
Blair Communications Educational Series, Great Leaders
Blair Communications Educational Series, Heidi
Bloomberg Television Financial News
Blues Clues - Nickelodeon
Bob the Builder
Bravo Profiles - BRAVO
Bulls and Bears (Saturday)
Business Week Television
By The People - PBS
Cable in the Classroom / ESPN2 Sports Figure Series
Cable in the Classroom Disney Book Adapt., A Ring of Endless Light
Cable in the Classroom Programming
Cable in the Classroom, CNN Presents Series
Cavuto on Business (Saturday)
CBS Early Morning News
CBS Evening News - CBS
CBS Market Watch/News Update
Chalkzone
Champions of the Wild
Charlie Rose - PBS
Christina Cooks
Classic Hallmark Titles
Clifford the Big Red Dog
Closer To Truth
CNN en ESPANOL Adelantos
CNN en ESPANOL Consulta Medica
CNN en ESPANOL Destinos
CNN en ESPANOL El Mundo Informa
CNN EN ESPANOL En Efectivo

CNN EN ESPANOL Escenario
CNN en ESPANOL Panorama Mundial con Jorge Gestoso
CNN Student News
CNNI-CNN International Daytime news
Community of the Future Series, Cable in the Classroom
Conflict & World Battle Series
Connie the Cow - Noggin
Cory the Clown Show
Court TV Choices and Consequences series, Cable in the Classroom
Cyberchase - PBS
Cyberchase - PBS
Degrassi: The Next Generation
Democracy Now
Denver City Council
Disaster Detectives
Discovery Channel On the Inside series, Cable in the Classroom
Discovery Channel Unsolved History series, Cable in the Classroom
DNA - PBS
Dora the Explorer - Nickelodeon
Dragon Tales - PBS
Election Special
Electronic Field Trips
Emergency News Coverage - CBS
Emergency News Coverage - New England Cable News
Emergency News Coverage - PBS
Face the Nation - CBS
Face to Face (Local WTJX public affairs program, US Virgin Island)
Fly Past Series - Cable in the Classroom
Forbes on Fox (Saturday)
Fox Live news event specials
FOX National News
Fox News Channel- Fox Daytime news
Fox News Sunday
Franklin
Girls Vs. Boys - Noggin
Glass With Vicki Payne

Granite State Challenge
Great Books series, Cable in the Classroom
Great Generals Series
Hands On Crafts for Kids
Health Sense - WGCU
History Channel Classroom Series - Cable in the Classroom
Inside Edition
Inside Edition Weekend
JoJo's Circus
Journey to the Center of the Earth
Journey to the Valley of the Kings, The Learning Channel, C in C
KATV News
KATV News
KCCG City and County Government meetings and public info prog.
KCCG Police Commission Board Meeting
Ken Burns' Horatio's Drive
KGTV San Diego
KMGH Specials
KPTS "Mind Your Own Business"
KPTS "Ask Your Legislator"
KPTS "Commentary on the Kansas Governor's State-of-State Address
KPTS "Kansas Week"
KPTS "Kansas Week"
KPTS "On the Record"
KPTS "On the Record"
La Plaza - WGBH, informational programming
Lead Story
Listen Up!
Louisiana: A History
Maggie & the Ferocious Beast
Making Change
Many Voices, Many Visions
Market Watch
Martin Luther
Masterpiece Theatre - PBS
Masterpiece Theatre - PBS

Max & Ruby
Meet The Press/Sunday Today
Miffy and Friends
Moby Dick, Turner Classic Movies, Cable in the Classroom
Moneywise with Kelvin Boston
Morning Business Report - PBS
MSNBC Daytime news programming
MSNBC Evening news programming
MSNBC Evening news programming
MTV - Fight For Your Rights: Take A Stand Against Discrimination
My Americas
NASA Connect
NASA Connect
NASA Destination Tomorrow
NASA Science Files
NASA Science Files
NASA's Destination Tomorrow
National Geographic Explorer series, Cable in the Classroom
Nature - PBS
NBC Nightly News
NBC Saturday Today
Needle Arts
NET "Backyard Farmer and Backyard Farmer Extra"
NET "Nebraska Connects"
News at Nine - New England Cable News
News KATU
News KSTP
News Specials - CBS
News Specials - PBS
News Specials KATU
News WFTC
News WFTC/KMSP
News WPIX
News WSB
News WTAE
NewsHour with Jim Lehrer - PBS

NewsHour with Jim Lehrer Special Reports - PBS
Nick News - Nickelodeon
Nick News Special Edition series, Cable in the Classroom
Nickelodeon Series, Cable in the Classroom
Nightline ABC
Nightly Business Report - PBS
Noticiero Telemundo
Now with Bill Moyers - PBS
Odysseys And Ovations Educational Travel Series
OETA "Ask a Lawyer"
OETA "Foundation of Excellence"
OETA "Gallery"
OETA "Legislative Week"
OETA "Oklahoma State-of-the-State Address"
OETA "Oklahomans Against Fraud"
OETA "People's Business"
OETA "Stateline"
OETA "Tulsa Times"
OETA Election Coverage
OETA News
OETA Political Debate
OETA Public information special programs
OETA"OKC Metro"
Oobi
Oregon Public Broadcasting - Oregon Art Beat
Oregon Public Broadcasting - Oregon Field Guide
Oregon State Legislature
Outlook
OVATION educational and info prog about music and the arts, TBD
Paint, Paint, Paint - PBS
PBS Cable in the Classroom
PBS Disabilities Today Series
PBS Front Line Series
PBS Nature Series
PBS NOVA Series
PBS Rough Science

Pinocchio, VCI Entertainment
Play Piano in a Flash - Houston Enterprises
Plaza Sesamo
Portland City Council
Prehistoric Planet
Preschool Daze - Nickelodeon
Pride and Prejudice, Turner Classic Movies, Cable in the Classroom
Prince of Egypt - NBC
Quiet Crisis
Radio Free Nutley
Reading Rainbow
Reading Rainbow
Reading Rainbow
Real Life 101
Revolution in Film
RNN News
Robinson Crusoe, VCI Entertainment
Rubbadubbers
Sagwa (portion of series) - PBS
Sagwa (portion of series) - PBS
Saturday News - CBS
Save our History Series - Cable in the Classroom
Scientific American Frontiers - PBS
Scientific American Frontiers - PBS
Scout's Safari
Sesame Street
Sherlock Holmes Series
Sitting Bull Documentary
Smart Travels with Rudy Maxa
So You Want to Be
Speaking of Women's Health - Lifetime
Special Reports-Weather
Sunday News - CBS
Superpower
The Big Comfy Couch
The Blues

The Fountainhead, Turner Classic Movies, Cable in the Classroom
The Harvey Girls, Turner Classic Movies
The History Channel International Movies (Captioned in Spanish)
The Learning Channel Cable in the Classroom Series
The Mighty Mississippi Series - Cable in the Classroom
The New Explorers, Cable in the Classroom
The Pulse
The Real West Series - Cable in the Classroom
The Red Pony
The Rise and Fall of the Spartans Series - Cable in the Classroom
The Rockies Series - Cable in the Classroom
The Short Life of Anne Frank
The Six Wives of Henry VIII
The Time Machine, Turner Classic Movies, Cable in the Classroom
The Weather Classroom Series - Cable in the Classroom
The World At Large
This Week ABC
Time Machine Historical Series - Cable in the Classroom
Tommy Tang's Let's Get Cooking
Topics (Local WTJX public affairs program, US Virgin Island)
TV2 Local News, Virgin Islands
Tweenies
Twilight Zone series, Cable in the Classroom:
Ultimate 10 Archeological Discoveries, The Learning Channel, C in C
Vanity Fair
VCI Biography Series
VCI World Documentary Series
Victory Garden - PBS
Video Gazette WWII Series
W*USA News
WCPO News
WCVE "Perspective"
WCVE "VA Home Grown"
WCVE "Virginia Currents"
Weather Classroom - Weather Channel
Weather news

WFLX News
WFTV Orlando
WHEC News
Whoopi's Littleburg
Why We Fight Educational Series
Wild Discovery series - Cable in the Classroom
Wisconsin Public Television "Here and Now
Wisconsin Public Television "In Wisconsin"
Wisconsin Public Television Specials (i.e.Gubernatorial Inauguration.)
Wisconsin Public Television War Specials
WISH News
WJXX News
WKOW-TV Nightly (local) News
WMAR News
WOIO
WOOD-TV News
WORK News
WROC News
WTLV News
WTVC News
WTVC News
WTVT Tampa
Wuthering Heights, Turner Classic Movies, Cable in the Classroom
WXXI Need to Know
WXXI Que Pasa? Rochester (Spanish Captioning)
You're the Chef
Young American Outdoors
Zoventures

教育省が CC 付与助成申請を却下した番組(2003 年度)

5 BET Classic Movies (Titles TBD)
500 Festival Parade
All Grown Up - Nickelodeon
All That
AMC Documentaries TBD - 9 Titles:
Archie's Weird Mysteries

Arena Football NBC
Auto Racing NBC
Backstory
Bed Bug Bible Gang
Behind the Music - VH1
Bewitched
Beyond Belief
Beyond the GloryUS Open Tennis USA
Body of Evidence
Car and Track
Catherine Crier Live
Caught in the Middle
Cisco Kid Series
Classic Cartoons
CNN en ESPANOL Deportes CNN
College Football NBC
Courage the Cowardly Dog
Cribs - MTV
Cubix
Danny Phantom
Daytime Court Trials
Dexter's Laboratory
Digimon
Discovery Jones
Disney Monthly Original Children's Movie
Documentary: Gay Hollywood
Documentary: Hell Up in Hollywood: Soul Cinema & the 1970's
Documentary: Hollywood & the Holocaust
Documentary: Hollywood & the Muslim World
Documentary: Reality People
Documentary: The Wrong Coast
Documentary: Young Hollywood Awards
Dominick Dunne
Ed, Edd 'n Eddy
EDGE NFL Match-Up
Emergency Vets

Endurance
ESPNews Daytime Sports News
Fairly Odd Parents
Forensic Files
Gadget and the Gadgetini's
Get Reel
GoodLife Television, Maverick Series
Grim and Evil
GUTS
Hollywood and Crime
Hollywood At Your Feet: Story of Grauman's Chinese Theater
Hollywood Commandos
Hollywood Lives and Legends
Hollywood Rocks the Movies (The 50's)
Hollywood Rocks the Movies (The 60's)
I Dream of Jeannie
I want to be Clive McLean
I, Detective
IFC Movies
In the Life - PBS
In The Mix
Indy 500 Victory Banquet
Inside Stuff
Inspector Gadget's Field Trip
Investigative Reports - A&E
JAG - CBS
Jimmy Neutron, Boy Genius - Nickelodeon
Judge Wapner's Animal Court
Justice League
K9 to 5
Kinnikuman Ultimate Muscle
Knock First!
Laura en America
Law & Order series
Legends of Motorsport
Lifetime Intimate Biographies of Women (series)

Lizzie McGuire - Disney Channel
Loretta Young Show
Major League Baseball ESPN/ABC
Malcolm in the Middle - FOX
Malkovich's Mail
MGM's 75th Anniversary
Mini Marathon
Miscellaneous original cartoons
MLB FOX
MLB NBC
Mucha Lucha!
Mugshots
Nancy Drew, VCI Entertainment
Nascar FOX
NBA ABC Sports
NBA ESPN
NBA pre-season, regular season & playoffs
NBC Sports
NCAA Basketball Special
NET High School Sports Statewide Championship games
New Adventures of Tarzan, VCI Entertainment
NFL Films
NFL Films Team Highlights
NFL FOX
North Mission Road
OETA "Oklahoma Hall of Fame Induction"
Oliver Beene - FOX
Once Upon a Time: Sergio Leone
O'Neil Outside
Oswald
Our Friend Martin
Out There
Over The Hill Gang
Over The Hill Gang Rides Again
Oxygen Sports: WNBA
Ozzy & Drix

Paparazzi Uncut (Show#1: NY)
Paparazzi Uncut (Show#2: LA)
Passport to Adventure
Patty! Country Music Awards Special
Pay it Forward - Turner Entertainment Network
Pet Story
Petersburgh USA
PGA Golf USA
PGA Senior Golf CNBC
PGA Tour Sunday USA
Pokemon
Popeye, VCI Entertainment
Power Rangers
Powerpuff Girls
Proud Family - Disney Channel
Reel Radicals: The 60's Revolution in Film
Robin Hood Series
Rocket Power - Nickelodeon
Roy Rogers Series
Sabrina, The Animated Series
Samurai Jack
Sanford and Son
Scaredy Camp
Seagal Vs. Nasso
Searching for Michael Cimino
Sheep in the Big City
Sherlock in the 22nd Century
Shirtless: the Movies' Most Beautiful Men
Short Screamer/Clive Barker
Speedvision News-Raceweek
Spiderman and his Amazing Friends - ABC Family Channel
Sports Specials FOX
Stanley
Stargate Infinity
Starters
Stitch

Strange Days
Switched
Sylvanians
Teen Titans
Teenage Mutant Ninja Turtles
Teenage Robot
Telemundo Futbol
The Curley Tales of Piggley Winks
The Elite
The Heist
The Littles
The Pet Shop with Marc Marrone
The Simpsons - FOX
The System
The Talent Collector, Coralie Jr.
This Week in Baseball
Thoroughbred
Time Squad
Transformer Armada
TV Bloopers
Ultraman Tiga
Under The Helmet
Unknown Peter Sellers
Visions of Light
WE Movies
What's New Scooby-Doo?
Wide Angle
Wild Rescues
William at 21 - PBS
Wisconsin Public Television Sports
WKOW WIAA (Wisconsin Intercollegiate Athletic Assoc championship)
Women We Love (Women in Film)
X-Men Evolution
Yu-gi-oh!

参考資料 3

National Association of the Deaf (NAD) Captioned Media Program 公認の英語 CC 付与
サービス提供企業 (全米 37 社)

Aberdeen Captioning

22362 Gilberto
Suite 230
Rancho Santa Margarita, CA 92688
VOICE 800-688-6621
FAX 949-858-4405
E-MAIL info@abercap.com
WEB <http://www.abercap.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: Off-line, On-line
Language: All languages

Armour Captioning

920 Stryker Ave.
West St. Paul, MN 55118
VOICE 651-457-6845
E-MAIL John Armour john@caption.com
Types: Closed, Open
Method: Off-line
Languages: Arabic, English, French, German, Italian,
Portuguese, Russian, Spanish

Bay Area Video Coalition (BAVC)

2727 Mariposa St.
2nd Floor
San Francisco, CA 94110
VOICE 415-861-3282
FAX 415-861-4316
E-MAIL bavc@bavc.org
WEB <http://www.bavc.org>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Language: English

Caption Gallaudet

Gallaudet University
MLC LN30
800 Florida Ave., N.E.
Washington, DC 20002-3695
TTY/VOICE 202-651-5115
FAX 202-651-5124
E-MAIL caption@gallaudet.edu
WEB <http://tv.services.gallaudet.edu/captions/>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, Spanish

Caption Perfect, Inc.

126 Kingston Drive
Suite 115
Chapel Hill, NC 27514
VOICE 919-942-0693
TTY 919-942-0436
FAX 919-942-0435
E-MAIL Burwell Ware captioning@aol.com
WEB <http://www.captionperfect.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: Off-line, On-line
Language: English

CaptionHouse Inc.

779 North 1180 East
Orem, UT 84097
TTY 801-224-7683
VOICE 801-809-3077
FAX 801-224-7223
E-MAIL Jeff Born jaborn@aol.com
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: British, Canadian English,
Canadian French, English, French, German

CaptionLit

1700 Harris Rd.
Glenside, PA 19038
VOICE 215-485-0094
VOICE 215-836-5015
FAX 215-836-9348
E-MAIL yona@captionlit.com
WEB <http://www.captionlit.com>
Types: Closed, Open
Method: Off-line
Languages: English, Spanish

CaptionMax

530 N. 3rd St.
Suite 210
Minneapolis, MN 55401
VOICE 800-822-3566
VOICE 612-341-3566
FAX 612-341-2345
E-MAIL Donna Horn donna@captionmax.com
WEB <http://www.captionmax.com>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, Spanish

Captions and Subtitle Services

2631 E. Cass St., 2nd Floor
Joliet, IL 60432
VOICE 866-230-1009 (toll-free)
VOICE 815-740-1009
FAX 815-740-6270
E-MAIL info@capsubservices.com
WEB <http://www.capsubservices.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: Off-line
Languages: English, Spanish, French, Portuguese, Dutch, and German

Captions, Inc.

901 W. Alameda Avenue
Burbank, CA 91506
VOICE 818-729-9501
FAX 818-729-9519
E-MAIL captions@captionsinc.com
WEB <http://www.captionsinc.com>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, Spanish

Chicago Captioning Corporation

205 Regency Drive
Suite 417
Bloomington, IL 60108
VOICE 630-893-0996
E-MAIL Steven Knoerr info@ChicagoCaptioning.com
WEB <http://www.ChicagoCaptioning.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, most foreign

Communication Works o/t Deaf, Inc.

24780 Hathaway
Suite 201
Farmington Hills, MI 48335
VOICE 248-615-5071
FAX 248-479-0692
E-MAIL Greg Frohiep captworks@sbqglobal.net
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, French, Italian, Spanish

CompuScripts Captioning, Inc.

PO Box 7172
Columbia, SC 29202
VOICE 888-988-0086 (toll-free)
VOICE 803-988-0086
FAX 803-988-0094
E-MAIL Deborah L. Dusseljee
debdussel@compuscriptsinc.com
WEB <http://www.compuscriptsinc.com>
Types: Closed, Open
Methods: On-line, Off-line
Language: English

Computer Prompting & Captioning Co.

1010 Rockville Pike
Suite 306
Rockville, MD 20852-1419
TTY 301-738-8489
VOICE 800-977-6678
VOICE 301-738-8487
FAX 301-738-8488
E-MAIL info@cpccweb.com
WEB <http://www.cpcweb.com>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, Spanish

Custom Captions

350 East Center
Suite 201
Provo, UT 84606
VOICE 801-370-9878
FAX 801-370-9004
E-MAIL Alice Durrant customcaptions@qwest.net
WEB <http://www.customcaptions.com>
Type: Closed, Open
Method: Off-line
Languages: English, Spanish

Deluxe Digital Studios

Suite 300
2400 West Empire Avenue
Burbank, CA 91504
VOICE 818-565-4400
FAX 818-565-4425
E-MAIL Michele Cerra michele.cerra@softitler.com
E-MAIL Emily Stevens cmp_la@softitler.com
WEB: <http://www.softitler.com>
Types: Open, Closed
Method: Off-line
Languages: Over 50 languages

DP Captioning & Multimedia Solutions

PO Box 3581
Logan, UT 84323-3581
VOICE 435-753-8796
VOICE 800-819-1514
FAX 435-753-8796
E-MAIL Debbie P. Risk docaption@comcast.net
Types: Closed, Open
Method: Off-line
Languages: English, Spanish

eCaptions

1106 Second St. #282
Encinitas, CA 92024
VOICE 760-944-8304
FAX 760-944-8576
E-MAIL info@ecaptions.com
WEB <http://www.ecaptions.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: On-line, Off-line, Live display, Real-time, CART
Language: English

Henninger Media Services

2601-A Wilson Blvd.
Arlington, VA 22201
VOICE 888-243-3444
FAX 703-243-5697
E-MAIL Bruce Milton bmilton@henninger.com
WEB <http://www.henninger.com>
Types: Closed, Open
Method: Off-line
Languages: English, Spanish

JR Media Services, Inc.

2501 West Burbank Boulevard
Suite 311
Burbank, CA 91505
VOICE 818-557-0200
FAX 818-557-0201
E-MAIL Robert Troy rtroy@jrm mediaservices.com
WEB <http://www.jrm mediaservices.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: Off-line, On-line
Languages: Over 30 different languages, including European, Arabic, and Asian

K-SAR Video & DVD Productions

Utah State University
6589 Old Main Hill
Logan, UT 84322-6589
VOICE 435-797-2071
FAX 435-797-7344
E-MAIL Matt Lovell matt@cod2.usu.edu
WEB <http://www.ksar.usu.edu>
Types: Closed, Subtitles
Method: Off-line
Languages: English, German, Spanish, French, Russian, Japanese, and others

INS Court Reporting & Captioning

1123 SW Yamhill Street
Portland, OR 97205
TTY/VOICE 503-299-6200
VOICE 800-366-6201
E-MAIL Carol Studenmund
cstudenmund@inscourtreporting.com
WEB <http://www.inscourtreporting.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, French, Spanish, Swedish

The Media Access Group/WGBH Educational Foundation

125 Western Ave.
Boston, MA 02134
VOICE 617-300-5400
FAX 617-300-1026
E-MAIL Amy Stahl amy_stahl@wgbh.org
WEB
<http://www.main.wgbh.org/wgbh/pages/captioncenter/>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, Spanish

Media Captioning Services

2141 Palomar Airport Rd.
Suite 310
Carlsbad, CA 92009
TTY 760-431-8795
VOICE 760-431-2882
FAX 760-431-8735
E-MAIL mediacap3@earthlink.net
WEB <http://www.mediapcaptioning.com>
Type: Closed
Method: On-line
Language: English

National Capitol Captioning

820 South Lincoln St.
Arlington, VA 22204
VOICE 703-920-2400
FAX 703-997-0294
E-MAIL Chris Marquez chris@capitolcaptioning.com
WEB <http://www.capitolcaptioning.com>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Language: English, Spanish, French

National Captioning Institute

1900 Gallows Rd.
Suite 3000
Vienna, VA 22182
TTY/VOICE 703-917-7600
FAX 703-917-9853
E-MAIL mail@ncicap.org
WEB <http://www.ncicap.org>
Type: Closed
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, Spanish

**Official Realtime Captioning Associates
(see eCaptions)****Pacific Caption Company**

20506 West Walton Drive
Buckeye, AZ 85326
VOICE 623-792-7615
E-MAIL Patrick Skane patrick@pacificcaption.com
WEB <http://www.pacificcaption.com>
Types: Closed, Open
Method: Off-line
Languages: English, Spanish

Pilgrim Imaging, Inc.

1005 Butterworth Court
Stevensville, MD 21666
VOICE 800-874-5474
FAX 410-643-8602
E-MAIL Dennis Pilgrim captions@toad.net
WEB <http://www.pilgrimimaging.com>
WEB <http://www.captions.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Method: Off-line
Languages: English, Spanish

Precision Powerhouse

911 Second Street South
Minneapolis, MN 55415
VOICE 612-333-9111
FAX 612-332-9200
E-MAIL Dan Piepho dan@power-house.com
WEB <http://www.power-house.com>
Type: Open
Methods: Off-line, On-line
Language: English

RapidText

1801 Dove St.
Suite 101
Newport Beach, CA 92660
VOICE 949-399-9200
E-MAIL info@rapidtext.com
WEB <http://www.rapidtext.com>
Types: Closed, Open
Methods: Off-line, On-line
Languages: English, Spanish

VIA Communications

1997 NE 150th Street
North Miami, FL 33181
VOICE 305-948-7300
FAX 305-948-6369
E-MAIL Dario Fuenmayor
mail@viacommunications.com
WEB <http://www.viacommunications.com>
Types: Closed, Subtitles
Method: Off-line
Languages: English, Spanish, Portuguese

Visual Audio Captioning, Inc.

8930 Glenbrook Rd.
Fairfax, VA 22031
VOICE 703-280-0040
TTY 703-280-0042
FAX 703-280-0043
E-MAIL Jeff Helminiak jeff@visualaudiocaptioning.com
WEB <http://www.visualaudiocaptioning.com>
Types: Closed, Open
Method: Off-line, On-line
Language: English, Spanish

Visual Data Media Services

145 West Magnolia Blvd.
Burbank, CA 91502-1722
VOICE 888-418-4782
VOICE 818-558-3363
FAX 818-558-3368
E-MAIL info@visualdatainc.com
WEB <http://www.visualdatainc.com>
Types: Closed, Subtitles
Method: Off-line
Languages: English, Spanish

Visual Sound, Inc.

1220 North Highland Avenue
Los Angeles, CA 90038
VOICE 323-962-5990
FAX 323-962-5992
E-MAIL Pilar Herrera pherrera@visualsoundinc.com
WEB <http://www.visualsoundinc.com>
Types: Closed, Subtitles
Method: Off-line
Languages: English and over 30+ languages

VITAC

101 Hillpointe Drive
Canonsburg, PA 15317-9503
TTY 724-514-4100
VOICE 800-278-4822
VOICE 724-514-4000
FAX 724-514-4111
E-MAIL info@vitac.com
WEB <http://www.vitac.com>
Types: Closed, Open, Subtitles
Methods: Off-line, On-line
Languages: Multilingual

Z Captions

119 Northway Rd.
Greenbelt, MD 20770
VOICE 301-345-3414
FAX 301-345-9792
E-MAIL Bronwyn Zurla lbzurla@aol.com
Types: Closed, Open, Subtitles
Method: Off-line
Language: English

参考資料 4

ウェブキャストのキャプション付与関連機器、ソフト企業

Company Name/Product	Product Type
<u>Advantage Software</u>	Offline (primarily realtime) captioning software
<u>Apple iMovie</u>	Subtitling
<u>ATI</u>	Multimedia product for the PC - includes a caption display feature
<u>Autocue</u>	Electronic newsroom
<u>Automated Data Systems, Inc.</u>	Electronic newsroom captioning software
<u>Belle Nuit Subtiter</u>	Subtitling software
<u>Broadcast Video Systems</u>	Decoder, vbi bridge for tv stations
<u>CaptionKeeper</u>	Converts TV captions to web captions
<u>CaptionKit</u>	Web captioning software
<u>Cavena</u>	Subtitling software [Europe]
<u>CCaption (Leapfrog)</u>	Commercial
<u>Cheetah International, Inc.</u>	Captioning and subtitling online and offline software
<u>Cinematic Captioning Systems</u>	Film captioning hardware
<u>Comprompter</u>	Electronic newsroom
<u>Compusult</u>	Large format closed caption display units
<u>Computer Prompting & Captioning</u>	Captioning, subtitling, and webcaptioning software
<u>CSpeech</u>	Internet captioning software
<u>Dictionary Jumpstart</u>	Realtime dictionary software
<u>Digital Theater Systems</u>	DTS-CSS Cinema Subtitling System
<u>EEG Enterprises</u>	Closed captioning encoders and decoders
<u>EnCaption</u>	Voice-recognition newsroom captioning
<u>Evertz</u>	Software, Encoders, Decoders

<u>EZTitles</u>	Subtitling software
<u>FAB Teletext & Subtitling Systems</u>	Subtitling software and hardware
<u>Geologic</u>	Subtitling software and hardware
<u>HiSoftware</u>	Software to caption multimedia files including Flash
<u>Image Logic</u>	Off-line captioning systems & encoders
<u>International Computers</u>	Encoders
<u>Jacosub</u>	Shareware for anime subtitling
<u>Link Electronics</u>	Encoders & Decoders
<u>Macromedia/NCAM</u>	Captioner for Flash. In Beta.
<u>MAGpie</u>	Multimedia software
<u>Norpak</u>	Encoders
<u>ProCap</u>	Offline captioning software
<u>ProCat</u>	Captioning software
<u>QuickTime Text Track</u>	Quicktime
<u>Rapidtext</u>	Captioning software
<u>RealText</u>	Captioning for RealPlayer files
<u>Sami</u>	Windows Media Player captions. Search on SAMI.
<u>Screen Subtitling</u>	Subtitling hardware and software
<u>SlickCaption</u>	Subtitling
<u>Soft Touch</u>	Encoders, decoders
<u>Softel Europe</u>	Subtitling and captioning software
<u>Softel USA</u>	Subtitling and captioning software
<u>Softni</u>	Subtitling/Captioning Software
<u>Speche Communications</u>	Web captioning software
<u>Spot Software</u>	Subtitling Software
<u>Stenograph</u>	Realtime captioning hardware and software
<u>Sysmedia</u>	Subtitling software
<u>TextGrabber</u>	Caption capture system

<u>TM Systems</u>	Subtitling and captioning software
<u>Ultech</u>	Encoders and Captioning Systems
<u>Unisay</u>	Captioning software and online processing
<u>United TTY</u>	Captioning Decoder
<u>Vela</u>	Encoders
<u>Xorbit Software</u>	Caption encoding systems

「字幕放送・手話放送についてのアンケート調査」へのご協力をお願い

2006年2月吉日
株式会社 三菱総合研究所

拝 啓 ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私ども(株)三菱総合研究所は、各種の世論調査、市場調査等を行っている調査研究機関です。

この度は、「字幕放送・手話放送についてのアンケート調査」にご協力頂きたくお願い申し上げます。

このアンケートは、総務省より委託を受けて実施中の調査の一環として実施するもので、我が国における視聴覚障害者向け放送サービスの利用実態を把握することで、今後の施策立案等に反映することを目的としております。

本調査の実施にあたっては、財団法人全日本聾啞連盟様及び社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会様のご協力を得て、各地区の聴覚障害者団体様より直接、皆様に本アンケート調査票を配布して頂いております。

弊社は皆様より頂いた回答の集計と分析のみを担当しております。ご回答頂いたアンケートの内容につきましては、すべて数字として統計的に処理を行います。

なお、本アンケート調査の具体的な配布先（回答者）の選定と実際の配布作業は、各地区の聴覚障害者団体様に実施して頂いているため、弊社は本アンケート調査票の送付先について一切の情報を得ておりません。

また、本アンケート調査票の質問項目の中では、個人が特定されるような質問は設定しておりません。

以上のことから、本アンケート調査を通じて、弊社が皆様の氏名や住所・連絡先などの個人情報を入力することは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、以上のような調査の主旨をご理解いただき、ご協力下さいますようお願い申し上げます。ご回答につきましては、調査用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒（料金受取人払い）に入れて、**2006年3月10日（金）まで**にご投函下さい。

末筆ながら、より一層のご健勝をお祈り申し上げます。

敬 具

アンケート調査に関するお問合せ先

〒100-8141 東京都千代田区大手町2丁目3番6号

株式会社三菱総合研究所 事業開発戦略グループ

担当：阪本

（連絡先：Tel03-3277-0584、Fax03-3277-0523、電子メール：daisuke@mri.co.jp）

本アンケート調査で対象としている字幕付き放送番組、手話付き放送番組とは以下のようなものです。

字幕付き放送番組とは現在、主に聴覚障害者向け放送サービスとして実施されているもので、通常のテレビ番組の画面の下に、その場面で話されている台詞等の字幕が付与される番組です。字幕放送番組における字幕は、専用デコーダー（テレビに内蔵されているものと、外付けのものがある）を利用しないと画面に表示されないものであり、誰でも見られるテロップ等（例えば、ニュース番組等でニュースの内容の一部や、バラエティ番組で出演者の台詞の一部が、画面下に表示されるもの）とは異なります。なお、最近では技術革新等によりニュース等の一部の生放送番組にもリアルタイムで字幕が付与されています。

手話付き放送番組とは、テレビ番組の画面に手話通訳者や手話キャスターが映り、その場面で話されている台詞等が手話に訳されて提供される番組です。専用受信機等は必要としません。手話付き放送も、聴覚障害者向け放送サービスとして実施されているものです。

なお、本アンケート調査では、地上波テレビ放送を対象としております。CATVの独自チャンネルやBS放送、CS放送は対象にしておりません。特に、特定非営利活動法人CS障害者放送統一機構様が提供している「目で聴くテレビ」は対象としておりませんので、ご注意ください。

1 あなたが普段、どれくらいテレビを見ているかという点と、特に字幕や手話付き番組をどの程度見ているかを教えて下さい。

(1) あなたは平均すると一日にどれくらいテレビを見ていますか。該当するもの一つに を付けて下さい。
(平日と休日のそれぞれで、一つだけ選んで下さい)

平日

- ・一日に1時間以下
- ・一日に1～3時間くらい
- ・一日に4～6時間くらい
- ・一日に6時間以上
- ・テレビは見ない

休日

- ・一日に1時間以下
- ・一日に1～3時間くらい
- ・一日に4～6時間くらい
- ・一日に6時間以上
- ・テレビは見ない

(2) あなたが普段テレビを見る中で、字幕付き番組と手話番組を見ている時間は、どの程度ですか。該当するもの一つに をつけて下さい。

- ・ 見る番組のほとんど(9割程度以上の時間)は、手話付き番組か字幕付き番組である (3)へ
- ・ 見る番組の大半(5割～9割程度の時間)は、手話付き番組か字幕付き番組である (3)へ
- ・ 見る番組の中で、手話付き番組や字幕付き番組は半分以下(2割～5割程度の時間)である (3)へ
- ・ 見る番組が、手話付き番組か字幕付き番組であることは、ほとんど無い(0～2割程度の時間) 2へ

(3) 手話と字幕のどちらが付いている番組を見ることが多いですか。該当するもの一つに を付けて下さい。

- ・ 字幕付き番組のみ(手話付き番組は見ない)
- ・ 字幕付き番組の方が手話付き番組よりも多い
- ・ 字幕付き番組と手話付き番組は同じくらい
- ・ 手話付き番組の方が字幕付き番組よりも多い
- ・ 手話付き番組のみ(字幕付き番組は見ない)
- ・ 手話と字幕が両方付いている番組のみ

2 あなたが一日のうちでテレビをよく見る時間帯に を付けて下さい。(いくつ選んでも結構です)

平日

- ・ 午前0時～午前2時
- ・ 午前2時～午前5時
- ・ 午前5時～午前7時
- ・ 午前7時～午後0時
- ・ 午後0時～午後6時
- ・ 午後6時～午前0時

休日

- ・ 午前0時～午前2時
- ・ 午前2時～午前5時
- ・ 午前5時～午前7時
- ・ 午前7時～午後0時
- ・ 午後0時～午後6時
- ・ 午後6時～午前0時

3 あなたが普段みるテレビ番組のジャンルと、そのジャンルの中で字幕付き番組・手話付き番組がどの程度あるかを教えて下さい。

(1) あなたが普段よく見るテレビ番組のジャンルを、字幕・手話が付いている/いないに問わず、教えて下さい。(いくつ選んでも結構です) 次の表の(1)という列に を付けて下さい。

(2) あなたが(1)で選んだジャンルの番組を見るときは、字幕付き番組・手話付き番組である場合と、何も付いていない番組の場合の、両方があると思われます。あなたがこれらのジャンルの番組を見るとき、見ている時間のおよそ何%くらいを字幕付き・手話付きで見えていますか? 次の表の(1)で を付けたジャンルのそれぞれについて、(2)の列で、当該ジャンルの番組を字幕つきで見ている割合、手話付きで見ている割合を、ご記入下さい。

(3) (1)で選んだジャンルの番組について、例として具体的な番組名を教えてください。(字幕付き/手話付き番組であってもなくても構いません。) 下の表で、(1)で を付けたジャンルのそれぞれについて、(3)の列にご記入下さい。

番組ジャンル	(1) 良く見るジャンル(複数回答: を付ける)	(2) 良く見る番組ジャンル(を付けたもの)について:		(3) 良く見る番組の具体例((1)で を付けたジャンルごとに、具体的な番組名を一つ記入)
		字幕付き番組の割合	手話付き番組の割合	
ニュース・天気予報		約 %程度	約 %程度	
ニュース以外の報道番組(ワイドショー、報道解説番組、討論番組など)		約 %程度	約 %程度	
教育・教養番組(ドキュメンタリー等)		約 %程度	約 %程度	
スポーツ中継		約 %程度	約 %程度	
映画番組		約 %程度	約 %程度	
バラエティ番組(トーク、クイズ、お笑い、その他)		約 %程度	約 %程度	
上記以外の娯楽番組(ドラマ・アニメなど)		約 %程度	約 %程度	
その他()		約 %程度	約 %程度	

4 あなたが決まってみている字幕付き番組、手話付き番組があれば、具体的に番組名を教えてください。

	番組名(いくつでも)	放送局	視聴頻度
字幕付き番組			
手話付き番組			

5 あなたは、字幕や手話付き番組が増えれば、TVをもっと見るようになると思いますか。

(1) 字幕付き番組が増えれば、テレビを見る時間は増えると思いますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

かなり増えると思う 多少は増えると思う どちらとも言えない あまり増えないと思う 全く増えないと思う

上を挙げた理由や、上のものを挙げたときの条件・要望等についてコメントがありましたら教えてください。

--

(2) 手話付き番組が増えれば、テレビを見る時間は増えると思いますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

かなり増える と思う	多少は増える と思う	どちらとも 言えない	あまり増えない と思う	全く増えない と思う	

上を挙げた理由や、上のものを挙げたときの条件・要望等についてコメントがありましたら教えてください。

--

6 あなたが字幕や手話付き番組を増やして欲しい番組ジャンルについて、教えてください。

(1) 字幕または手話付き番組を増やして欲しいジャンルを、三つまで選び、下の表の(1)の列の該当欄に を付けて下さい。

(2) (1)で を付けたジャンルについて、強いて言えば字幕と手話のどちらを付けて欲しいか、下の表の(2)の列の中で該当する方に を付けて下さい。

	(1) 字幕・手話を増やして 欲しいジャンル (<u>3つまで</u>)	(2) 左で を付けたものについて 字幕・手話のどちらにして 欲しいか(どちらかに)
ニュース・天気予報		字幕 手話
ニュース以外の報道番組		字幕 手話
教育・教養番組(ドキュメンタリー等)		字幕 手話
スポーツ中継		字幕 手話
映画番組		字幕 手話
バラエティ番組(トーク、クイズ、お笑い等)		字幕 手話
上記以外の娯楽番組(ドラマ・アニメ等)		字幕 手話
その他(具体的に:)		字幕 手話

現在は字幕や手話が付いていない番組で、これらを付けて欲しい番組がありましたら、最大 3 つまで具体的に教えてください。

番組名(3つまで)	放送局	強いて言えば字幕・手話のどちら を付けて欲しいか(一つに)
		字幕 手話
		字幕 手話
		字幕 手話

7 字幕・手話の見易さ、判りやすさについて教えてください。

(1) 現在の字幕付き番組における字幕の見易さ(字の大きさ、明るさ、位置等)について、満足していますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

ほぼ満足 している	概ね満足 している	どちらとも 言えない	あまり満足 していない	全く満足 していない	

「あまり満足していない」、「全く満足していない」に を付けた方にお伺いします。満足されていない理由を教えてください。

(2) 現在の字幕付き番組における字幕の判りやすさ(表示されている文字は読み取れても、その意味が伝わるかという点)全般について、満足していますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

ほぼ満足 している	概ね満足 している	どちらとも 言えない	あまり満足 していない	全く満足 していない
--------------	--------------	---------------	----------------	---------------

「あまり満足していない」、「全く満足していない」に を付けた方にお伺いします。満足されていない理由を教えてください。

(3) 生放送の字幕付き番組の場合、字幕が画面に現れるのは、実際に喋られている時点から少し遅れてからとなります。あなたは、この時間差(タイムラグ)がどの程度気になりますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

非常に 気になる	若干 気になる	どちらとも 言えない	あまり気 にならない	全く気 にならない
-------------	------------	---------------	---------------	--------------

「非常に気になる」、「若干気になる」に を付けた方にお伺いします。その理由等を教えてください。

(4) 字幕付き番組における字幕について、要約せずにそのまま字幕表示すること(例えばニュース等の生放送番組で行われています)と、ある程度要約してから字幕表示すること(生放送以外のほとんどの番組で行われています)の、どちらが望ましいですか。該当するもの一つに を付けて下さい。

要約 無し	どちらという と要約無し	どちらとも 言えない	どちらという と要約付き	要約 付き
----------	-----------------	---------------	-----------------	----------

上記に を付けた理由を教えてください。

(5) 現在の手話付き番組における手話の見易さ・判りやすさについて、満足していますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

ほぼ満足 している	概ね満足 している	どちらとも 言えない	あまり満足 していない	全く満足 していない
--------------	--------------	---------------	----------------	---------------

「あまり満足していない」、「全く満足していない」に を付けた方にお伺いします。満足されていない理由を教えてください。

8 最近のテレビ番組では、専用受信機を使わなくても見られる文字情報（テロップ）が、番組の内容を説明したり演出効果を高めたりするために、使われています。こうした文字情報により番組内容をどの程度理解できていると感じていますか。それぞれで該当するところ一つに を付けて下さい。

(1) ニュースや情報番組の場合

ほぼ理解できて いると感じる	ある程度理解でき ていると感じる	どちらとも 言えない	あまり理解できて いないと感じる	全く理解できて いないと感じる
-------------------	---------------------	---------------	---------------------	--------------------

(2) 娯楽やバラエティ番組の場合

ほぼ理解できて いると感じる	ある程度理解でき ていると感じる	どちらとも 言えない	あまり理解できて いないと感じる	全く理解できて いないと感じる
-------------------	---------------------	---------------	---------------------	--------------------

9 緊急時の放送についてお伺いします。テレビ放送中に緊急ニュース（地震発生、天気の急変、重大ニュース等）が入った場合、テロップで第一報が流れ、場合によっては通常の番組を中断して臨時報道番組が放送されることがあります。あなたがテロップで第一報を見て、より詳しい情報を知りたいと思ったとき、普段はどのような対応をされていますか。最も該当するもの一つに を付けて下さい。

- ・ そのままテレビを見て（字幕無しでも）情報を得る
- ・ インターネットで情報を得る
- ・ 健常者（同居者等）にテレビを見てもらい、健常者から情報を得る
- ・ その他（)

10 受信機器についてお伺いします。受信機（デコーダー、または内蔵式の場合は本体）の利用しやすさについては、どのようにお考えですか。該当するもの一つに をつけて下さい。

ほぼ満足 している	概ね満足 している	どちらとも 言えない	あまり満足 していない	全く満足 していない
--------------	--------------	---------------	----------------	---------------

「あまり満足していない」、「全く満足していない」に を付けた方にお伺いします。満足されていない理由を教えてください。

「解説放送についてのアンケート調査」へのご協力をお願い

2006年2月吉日
株式会社 三菱総合研究所

拝啓 ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私ども(株)三菱総合研究所は、各種の世論調査、市場調査等を行っている調査研究機関です。

この度は、「解説放送についてのアンケート調査」にご協力頂きたくお願い申し上げます。

このアンケートは、総務省より委託を受けて実施中の調査の一環として実施するもので、我が国における視聴覚障害者向け放送サービスの利用実態を把握することで、今後の施策立案等に反映することを目的としております。

本調査の実施にあたっては、社会福祉法人日本盲人会連合様のご協力を得て、各地区の視覚障害者団体様より直接、皆様に本アンケート調査票を配布して頂いております。

弊社は皆様より頂いた回答の集計と分析のみを担当しております。ご回答頂いたアンケートの内容につきましては、すべて数字として統計的に処理を行います。

なお、本アンケート調査の具体的な配布先（回答者）の選定と実際の配布作業は、各地区の視覚障害者団体様に実施して頂いているため、弊社は本アンケート調査票の送付先について一切の情報を得ておりません。

また、本アンケート調査票の質問項目の中では、個人が特定されるような質問は設定しておりません。

以上のことから、本アンケート調査を通じて、弊社が皆様の氏名や住所・連絡先などの個人情報を入力することは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、以上のような調査の主旨をご理解いただき、ご協力下さいますようお願い申し上げます。ご回答につきましては、調査用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒（料金受取人払い）に入れて、**2006年3月10日（金）まで**にご投函下さい。

未筆ながら、より一層のご健勝をお祈り申し上げます。

アンケート調査に関するお問合せ先

〒100-8141 東京都千代田区大手町2丁目3番6号

株式会社三菱総合研究所 事業開発戦略グループ

担当：阪本

（連絡先：Tel03-3277-0584、Fax03-3277-0523、電子メール：daisuke@mri.co.jp）

本アンケート調査で述べる解説付き放送番組とは、現在、主に視覚障害者向け放送サービスとして実施されているもので、テレビ番組の副音声チャンネルで、その場面に映っているシーンの様子が音声により描写されて提供される番組を指します。受信するには、専用受信機は必要ではありませんが、ステレオや音声多重放送を受信できるテレビは必要となります。

また、本アンケート調査では、地上波テレビ放送を対象としております。ラジオ放送や、CS放送等は対象としておりませんので、ご注意ください。

1 あなたが普段、どのくらいテレビを利用しているかという点と、その中で解説付き番組をどの程度利用しているかを教えて下さい。

(1) あなたは平均すると一日にどれくらいテレビを利用していますか。該当するものを一つを挙げて下さい。(平日と休日のそれぞれで、一つだけ選んで下さい)

平日

- a 一日に1時間以下 b 一日に1~3時間くらい c 一日に4~6時間くらい
d 一日に6時間以上 e テレビは利用しない

休日

- a 一日に1時間以下 b 一日に1~3時間くらい c 一日に4~6時間くらい
d 一日に6時間以上 e テレビは利用しない

(2) あなたが普段テレビを利用する中で、解説付き番組を利用している時間は、どの程度ですか。該当するものを一つを挙げて下さい。

- a. 利用する番組のほとんど(9割程度以上の時間)は、解説が付いている
b. 利用する番組の大半(5割~9割程度の時間)には、解説が付いている
c. 利用する番組の中で、解説が付いているのは半分以下である(2割~5割程度の時間)
d. 利用する番組に、解説が付いていることは、ほとんど無い(0~2割程度の時間)

(3) 参考までに、ラジオについてもお伺いします。あなたは平均すると一日にどれくらいラジオを利用していますか。該当するものを一つを挙げて下さい。(平日と休日のそれぞれで、一つだけ選んで下さい)

平日

- a 一日に1時間以下 b 一日に1~3時間くらい c 一日に4~6時間くらい
d 一日に6時間以上 e ラジオは聴かない

休日

- a 一日に1時間以下 b 一日に1~3時間くらい c 一日に4~6時間くらい
d 一日に6時間以上 e ラジオは聴かない

2 あなたが一日のうちでテレビをよく利用する時間帯を挙げて下さい。

(1) あなたが一日のうちでテレビをよく利用する時間帯を挙げて下さい。(いくつ選んでも結構です)

平日

- a 午前0時~午前2時 b 午前2時~午前5時
c 午前5時~午前7時 d 午前7時~午後0時
e 午後0時~午後6時 f 午後6時~午前0時

休日

- a 午前0時~午前2時 b 午前2時~午前5時
c 午前5時~午前7時 d 午前7時~午後0時
e 午後0時~午後6時 f 午後6時~午前0時

(2) 参考までに、ラジオについてもお伺いします。あなたが一日のうちでラジオをよく利用する時間帯を挙げて下さい。(いくつ選んでも結構です)

平日

- a 午前0時~午前2時 b 午前2時~午前5時
c 午前5時~午前7時 d 午前7時~午後0時
e 午後0時~午後6時 f 午後6時~午前0時

休日

- a 午前0時~午前2時 b 午前2時~午前5時
c 午前5時~午前7時 d 午前7時~午後0時
e 午後0時~午後6時 f 午後6時~午前0時

3 あなたが普段よく利用するテレビ番組のジャンルを挙げて下さい。(いくつ選んでも結構です)
また、挙げて頂いたジャンルについて、よく見る番組の具体的な番組名を一つ、教えて下さい。

- a. ニュース・天気予報 (具体的番組の例 : _____)
- b. ニュース以外の報道番組 (ワイドショー、報道解説番組、討論番組など) (具体的番組の例 : _____)
- c. 教育・教養番組 (ドキュメンタリー等) (具体的番組の例 : _____)
- d. スポーツ中継 (具体的番組の例 : _____)
- e. 映画番組 (具体的番組の例 : _____)
- f. バラエティ番組 (トーク、クイズ、お笑い、その他) (具体的番組の例 : _____)
- g. 上記以外の娯楽番組 (ドラマ・アニメ等) (具体的番組の例 : _____)
- h. その他【具体的に : _____ 】

4 あなたが決まって利用している解説付き番組があれば、具体的に番組名を教えてください。

番組名 (いくつでも)	放送局	視聴頻度

5 あなたは解説付き番組が増えれば、テレビを利用する時間が増えると思いますか。該当するもの一つを挙げて下さい。

- a かなり増える
と思う
- b 多少は増える
と思う
- c どちらとも
言えない
- d あまり増えない
と思う
- e 全く増えない
と思う

上を挙げた理由や、上のものを挙げたときの条件・要望等についてコメントがありましたら教えてください。

6 あなたが解説付き番組を増やして欲しい番組ジャンルについて、教えてください。以下の表の中で、解説付き番組を増やして欲しいジャンルを 3つまで 選んで、挙げて下さい。

- a. ニュース・天気予報
- b. ニュース以外の報道番組 (ワイドショー、報道解説番組、討論番組など)
- c. 教育・教養番組 (ドキュメンタリー等)
- d. スポーツ中継
- e. 映画番組
- f. バラエティ番組 (トーク、クイズ、お笑い、その他)
- g. 上記以外の娯楽番組 (ドラマ・アニメ等)
- h. その他【具体的に : _____ 】

次に、現在は解説が付いていない番組で、解説を付けて欲しい番組があれば、最大3つまで具体的に教えてください。

番組名 (3つまで)	放送局	解説を付けて欲しい理由

7 解説の判りやすさについて教えてください。現在の解説付き番組における解説の判りやすさについて、満足していますか。該当するもの一つを挙げて下さい。

- a ほぼ満足
している
- b 概ね満足
している
- c どちらとも
言えない
- d あまり満足
していない
- e 全く満足
していない

「あまり満足していない」、「全く満足していない」を挙げた方にお伺いします。満足されていない理由を教えてください。

8 それでは、(解説放送番組の解説ではない)通常のテレビ番組(特にニュースやニュース解説番組)をお聴きになって、判りにくくて改善が必要と思うことがありますか。(例えば、アナウンサーによる「これ」「あれ」等の指示語の多用、外国人出演時の外国語が訳されないこと、等。)以下の中で該当するもの一つを挙げて下さい。

- | | | | | |
|--------------|--------------|-----------------|---------------------|--------------------|
| a よく
そう思う | b やや
そう思う | c どちらとも
言えない | d あまりそう
思ったことはない | e 全くそう
思ったことはない |
| | | | | |

上記を挙げた理由を教えてください。

9 あなたは、ある番組に解説が付いているか否かという点を、どのように探されていますか。最も当てはまるもの一つを挙げて下さい。

- a. 視覚障害者団体等からの情報
- b. 健常者(同居者等)からの情報
- c. 放送事業者から(番組宣伝、PR番組、放送事業者インターネットでの案内など)
- d. その他()

10 緊急時の放送についてお伺いします。テレビ放送中に緊急ニュース(地震発生、天気急変、重大ニュース等)が入った場合、テロップ及び警告音で第一報が流れ、場合によっては通常の番組を中断して臨時報道番組が放送されることがあります。

(1) あなたは、警告音で第一報が流されても、どんな内容の緊急放送か(例えばニュース速報なのか、気象関係速報なのか)判断できずに、不便に思ったことはありませんか。該当するもの一つを挙げて下さい。

- | | | | | |
|--------------|--------------|-----------------|---------------------|--------------------|
| a よく
そう思う | b やや
そう思う | c どちらとも
言えない | d あまりそう
思ったことはない | e 全くそう
思ったことはない |
| | | | | |

(2)あなたがテロップで第一報を得て、より詳しい情報を知りたいと思ったとき、普段はどのような対応をされていますか。最も該当するもの一つを挙げて下さい。

- a. そのままテレビを見て(解説無しでも)情報を得る
- b. ラジオにより情報を得る
- c. インターネットで情報を得る
- d. 健常者(同居者等)にテレビを見てもらい、健常者から情報を得る
- e. その他()

11 受信機器についてお伺いします。

(1)受信機(音声多重機能付きテレビ)の利用しやすさについては、どのようにお考えですか。該当するもの一つを挙げて下さい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|-----------------|------------------|-----------------|
| a ほぼ満足
している | b 概ね満足
している | c どちらとも
言えない | d あまり満足
していない | e 全く満足
していない |
| | | | | |

「あまり満足していない」、「全く満足していない」を挙げた方にお伺いします。満足されていない理由を教えてください。

(2) 受信機のリモコンの利用しやすさ（音声の副音声への切り替えの簡単さ）については、どのようにお考えですか。該当するものを一つを挙げて下さい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|-----------------|------------------|-----------------|
| a ほぼ満足
している | b 概ね満足
している | c どちらとも
言えない | d あまり満足
していない | e 全く満足
していない |
|----------------|----------------|-----------------|------------------|-----------------|

「あまり満足していない」、「全く満足していない」を挙げた方にお伺いします。満足されていない理由を教えてください。

12 解説放送について、その他に何かご意見があれば教えてください。

13 最後に、あなたご自身のことについて教えてください。それぞれについて該当する方を挙げて下さい。

- | | | | | | | | |
|------------------|------------|-------------|-----|-----|-----|-----|-------|
| (1) 性別 | 男性 | 女性 | | | | | |
| (2) 年齢 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
| (3) 居住地 | 北海道 | 宮城県 | 東京都 | 愛知県 | 大阪府 | 広島県 | 福岡県 |
| (4) パソコンの活用状況 | 活用している | 活用していない | | | | | |
| (5) インターネットの活用状況 | 活用している | 活用していない | | | | | |
| (6) 同居している健常者の有無 | 健常者の同居者が居る | 健常者の同居者は居ない | | | | | |

また、大変失礼ですが、視聴行動との関係があると思われるため、差し支えなければ以下の質問にもお答え下さい。

(7) よろしければ、あなたが視覚を失われた年齢を教えてください。(視聴行動との関係があると思われるため)

オくらい

(8) よろしければ、あなたの視覚障害の程度を教えてください。(視聴行動との関係があると思われるため)

級

(9) よろしければ、あなたの普段の生活が在宅中心（例えば自営業の方の場合等）か、外出中心（例えば外勤や学生の方の場合等）かを教えてください。(視聴行動との関係があると思われるため)

- | | | | | |
|---------------|---------------------|-----------------|---------------------|-------------|
| a 在宅が
ほとんど | b どちらかと言うと
在宅が多い | c どちらとも
言えない | d どちらかと言うと
外出が多い | e 外出が
多い |
|---------------|---------------------|-----------------|---------------------|-------------|

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

「字幕放送と解説放送についてのアンケート調査」へのご協力をお願い

2006年2月吉日
株式会社 三菱総合研究所

今回のアンケートは、高齢化社会において重要になる可能性が高い「字幕放送」及び「解説放送」についての、認知や利用実態を把握することです。

字幕付き放送番組とは以下のような番組を指します。

現在、主に聴覚障害者向け放送サービスとして実施されているもので、通常のテレビ番組の画面の下に、その場で話されている台詞等の字幕が付与される番組。字幕放送番組における字幕は、専用デコーダー（テレビに内蔵されているものと、外付けのものがある）を利用しないと画面に表示されないものであり、誰でも見られるテロップ（例えば、ニュース番組等でニュースの内容の一部や、バラエティ番組で出演者の台詞の一部が、画面下に表示されるもの）等とは異なる。最近では、技術革新等により、ニュース等の一部の生放送番組にもリアルタイムで字幕を付与することが可能になっている。なお、聴覚障害者向けの放送サービスとしては、他に「手話付き放送番組」（テレビ番組の画面に手話通訳者や手話キャスターが映り、その場で話されている内容を手話に訳して提供するもの）もあるが、本調査ではこの手話付き放送番組は対象としていない。

解説付き放送番組とは、以下のような番組を指します。

現在、主に視覚障害者向け放送サービスとして実施されているもので、テレビ番組の副音声チャンネルで、その画面に映っているシーンの様子が音声により描写されて提供される番組。受信するには、専用受信機は必要ないが、ステレオや音声多重放送を受信できるテレビは必要。

なお、本アンケート調査では、**地上波テレビ放送を**対象としております。BS、CS、CATV、ラジオ等は対象としておりません。

- 1 あなたの、普段のテレビ視聴時間と、字幕や手話付き番組をどの程度視聴しているかを教えてください。
(1) あなたの一日のテレビ視聴時間について伺います。該当するもの一つに を付けて下さい。(平日と休日のそれぞれで、一つだけ選んで下さい)

平日

- ・一日に1時間以下
- ・一日に1～3時間くらい
- ・一日に4～6時間くらい
- ・一日に6時間以上
- ・テレビは見ない

休日

- ・一日に1時間以下
- ・一日に1～3時間くらい
- ・一日に4～6時間くらい
- ・一日に6時間以上
- ・テレビは見ない

- 2 あなたが一日のうちでテレビをよく見る時間帯に を付けて下さい。(いくつ選んでも結構です)

平日

- ・午前0時～午前2時
- ・午前2時～午前5時
- ・午前5時～午前7時
- ・午前7時～午後0時
- ・午後0時～午後6時
- ・午後6時～午前0時

休日

- ・午前0時～午前2時
- ・午前2時～午前5時
- ・午前5時～午前7時
- ・午前7時～午後0時
- ・午後0時～午後6時
- ・午後6時～午前0時

- 3 あなたが普段みるテレビ番組のジャンルを教えてください。(いくつ選んでも結構です)

また、挙げて頂いたジャンルについて、よく見る番組の具体的な番組名を一つ、教えてください。

- ・ ニュース・天気予報 (具体的番組の例 : _____)
- ・ ニュース以外の報道番組 (ワイドショー、報道解説番組、討論番組など) (具体的番組の例 : _____)
- ・ 教育・教養番組 (ドキュメンタリー等) (具体的番組の例 : _____)
- ・ スポーツ中継 (具体的番組の例 : _____)
- ・ 映画番組 (具体的番組の例 : _____)
- ・ バラエティ番組 (トーク、クイズ、お笑い、その他) (具体的番組の例 : _____)
- ・ 上記以外の娯楽番組 (ドラマ・アニメ等) (具体的番組の例 : _____)
- ・ その他【具体的に : _____】

4 あなたは普段、テレビを視聴する時に、音声の聞き取りにくさや、画面の見にくさを感じることがありますか。

(1) 音声の聞き取りにくさについて、該当するもの一つに を付けて下さい。

普段から 聞き取り辛い	聞き取り辛い ことは多い	どちらとも 言えない	たまに聞き取り 辛いことがある	全く聞き取り 辛さはない
----------------	-----------------	---------------	--------------------	-----------------

(2) 画面の見辛さについて、該当するもの一つに を付けて下さい。

普段から 見辛い	見辛い ことは多い	どちらとも 言えない	たまに見辛い ことがある	全く見辛さ はない
-------------	--------------	---------------	-----------------	--------------

5 あなたは、字幕付き放送番組をどの程度ご存知でしたか。また利用されていますか。

(1) 字幕付き放送番組をご存知でしたか。該当するもの一つに を付けて下さい。

知っていた	聞いたことが あるという程度	全く 知らなかった
-------	-------------------	--------------

「知っていた」に を付けた方は、続く(2)～(5)にお答え下さい。「聞いたことがある程度」と「全く知らなかった」に付けた方は、(2)(3)を飛ばして、(4)(5)にお答え下さい。

(2) (1)で「知っていた」と答えた方のみ：どんな番組を字幕付きで見られるかという点は、ご存知ですか。該当するもの一つに を付けて下さい。

良く 知っている	ある程度は 知っている	どちらとも 言えない	あまり良く 知らない	全く 知らない
-------------	----------------	---------------	---------------	------------

(3) (1)で「知っていた」と答えた方のみ：見るためにどうすれば良いか知っていますか(専用受信機の必要性など)。該当するもの一つに を付けて下さい。

良く 知っている	ある程度は 知っている	どちらとも 言えない	あまり良く 知らない	全く 知らない
-------------	----------------	---------------	---------------	------------

(4) あなたは今後、字幕付き放送番組を視聴することに関心をお持ちですか。該当するもの一つに を付けて下さい。なお、受信するには、アナログテレビの場合は専用受信機(デコーダー)が必要です。デジタルテレビの場合、専用受信機は必要ではありません。

既に視聴している (受信可能)	今後視聴する 可能性はある	どちらとも 言えない	あまり関心 はない	全く関心 はない
--------------------	------------------	---------------	--------------	-------------

(5) 字幕付き放送番組を視聴するには、あなたのテレビがアナログ方式の場合は別途、専用受信機(デコーダー)が必要となります。一方、あなたのテレビがデジタル方式(地上波デジタル放送受信可能)な場合は、特に別にデコーダー等が無くても視聴は可能です。あなたが現在、字幕放送番組を受信できる状況にあるかを教えて下さい。該当するもの一つに を付けて下さい。

デジタルテレビ なので受信可能	アナログテレビだが専用受信機 を保有しているので受信可能	受信できない	判らない
--------------------	---------------------------------	--------	------

(6) あなたは字幕付き番組が増えれば、テレビを見る時間は増えると思いますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

かなり増える と思う	多少は増える と思う	どちらとも 言えない	あまり増えない と思う	全く増えない と思う
---------------	---------------	---------------	----------------	---------------

6 あなたは、解説付き放送番組をどの程度ご存知でしたか。また利用されていますか。

(1) 解説付き放送番組をご存知でしたか。該当するもの一つに を付けて下さい。

知っていた	聞いたことが あるという程度	全く 知らなかった
-------	-------------------	--------------

「知っていた」に を付けた方は、続く(2)～(5)にお答え下さい。「聞いたことがある程度」と「全く知らなかった」に を付けた方は、(2)(3)を飛ばして、(4)(5)にお答え下さい。

(2) (1)で「知っていた」と答えた方のみ： どんな番組を解説付きで見られるかという点は、ご存知ですか。該当するもの一つに を付けて下さい。

良く 知っている	ある程度は 知っている	どちらとも 言えない	あまり良く 知らない	全く 知らない
-------------	----------------	---------------	---------------	------------

(3) (1)で「知っていた」と答えた方のみ： 見るためにどうすれば良いか知っていますか(副音声での利用等)。該当するもの一つに を付けて下さい。

良く 知っている	ある程度は 知っている	どちらとも 言えない	あまり良く 知らない	全く 知らない
-------------	----------------	---------------	---------------	------------

(4) あなたは今後、解説付き放送番組を視聴することに関心をお持ちですか。該当するもの一つに を付けて下さい。

既に視聴 している	今後視聴する 可能性はある	どちらとも 言えない	あまり関心 はない	全く関心 はない
--------------	------------------	---------------	--------------	-------------

(5) 解説付き放送番組を視聴するには、音声多重放送を受信できるテレビ受信機(ステレオ放送に対応しているものなど)が必要になります。あなたが現在、解説放送番組を受信できる状況にあるかを教えて下さい。該当するもの一つに を付けて下さい。

受信可能(音声多重放送 に対応した受信機を保有)	受信できない(音声多重放送に 対応した受信機を保有していない)	判らない
-----------------------------	------------------------------------	------

(6) あなたは解説付き番組が増えれば、テレビを見る時間は増えると思いますか。該当するもの一つに を付けて下さい。

かなり増える と思う	多少は増える と思う	どちらとも 言えない	あまり増えない と思う	全く増えない と思う
---------------	---------------	---------------	----------------	---------------

7 字幕放送や解説放送について、その他に何かご意見があれば教えて下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答者特性については、質問はしない。(最初から、以下のようなカブリングで送付するため。)

- (1) 性別 男女 50%ずつ
- (2) 年齢 50代以上
- (3) 居住地 北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、福岡県から均等